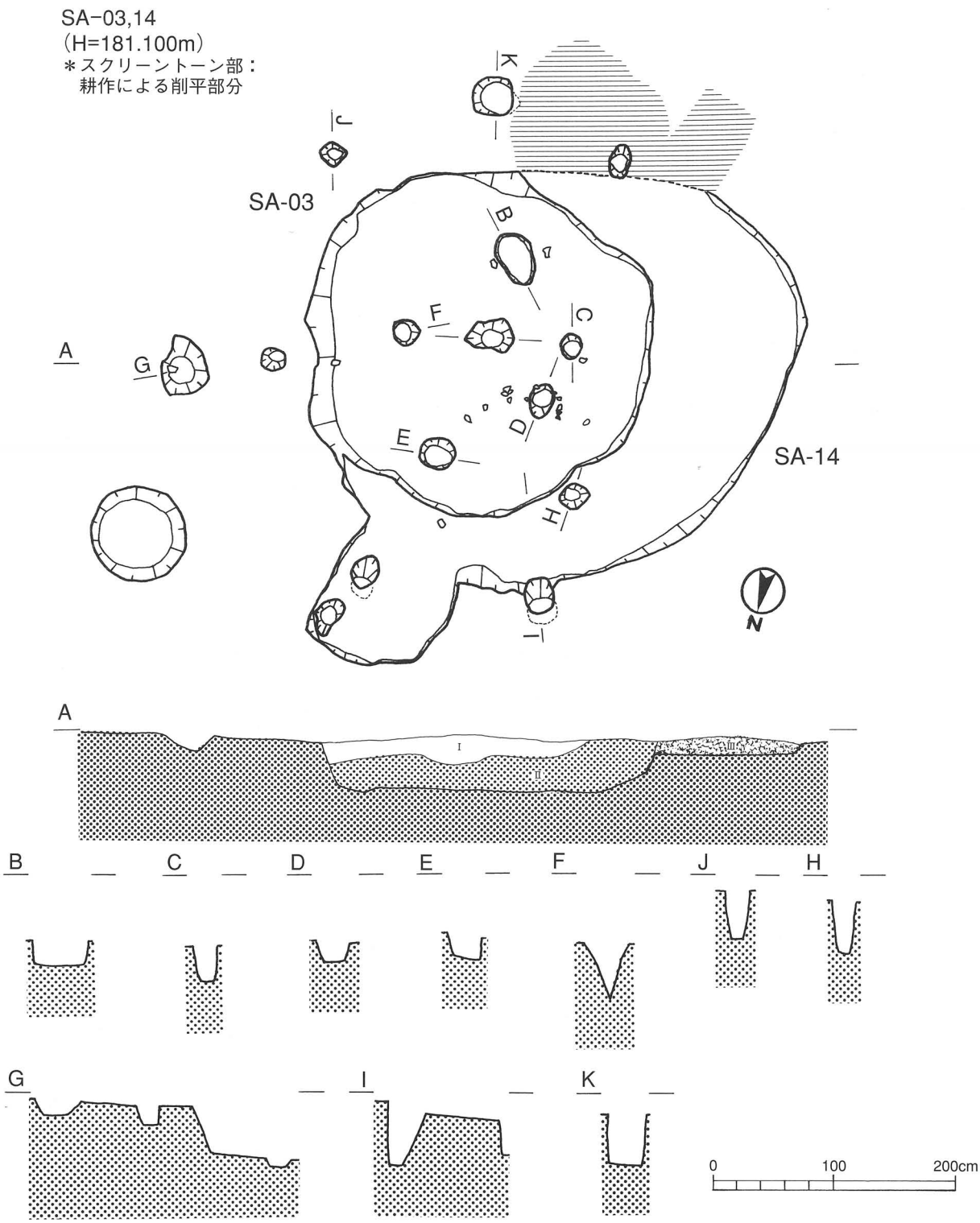


Ⅰ層　10YRにぶい黄褐4/3
硬く締まっている。水分・粘質なし。2mm大の風化Ahと思しき粒子を微量、1mm大の御池と思しき白色粒子を多量、ガラス質粒子を中量、炭化物片を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐2/3
Ⅰ層に比べ軟質である。水分帯びるが粘性殆どなし。3mm以下のAhと思しき粒子を多量、1mm大の御池と思しき白色粒子を中量、ガラス質粒子を多量含む。層中には土器が多量に混入していた。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2
極めて軟質である。層中にAhと思しきブロックを中量、御池と思しきブロックを多量含む。

第14図　竪穴住居実測図（2）

（ＳＡ－03）

Ｃ区南東部、（ＳＡ－04）の北西へ約4mの地点にあたる窪地遺構の遺構外縁で検出した。径約280cmの円形を呈する。遺構は（ＳＡ－14）と接しており、土層の切り合いから、（ＳＡ－14）よりも新しいことが確認された。遺構内から６本の柱穴を検出したほか、遺構周囲で検出された柱穴も伴う可能性が考えられる。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－04）

Ｃ区南東部、（ＳＡ－03、14）の南東へ約4mの地点にあたる窪地遺構の内側で検出した。長軸470cm、短軸465cmの隅丸方形を呈する。遺構内から７本の柱穴を検出した。なお、住居中央部のピットは、土層断面の観察から遺構埋没後に構築されたことが判明した。床面は粘質土層であり、凹凸が激しい。

（ＳＡ－05）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の南端にあたる窪地遺構の境界上で、（ＳＣ－44）を切るような状態で検出した。長軸450cm、短軸380cmの歪な楕円形を呈する。柱穴は、遺構内から７本、遺構境界に３本、遺構外に３本検出したが、ピットが多く分布する環状土坑群内にあるため、他の遺構に伴う可能性も考えられる。また、遺構東部からは多くの石皿を伴う土坑が検出されたが、土層断面では、住居構築時に既に埋没しており、竪穴住居とは時期差が考えらえる。床面は早期ローム層であった。遺構中央部から、凹線文を施文する岩崎式土器が、良好な状態で出土した。

（ＳＡ－06）

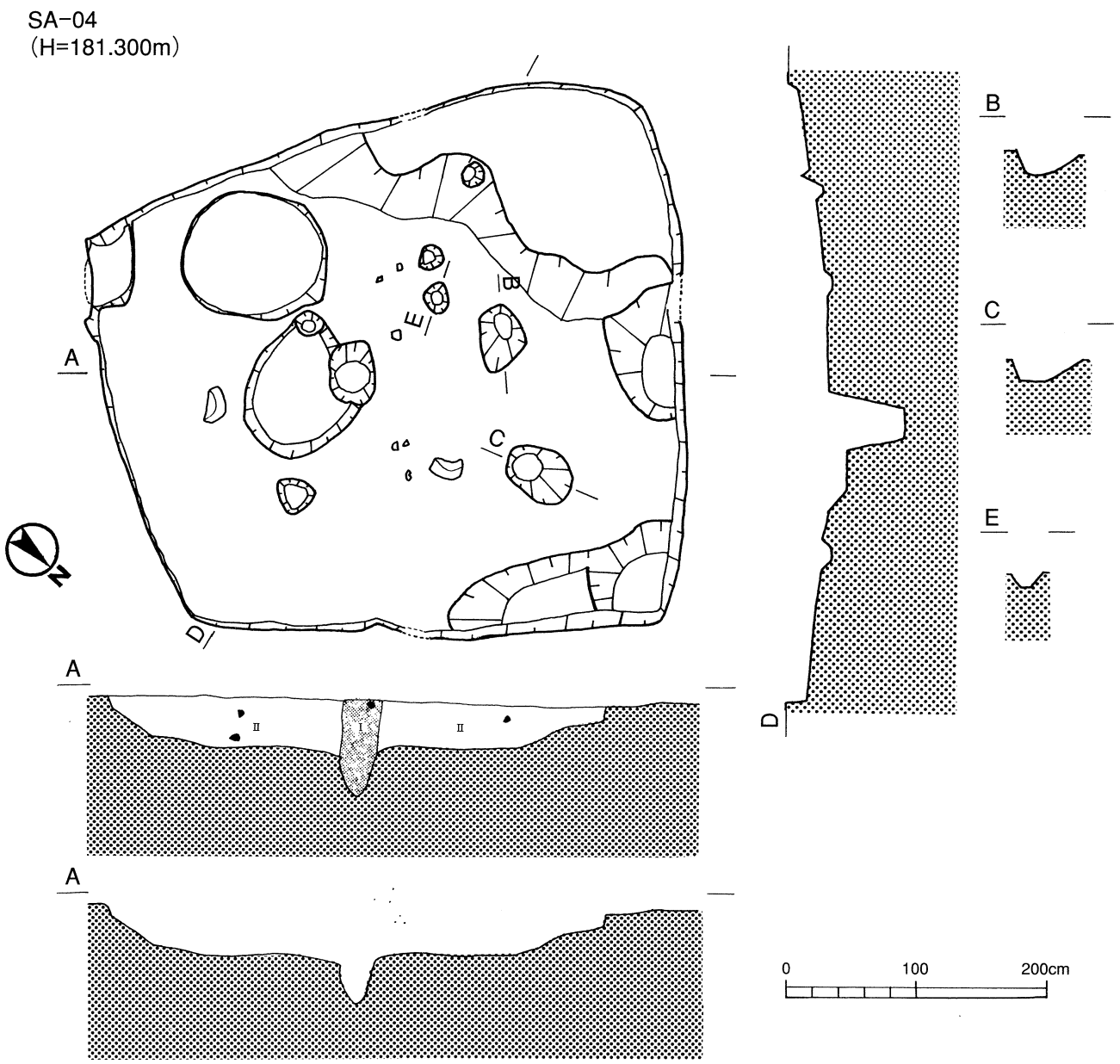
Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。遺構は（ＳＡ－46,48,49,51）と接しており、径510cmの円形を呈する。また、検出面における土色の違いから、重複する竪穴のいずれよりも新しいことを確認した。床面は早期ローム層である。遺構中央よりピットを伴う土坑を１基と、５本の柱穴を検出した。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－07）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西端部で検出した。長軸340cm、短軸300cmの隅丸方形を呈し、中央土坑は伴わないが、遺構内に３本の柱穴を伴う。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－08）

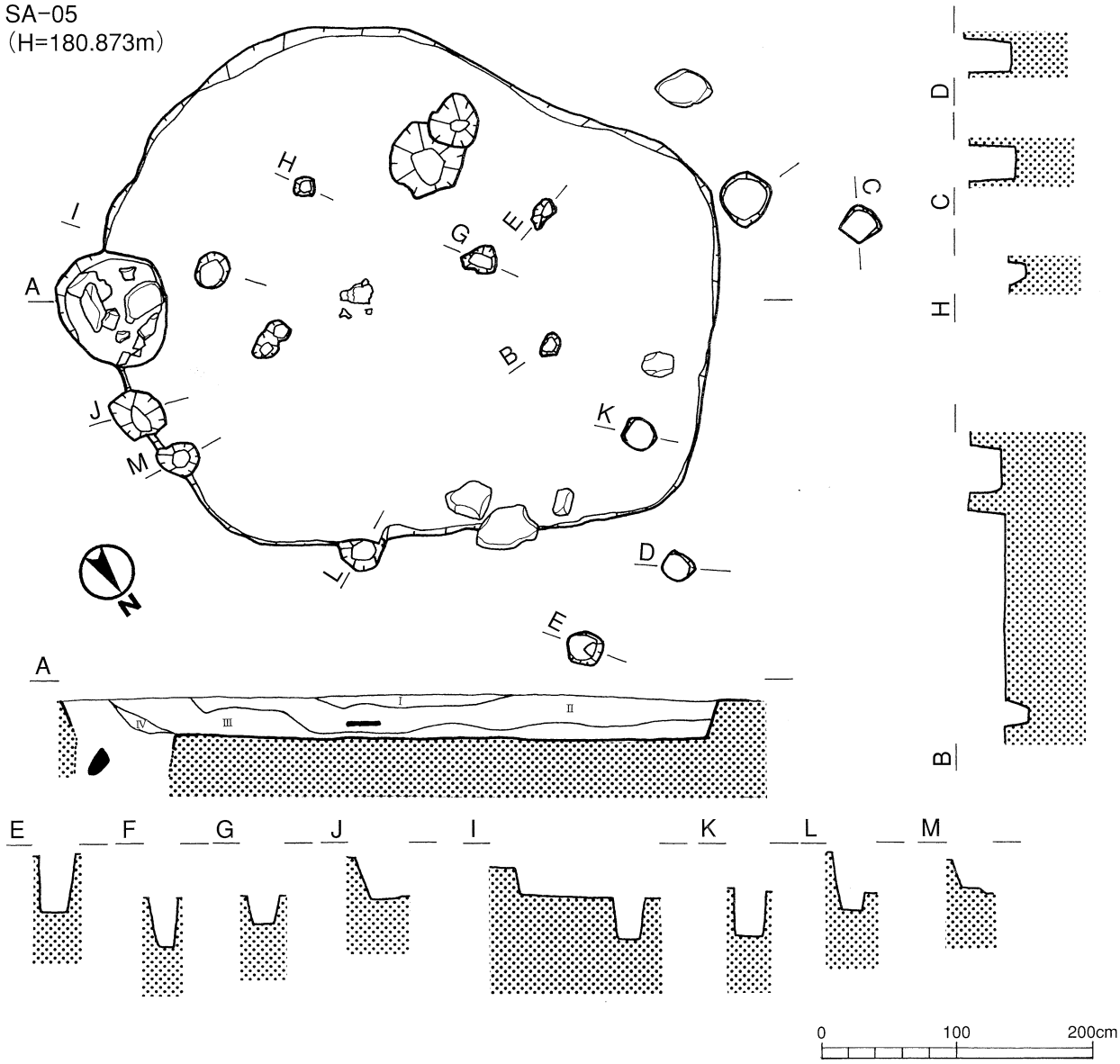
Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北東端部にあたる傾斜面上で検出した。長軸500cm、短軸450cmであるが、南西部が隅丸方形であるのに対し、北東部は円形である。床面から、両脇にピットを伴う浅い土坑と、柱穴を６本検出した。床面はアカホヤ火山灰層直下の牛のスネローム層上面であるが、遺構北部は僅かに段が高くなっている。覆土上層からは、残存状態の良好な岩崎式土器を数個体出土した。土層断面では確認することはできなかったが、平面形態や床面の段差から、複数の竪穴住居が重なり合っていた可能性も考えられる。



Ⅰ層　10YR暗褐3/1
硬く締まっている。粘性なし。ガラス質粒子を中量、1mm大の白色粒子を微量、2mm大の粘土粒子を多量、炭化物片を微量含む。住居を切っている事から、住居埋没後に掘られたものであり、粘土粒子以外はⅡ層と変わらない事から、掘られて間もなく埋められたと考えられる。

Ⅱ層　10YR暗褐3/3
硬く締まっている。粘性なし。ガラス質粒子を中量、御池と思しき1mm大の白色粒子を微量、炭化物片を少量含む。層中には焼礫を少量含む。

第15図　竪穴住居実測図（3）



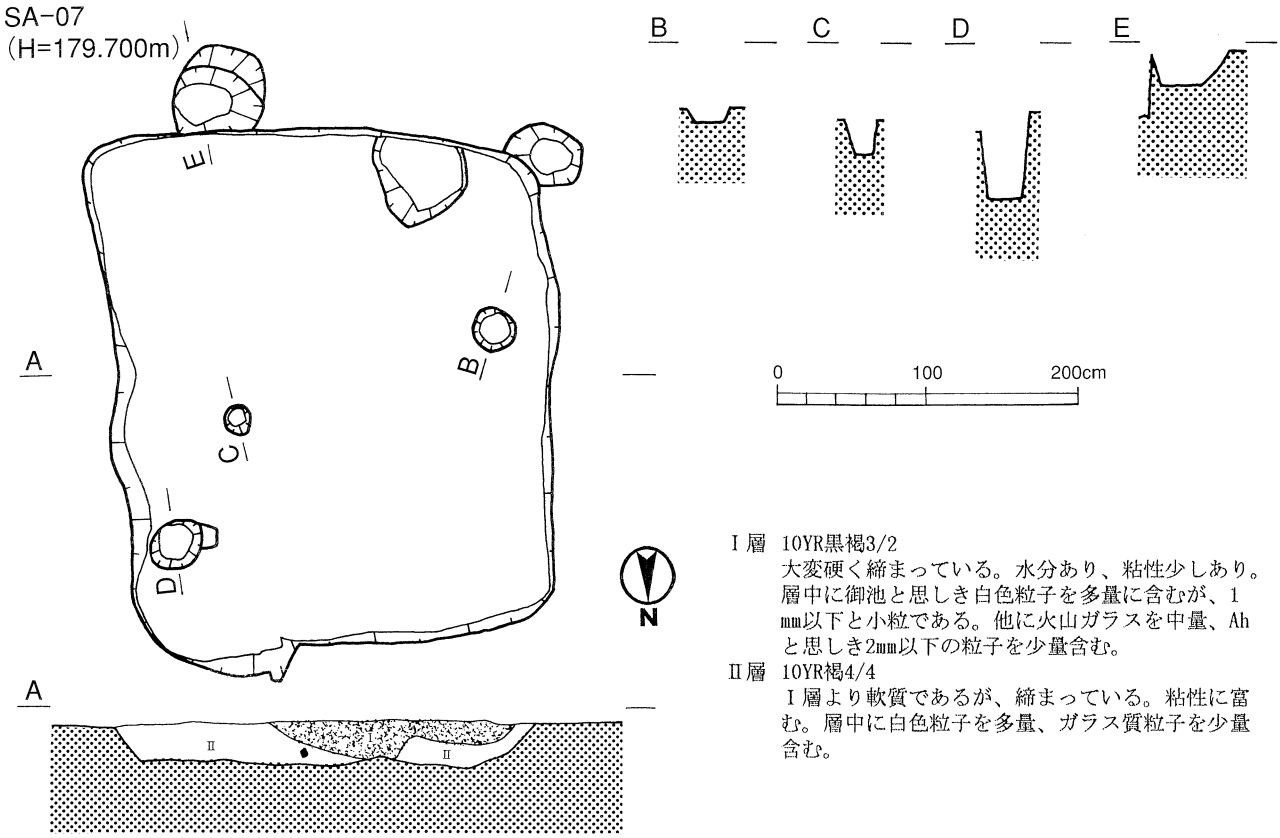
Ⅰ層　10YR暗褐3/3
大変硬く締まっている。水分殆どなく、粘質なし。3mm大のAhと思しき粒子を中量、御池と思しき白色粒子を中量、ガラス質粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐3/2
Ⅰ層と同じく大変硬く締まっている。水分少しあり、粘性なし。層中に、御池と思しき白色粒子を大量、Ahと思しき5mm以下の粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。層中には土器が多量混入していた。

Ⅲ層　10YR黒褐2/3
Ⅰ層と同じく大変硬く締まっている。水分あり、粘性殆どなし。層中に御池と思しき白色粒子を多量、スコリアを少量含む。土器は出土せず。

Ⅳ層　10YRにぶい黄褐4/3
大変硬く締まっている。層は斑紋を持つ。層中に白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。

第16図　竪穴住居実測図（4）



第17図　竪穴住居実測図（5）

（ＳＡ－09）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の東へやや外れた傾斜面上で検出した。長軸350cm、短軸310cmのやや歪な隅丸方形を呈する。遺構内に4本、遺構周辺に２本の柱穴を伴う。床面はアカホヤ火山灰層であるが、硬化は認められない。なお、遺構西側は、調査前に削平が行われている。

（ＳＡ－10）

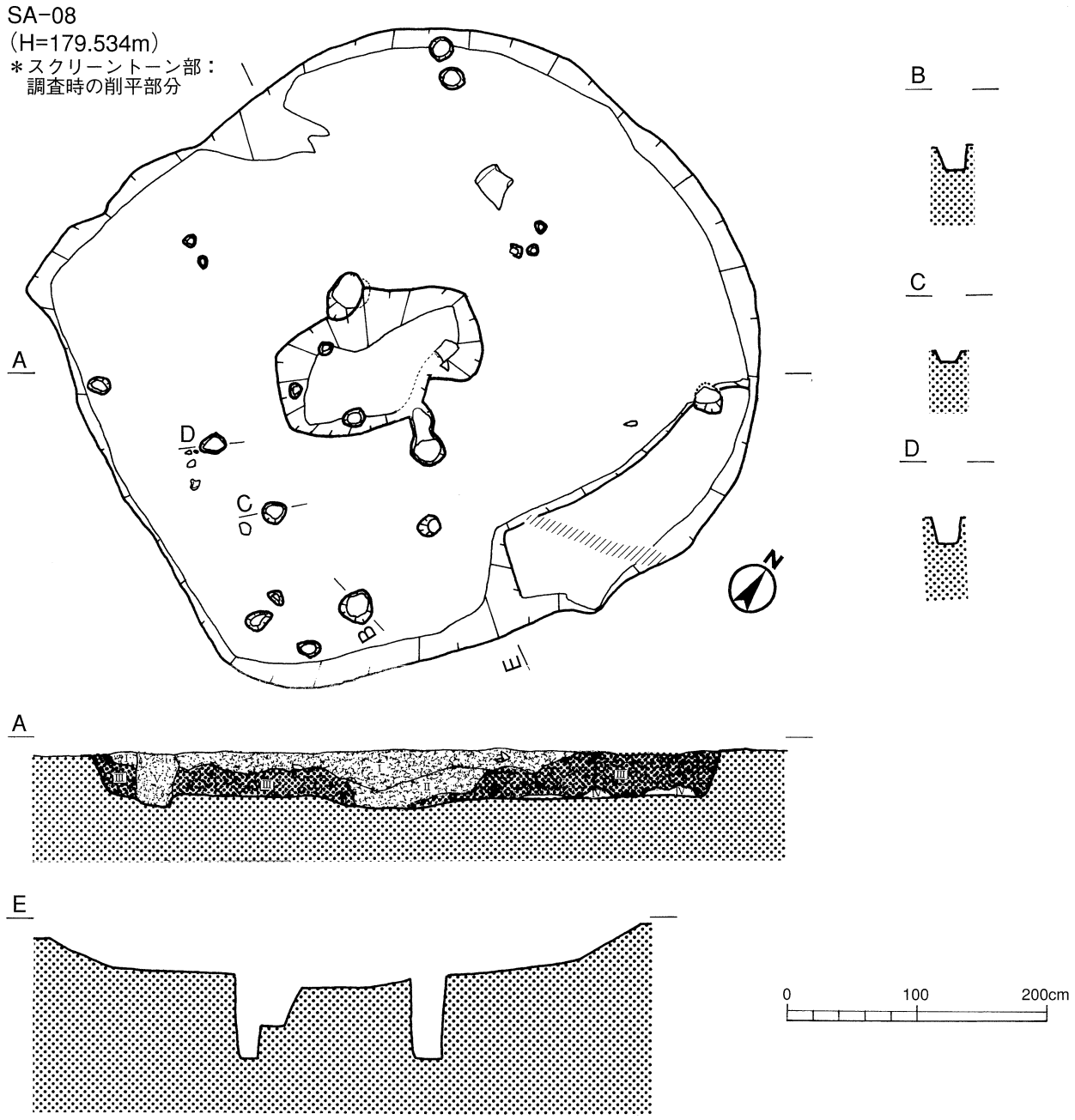
Ｃ区東部、東側竪穴住居群の南東部にあたる傾斜面上で検出した。長軸440cm、短軸390cmのやや歪な隅丸方形を呈する。柱穴は、遺構内から３本並んで検出されたほか、遺構北西部でも１本認められた。床面はアカホヤ火山灰層であるが、硬化は認められない。

（ＳＡ－11）

Ｃ区南東部、東側竪穴住居群の南東端部にあたる、窪地遺構の外側で検出した。径500cmのやや歪な円形を呈する。遺構内から中央土坑と柱穴を３本、遺構周辺から柱穴を10本検出した。中央土坑は、他の竪穴住居の中央土坑よりも大きく深い。このほか、竪穴住居東側と中央土坑南側の一角は、著しい硬化が認められた。床面は牛のスネローム層上面である。覆土からは、小型土器の底部や土器の脚台部など、他の竪穴とは異なる出土遺物も確認された。

（ＳＡ－12）

Ｃ区中央やや北側、北側竪穴住居群と東側竪穴住居群のほぼ中間にあたる、（ＳＡ－13）の南へ約４ｍの地点で検出した。長軸360cm、短軸320cmのやや歪な隅丸方形を呈する。



Ⅰ層　10YR灰黄褐5/2
締まっているが、混入物のため軟質である。御池と思しき白色粒子を大量、ガラス質粒子を少量、炭化物片を少量含む。
層中には、土器や角礫が多量に混入している。

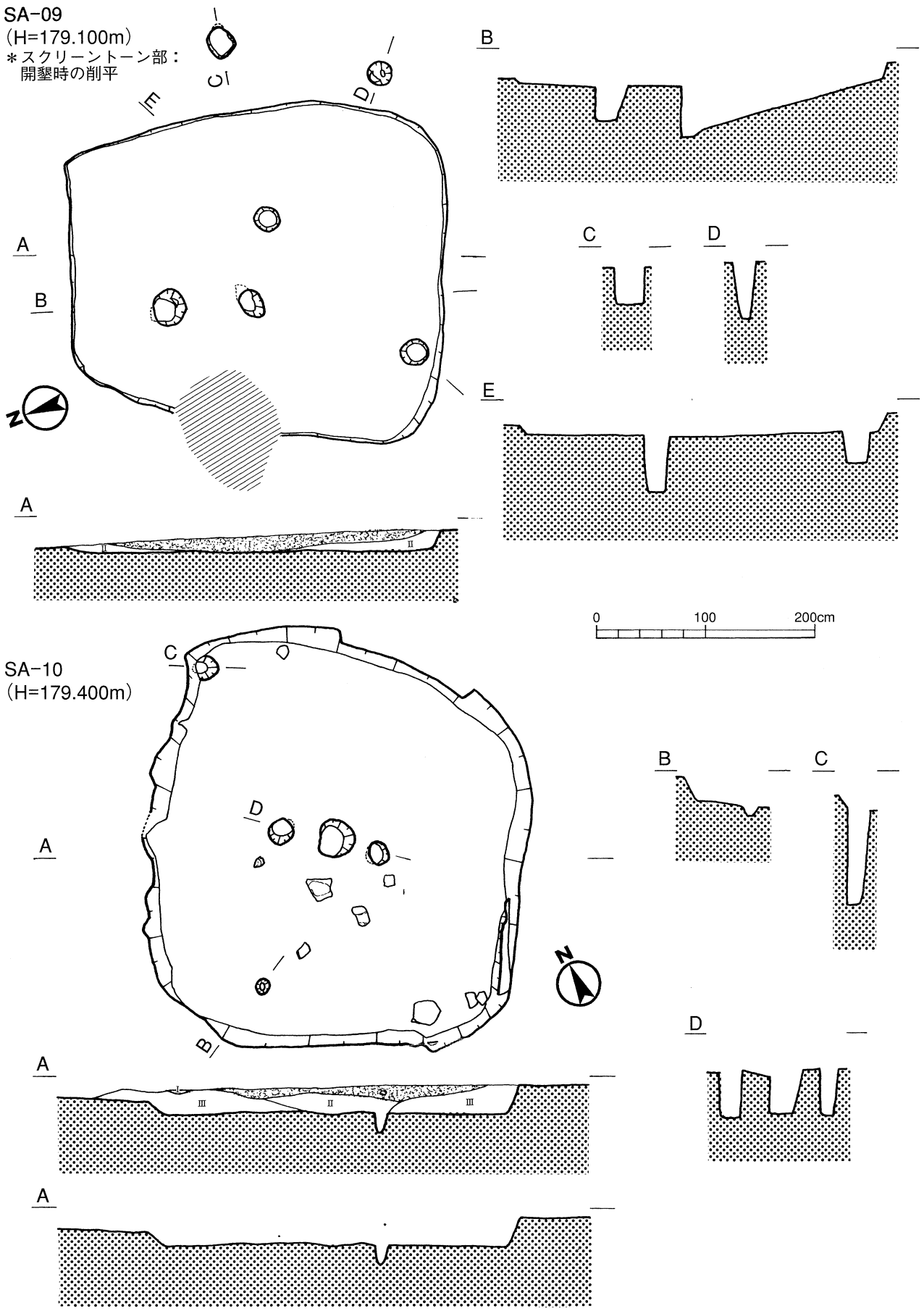
Ⅱ層　2.5Y黒2/1
硬く締まっている。粘性に富む。層中に、御池と思しき白色粒子を多量、Ahと思しき2～3mm大の粒子を少量、炭化物片を中量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2
硬く締まっている。層中に、御池と思しき白色粒子を多量、Ahと思しき大少のブロックを多量、ガラス質粒子を多量含む。

Ⅳ層　7.5YR黒1.7/1
層は軟質である。層中に、5mm大のAhブロックを少量、スコリアを中量混入する。

Ⅴ層　2.5Y黒2/1
層は硬く締まっている。層中に、御池と思しき白色粒子を多量、5mm大のAhブロックを微量含む。

第18図　竪穴住居実測図（6）



第19図　竪穴住居実測図（7）

表８　竪穴住居覆土注記（1）

SA-09
Ⅰ層　10YR黒2/1
層は締まっており、御池と思しき白色粒子を大量、Ahと思しき指頭大のブロックを少～微量、火山ガラスを中量、炭化物片を微量含む。他に土器、焼礫を多量含む。粘性はあまりない。
Ⅱ層　10YR黒2/1
層は著しく軟質であり、粘性に富む。層中にガラス質粒子を中量、Ahと思しき粒子を微量、御池と思しき粒子を微量含む。
SA-10
Ⅰ層　10YR黒2/1
層は締まっており、御池と思しき白色粒子を大量、Ahと思しき指頭大のブロックを少量含む。
他に土器、焼礫を多量含む。粘性はあまりない。
Ⅱ層　10YR黒褐2/3
極めて軟質であり、水分を含み、粘性に富む。層中に大小のAhと思しきブロックを少量、御池と思しき白色粒子を微量含む。遺物や礫は含まない。
Ⅲ層　10YR黒褐2/3
極めて軟質であり、水分を含み、粘性に富む。層中に大小のAhと思しきブロック、または粒子を少量含む。

遺構内から柱穴を１本検出した。また、床面付近から円礫等が多く出土した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－13）

Ｃ区北側、北側竪穴住居群と東側竪穴住居群のほぼ中間地点にあたる、（ＳＡ－12）の北へ約４ｍの地点で検出した。長軸380cm、短軸340cmの隅丸方形を呈する。遺構内から、中央土坑と２本の柱穴を検出した。土坑内を中心とした床面付近からは、礫が多く出土した。また、北壁の一角には、焼土の集積も認められた。

（ＳＡ－14）

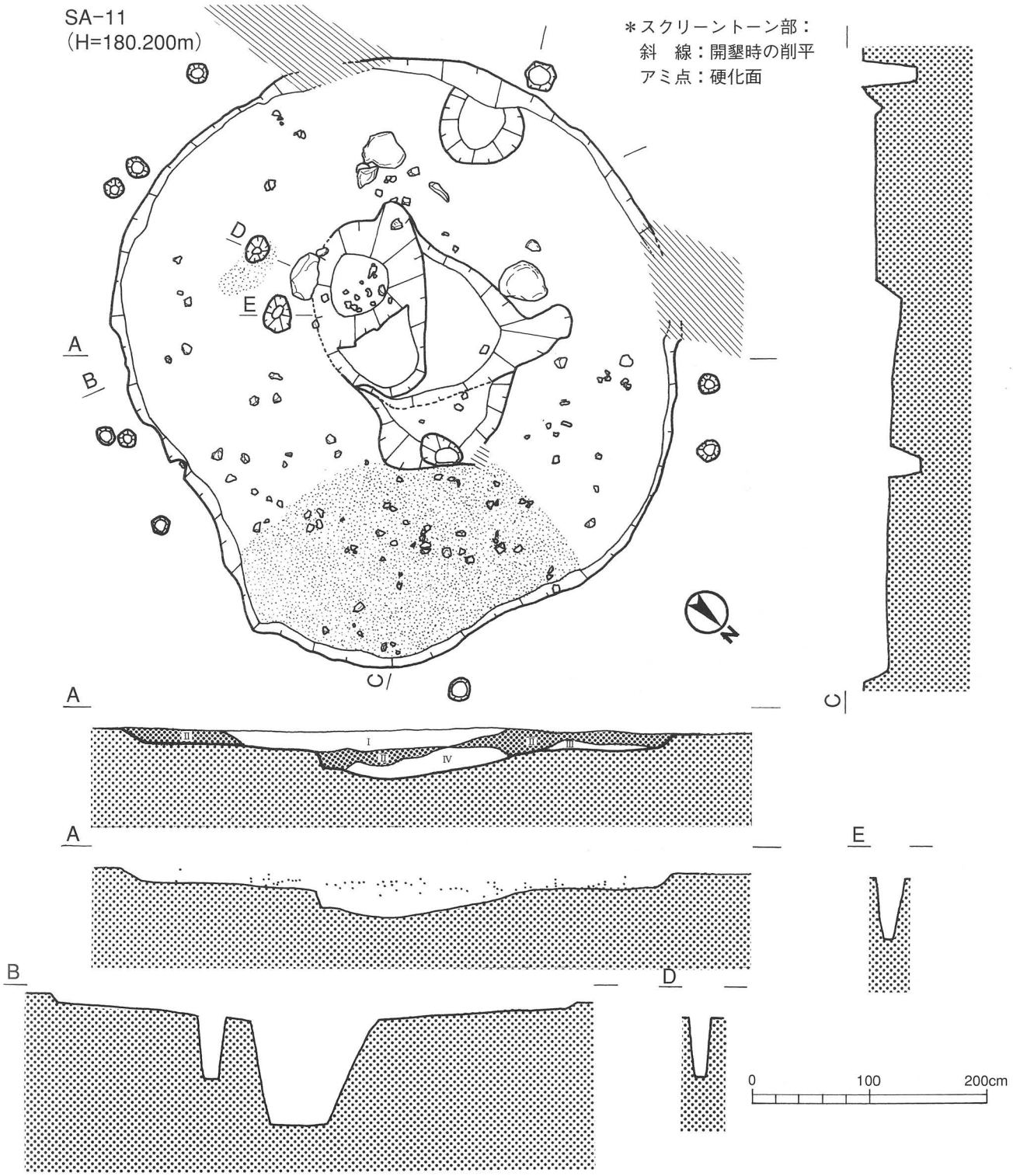
Ｃ区南東部の窪地遺構外縁部で検出した。遺構は（ＳＡ－03）と密に接しており、正確な形状は不明であるが、径約250cmのやや歪な円形を呈していたと思われる。また、遺構北部には一辺60cmの、やや歪な正方形を呈する突出部が設けられている。中央土坑の有無や柱穴の正確な数は不明であるが、遺構内に３本、境界に１本、遺構外に4本認められる。床面は牛のスネローム層であった。土層断面の観察から、（ＳＡ－03）よりも古いことを確認した。

（ＳＡ－15）

Ｃ区やや東部、東側竪穴住居群よりもやや北へ外れた地点で検出した。長軸360cm、短軸320cmの隅丸方形を呈する。遺構内には多くの土坑・ピットが認められるが、検出地点付近は土坑が密集していたため、この多くは住居と無関係である可能性が高い。ただし、中央部の土坑は、検出位置から竪穴住居に伴うと考えられる。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－16）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群北東部の傾斜面上で検出した。御池火山灰層を床面としていた住居北部は調査時に削平されており、平面形態や大きさは不明である。遺構内から、２本の柱穴を検出したほか、北部の浅い土坑は、本来は中央土坑であったと考えられる。（ＳＡ－59，60）と接するが、土層の残存状態が悪く、新旧関係は定かでない。



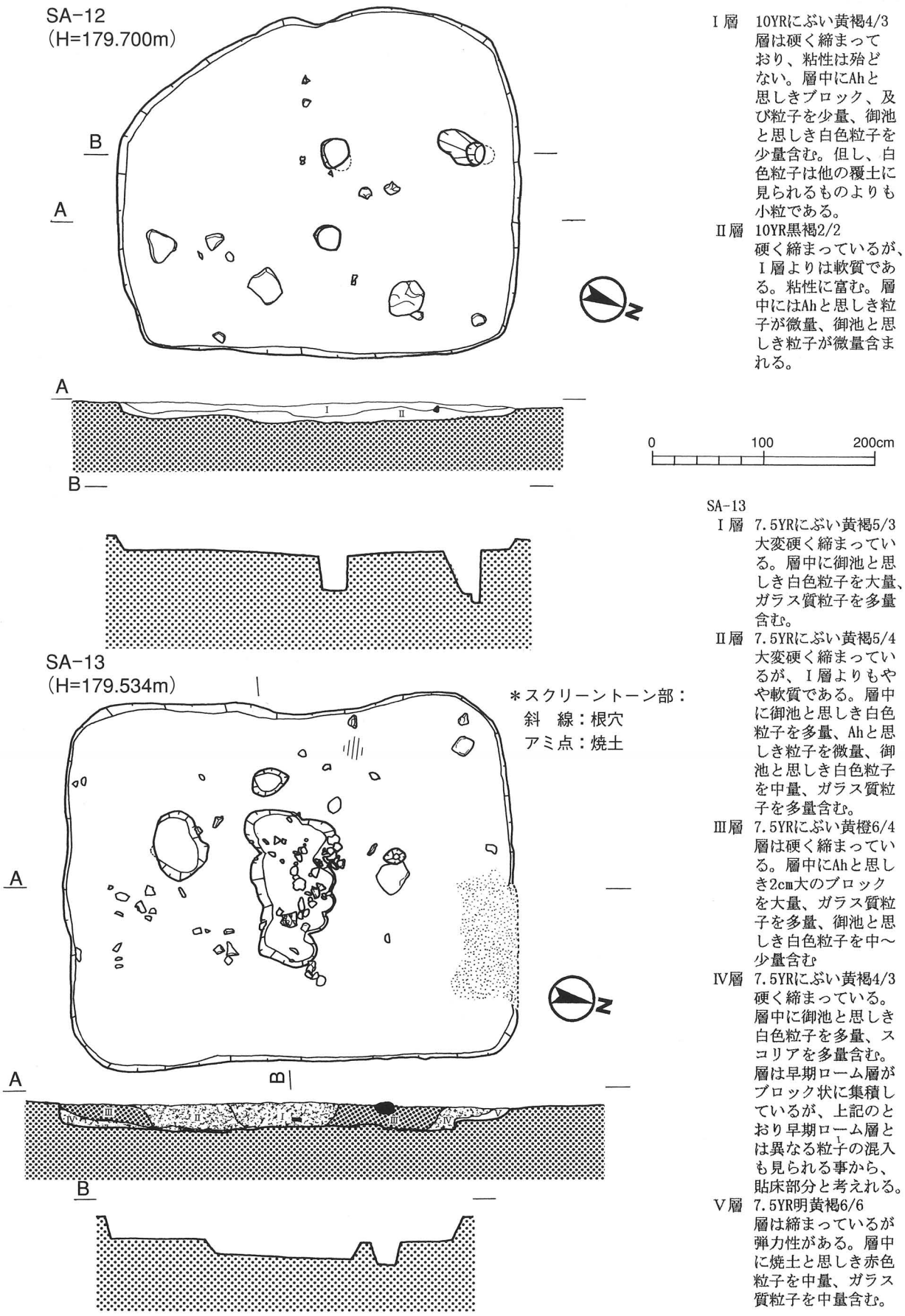
Ⅰ層　10YR黒褐3/2
硬く締まっており、粘性僅かにある。層中に、御池と思しき白色粒子を中量、炭化物片を中量、スコリアを少量、赤色粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっており、粘性はない。層中に、御池と思しき白色粒子を中量、炭化物片を少量、Ahと思しきブロック、若しくは粒子を多量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2
層はやや軟質であり、粘性に富む。層中に、Ahと思しきブロック及び粒子を中量、炭化物片を少量、赤色粒子を微量、御池と思しき白色粒子を中量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐2/3
層はやや硬く締まっており、粘性に富む。層中に白色粒子を中量、炭化物片を少量、スコリアを少量含む。

第20図　竪穴住居実測図（8）



SA-12

Ⅰ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっており、粘性は殆どない。層中にAhと思しきブロック、及び粒子を少量、御池と思しき白色粒子を少量含む。但し、白色粒子は他の覆土に見られるものよりも小粒である。

Ⅱ層　10YR黒褐2/2
硬く締まっているが、Ⅰ層よりは軟質である。粘性に富む。層中にはAhと思しき粒子が微量、御池と思しき粒子が微量含まれる。

SA-13

Ⅰ層　7.5YRにぶい黄褐5/3
大変硬く締まっている。層中に御池と思しき白色粒子を大量、ガラス質粒子を多量含む。

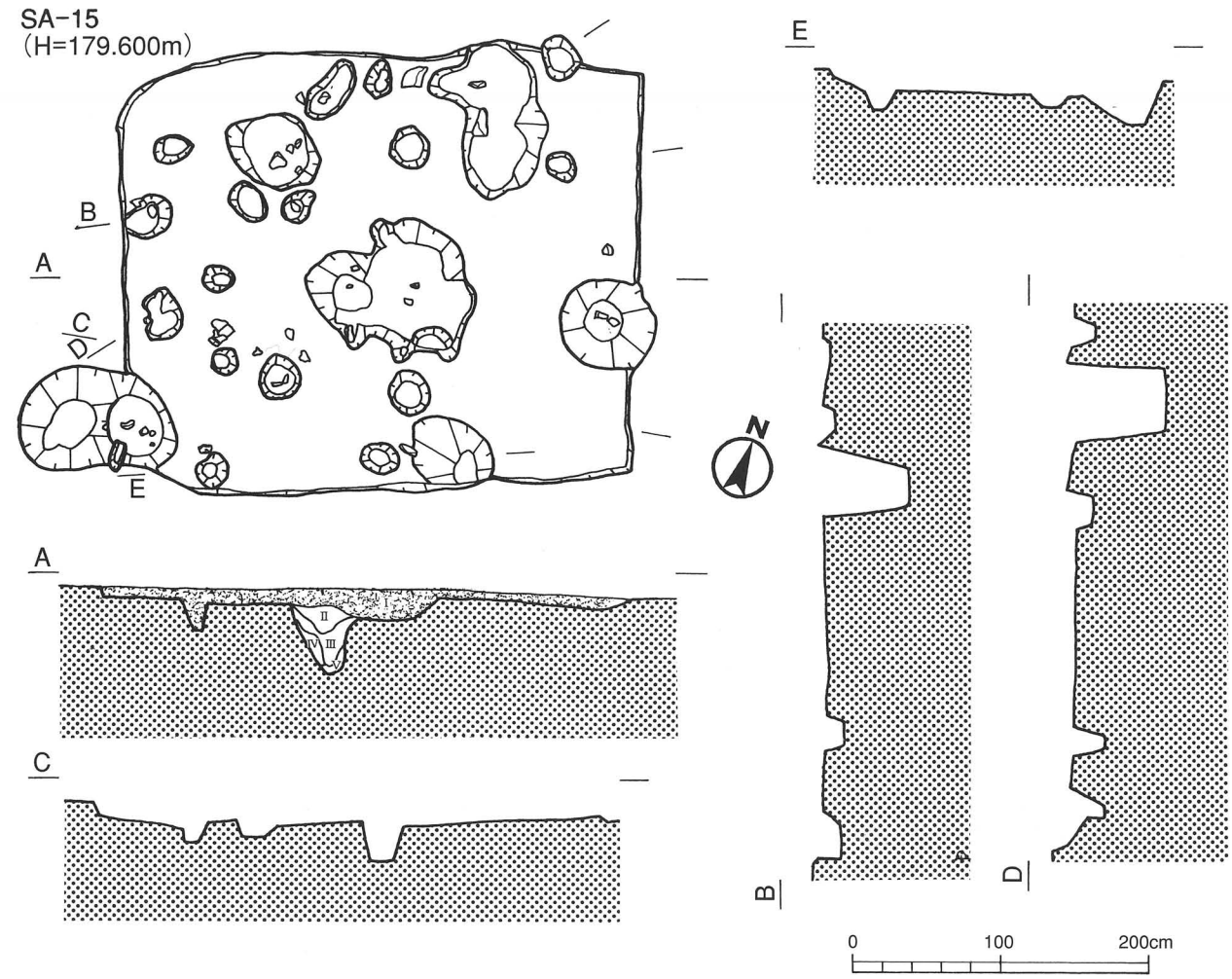
Ⅱ層　7.5YRにぶい黄褐5/4
大変硬く締まっているが、Ⅰ層よりもやや軟質である。層中に御池と思しき白色粒子を多量、Ahと思しき粒子を微量、御池と思しき白色粒子を中量、ガラス質粒子を多量含む。

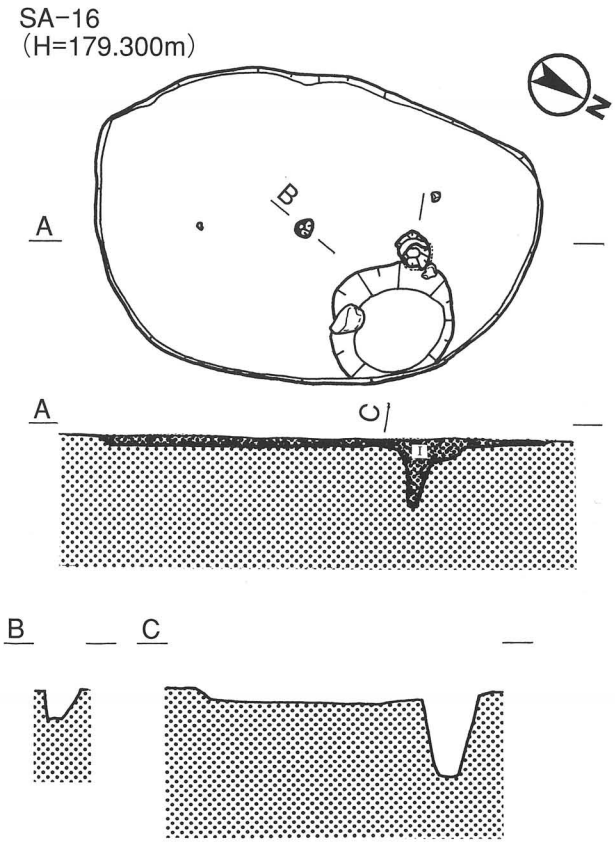
Ⅲ層　7.5YRにぶい黄橙6/4
層は硬く締まっている。層中にAhと思しき2cm大のブロックを大量、ガラス質粒子を多量、御池と思しき白色粒子を中～少量含む

Ⅳ層　7.5YRにぶい黄褐4/3
硬く締まっている。層中に御池と思しき白色粒子を多量、スコリアを多量含む。層は早期ローム層がブロック状に集積しているが、上記のとおり早期ローム層とは異なる粒子の混入も見られる事から、貼床部分と考えれる。

Ⅴ層　7.5YR明黄褐6/6
層は締まっているが弾力性がある。層中に焼土と思しき赤色粒子を中量、ガラス質粒子を中量含む。

第21図　竪穴住居実測図（9）





SA-15

Ⅰ層　10YR黒褐2/1
硬く締まっている。粘性は少しある。層中に御池と思しき白色粒子を大量、スコリアを少量、Ahと思しきブロックを微量、赤色粒子を少量、炭化物片を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒1.7/1
層は締まっているが、Ⅰ層よりも軟質である。層中に5mm大の黒色土のブロックを少量、Ahと思しき5～2mm大の粒子を少量、御池と思しき白色粒子を中量含む。

Ⅲ層　10YR暗褐2/2
層は締まっており、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を少量、Ahと思しき粒子を少量、炭化物片を微量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐3/2
硬く締まっており、粘性に富む。層中にAhと思しき粒子を少量、黒色土のブロックを少量、御池と思しき白色粒子を微量含む。

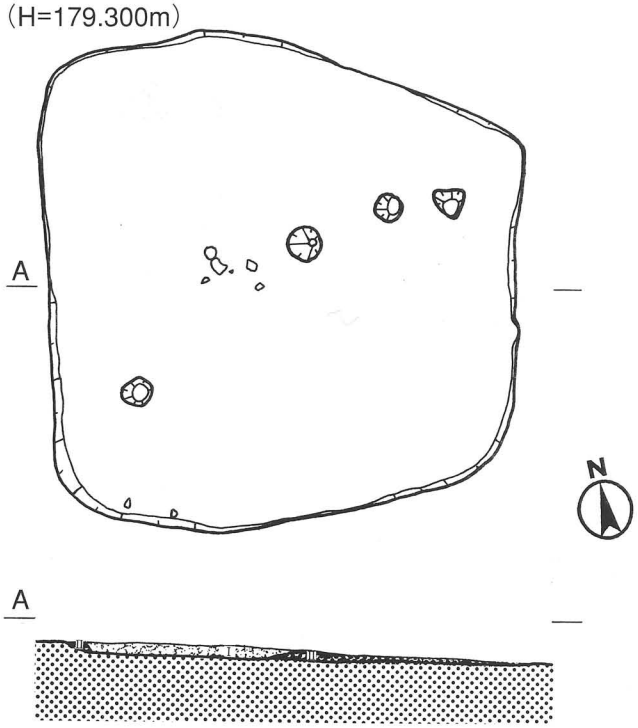
Ⅴ層　10YR黒褐3/2
軟質の早期ローム層が主体となる。粘性に富む。層中には、御池と思しき白色粒子とAhと思しき2～3mm大の粒子が微量含まれる。恐らく、住居に先行して土坑が構築された際、掘り上げられる事なく土坑底部に放置されたのであろう。

SA-16

Ⅰ層　10YR黒1.7/1
硬質である。層中に御池と思しき白色粒子を多量、炭化物片を微量、赤色粒子を微量、Ahと思しき3～1.5cm大のブロックを多量含む。

第22図　竪穴住居実測図（10）

SA-17
(H=179.300m)



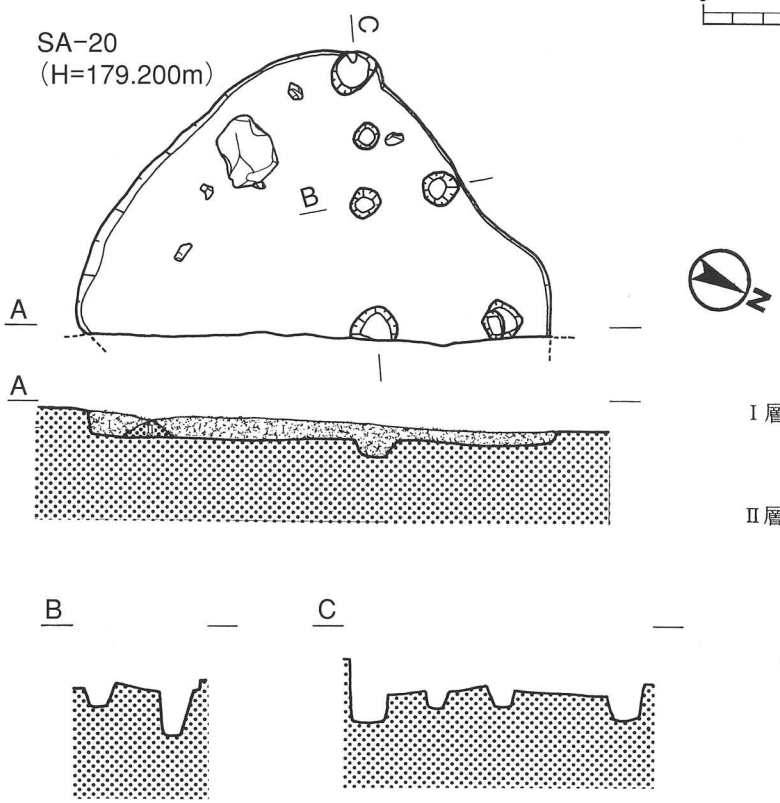
SA-19
(H=180.000m)

SA-17
Ⅰ層　10YR黒1.7/1
硬質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を大量、Ahと思しき2～3mm大の粒子を微量含む。
Ⅱ層　10YR黒1.7/1
硬質であり、粘性に富む。層中にAhと思しきブロックを大量、御池と思しき白色粒子を多量含む。

SA－19
Ⅰ層　7.5YR黒1.7/1
硬く締まっており、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を多量、スコリアを少量含む。この他、Ahと思しき大小のブロックが多く混入するが、これはAhまで掘り込んであり、貼床等が見られない事から、下層から浮き上がりである可能性もある。

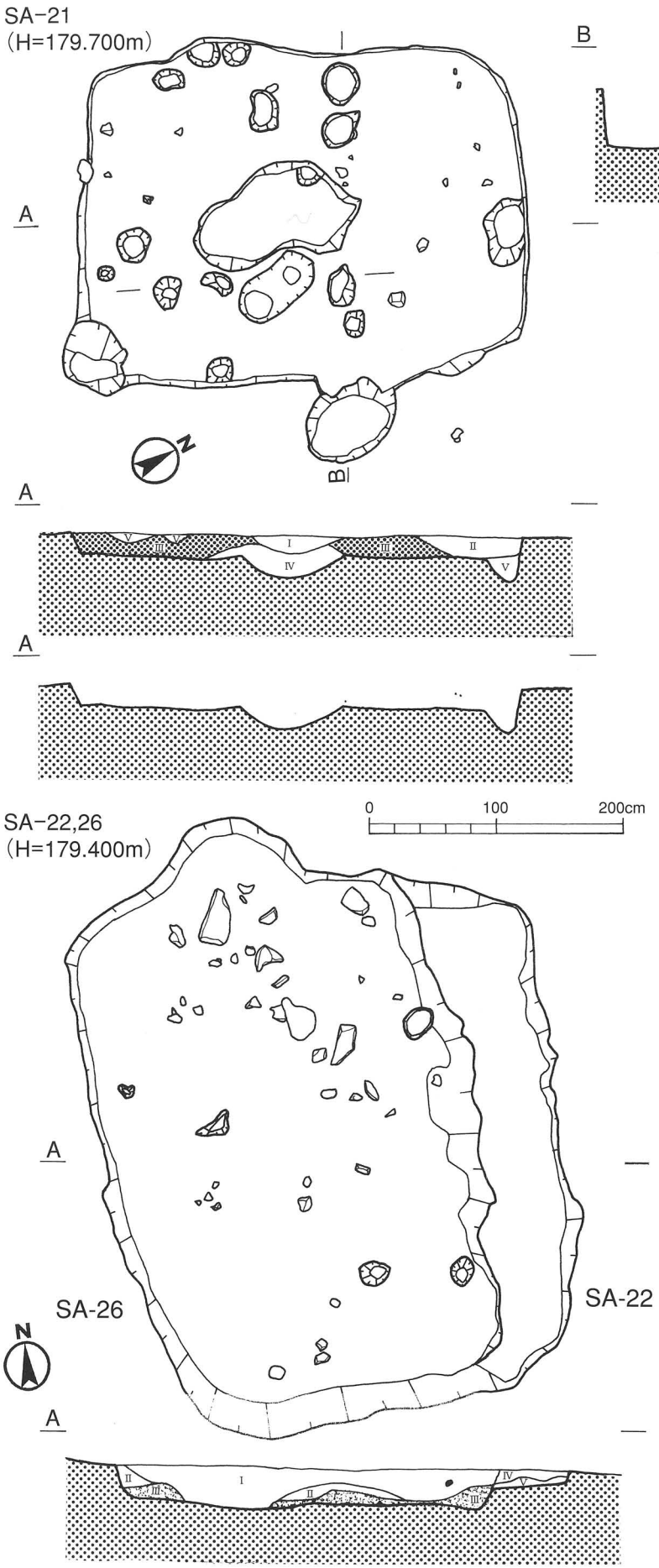
0　100　200cm

SA-20
(H=179.200m)



Ⅰ層　10YR黒1.7/1
硬く締まっており、粘性に富む。御池と思しき白色粒子を大量、ガラス質粒子を少量、炭化物片を微量含む。
Ⅱ層　10YR黒1.7/1
硬く締まっており、粘性に富む。御池と思しき白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、炭化物片を中量、Ahと思しき粒子を多量に含む。

第23図　竪穴住居実測図（11）



SA-21

Ⅰ層　7.5YR黒1.7/1
硬く締まっており、粘性に富む。層中にスコリアを中量、Ahと思しき1cm大のブロックを中量、ガラス質粒子を少量、炭化物片を微量含む。

Ⅱ層　10YR黒2/1
層はⅠ層より軟質であるが、締まっている。層中に3mmのAhと思しき粒子を少量、御池と思しき白色粒子を少量、ガラス質粒子を中量含む。層中は粒子の濃淡や主に堆積する黒色土の色調の変化により斑紋を形成する。粘性に富む。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2
層は軟質であり、粘性に富む。層中に5cm大のAhと思しきブロックを大量、御池と思しき白色粒子を少量、赤色粒子を微量含む。

Ⅳ層　10YR黒2/1
層は軟質である。層中に炭化物片を少量、御池と思しき白色粒子を微量含む。Ahと思しきブロックが中量含まれるが、ブロックは層の下部に沈んだ状態で確認できる。

Ⅴ層　10YR黒2/1
硬く締まっており、粘性に富む。御池と思しき白色粒子を微量、Ahと思しき5mm以下の粒子を少量、炭化物片を微量、スコリアを少量含む。

SA－22、26

Ⅰ層　10YR黒褐2/2 硬く締まり粘性なし。層中に御池らしき白色粒子を中量、ガラス質粒子多量、スコリア少量。

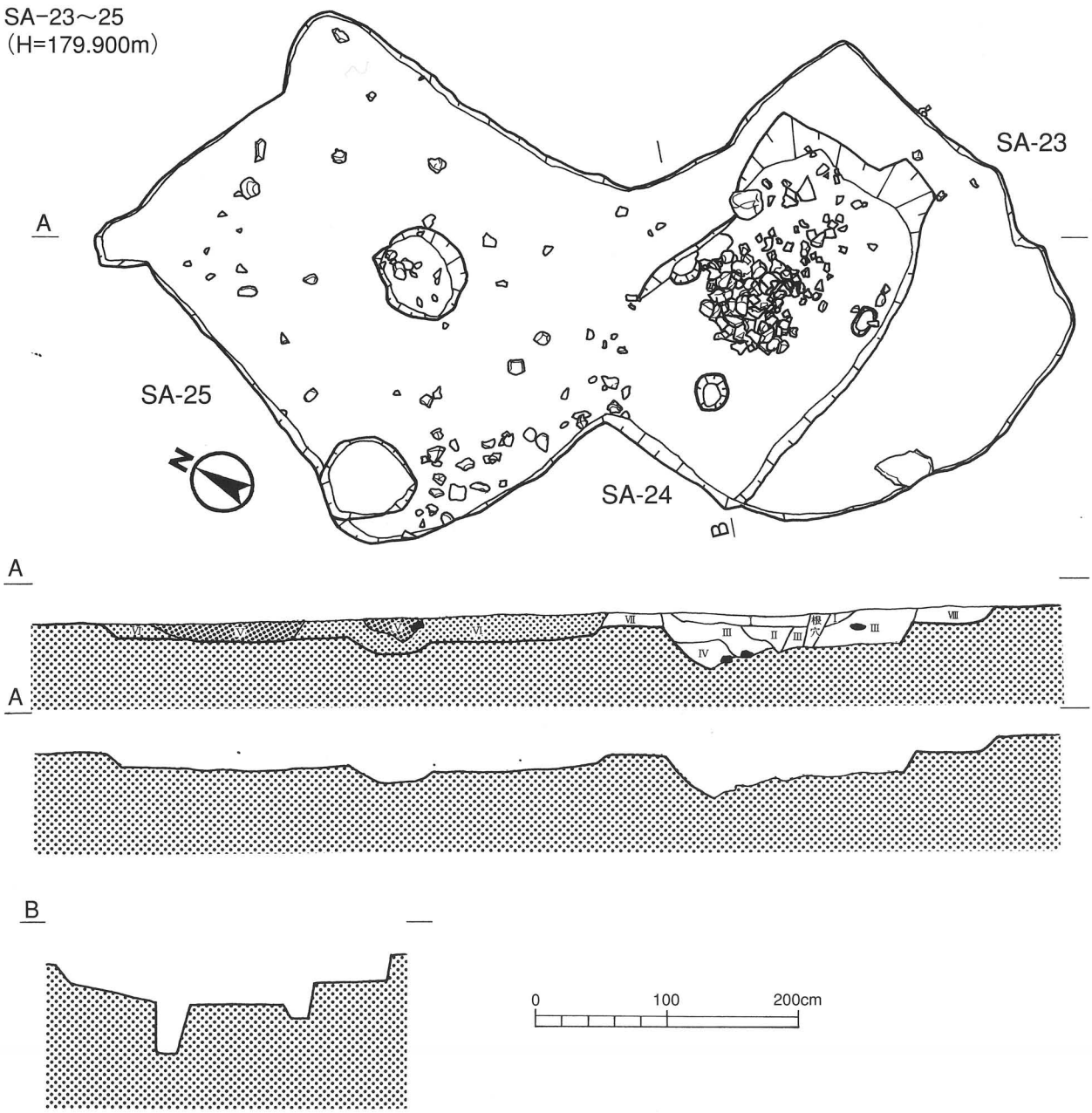
Ⅱ層　10YR黒褐2/3 硬く締まり粘性なし。層中に御池らしき白色粒子を少量、スコリア中量、炭化物片少量、Ahは濃淡あり。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2 硬く締まり粘性なし。層中に御池らしき白色粒子を多量、ガラス質粒子中量、スコリア少量、Ahと思しき3mm以下の粒子少量、赤色粒子を微量、炭化物片少量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐2/2 硬く粘性殆どなし。白色粒子中量、火山ガラス多量、スコリア少量含む。

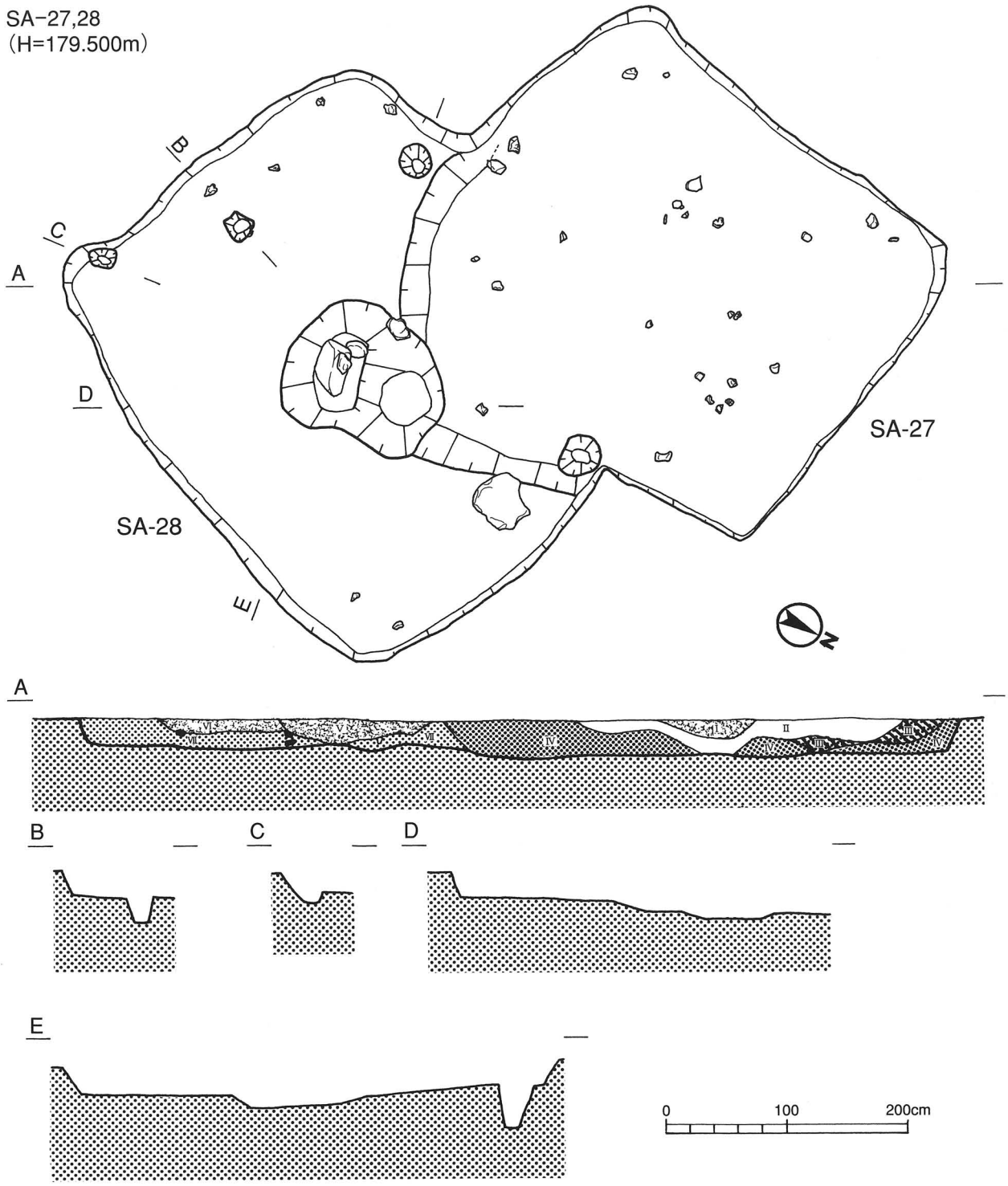
Ⅴ層　10YR黒褐2/3 硬く締まり粘性なし。白色粒子少量、スコリア中量、炭片少量、Ah粒子濃淡ありながら中量。

第24図　竪穴住居実測図（12）



Ⅰ層　10YR黒褐2/2
　硬く締まっている。粘性なし。層中にスコリアを中量、ガラス質粒子を中量、炭化物片を少量含む。
Ⅱ層　10YR褐4/4
　軟質である。粘性あり。Ahと思しき粒子に、黒色土が混入するような状態である。
Ⅲ層　10YR黒褐2/3
　層は硬く締まっている。層中にAhの粒子が高密に混入するが、その割合はⅡ層よりも低い。部分的に、黒色の1cm大のブロックが混入する。
Ⅳ層　10YR黒2/1
　硬く締まっており、粘性に富む。層中に5mm大のAhと思しきブロックが少量含まれる。
Ⅴ層　10YR黒褐3/2
　軟質であり、粘性に富む。層中に大小のAhと思しきブロックを大量に含む。他に黒色土のブロックも少量含む。
Ⅵ層　10YR黒褐2/3
　硬く締まっており、粘性あり。層中にAhの粒子を大量、御池と思しき白色粒子を少量、スコリアを中量含む。
Ⅶ層　10YR黒褐2/2
　硬く締まっており、粘性あり。層中にスコリアを多量、炭化物片を少量、ガラス質粒子を中量、御池と思しき白色粒子を少量、赤色粒子を微量含む。

第25図　竪穴住居実測図（13）



Ⅰ層　7.5YR黒2/1
　硬質であり、粘性はなし。層中にはスコリアを少量、赤色粒子を少量、御池と思しき白色粒子を大量に含む。なお、炭化物片も含むが、中には堅果類の種子も認められた。

Ⅱ層　10YR黒褐2/1
　硬質であり、粘性はなし。層中に御池と思しき白色粒子を中量、Ahと思しき5mm大のブロックを少量、スクリアを中量、赤色粒子を微量含む。なお、炭化物片も微量含むが、中には堅果類の種子も認められた。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2
　硬質であり、粘性僅かにあり。層中にAhと思しき粒子を多量、1.5cm大のブロックを少量、炭化物片を少量、1～3cmの早期ロームのブロックを多量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐2/1
　軟質で、粘性あり。層中にAhと思しき5～3mm大の粒子を中量、2cm大粒子を多量、御池と思しき白色粒子を少量含む。

第26図　竪穴住居実測図（14）

表９　竪穴住居覆土注記（２）

SA－27,28

Ⅴ層　10YR黒褐3/2
硬質で、粘性なし。御池と思しき白色粒子を多量、スクリアを少量、赤色粒子を微量、炭化物片を微量含む。

Ⅵ層　10YR黒褐3/2
軟質で、粘性なし。Ahと思しき5～3mmの粒子を少量、御池と思しき白色粒子を多量、スコリアを少量、赤色粒子を微量、炭化物片を微量含む。

Ⅶ層　2.5Y黒褐3/2
軟質であり、粘性に富む。Ahと思しき5cm大のブロックを少量、2cm大ブロックを少量、粒子大を多量含む。御池と思しき白色粒子を少量、ガラス質粒子を少量、炭化物片を少量含む。

SA－29～31,64,65

Ⅰ層　7.5YR黒1.7/1
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を多量、スコリアを微量含む。炭化物片を少量含むが、中には堅果類の種子も認められる。また、破砕した土器片を微量混入する。

Ⅱ層　7.5YR黒2/1
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を少量、スコリアを微量、Ahと思しき1cm大のブロックを少量含む。Ahの粒子は下位に行くほど高密になるが、アカホヤ面まで掘り下げられている事から、下位からの浮き上がりであろう。

Ⅲ層　7.5YR黒2/1
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を少量、スコリアを微量、Ahと思しき3cm大のブロックを中量、炭化物片を微量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐2/3
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を多量、スコリアを微量含む。炭化物片を少量含む。

Ⅴ層　10YR黒1.7/1
軟質であり、粘性に富む。層中にスコリアを少量、炭化物片を少量、御池と思しき白色粒子を多量含む。その他Ahと思しき火山灰と、黒色土のブロックが少量認められる。

Ⅵ層　7.5YR黒1.7/1
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を中量、スコリアを少量、炭化物片を微量含む。

Ⅶ層　10YR黒褐4/3
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を少量、AhとAh上位の黒色土がほぼ同量混入している。掘り過ぎである可能性も考慮したが、白色粒子の混入から、覆土と判断した。

Ⅷ層　7.5YR黒2/1
硬質であり、粘性に富む。御池と思しき白色粒子を中量、Ahと思しき5cm大のブロックを少量、粒子を多量、炭化物片を少量含む。

Ⅸ層　7.5YR黒1.7/1
軟質であり、粘性に富む。層中に御池と思しき白色粒子を中量、Ahと思しき3cm大のブロックを少量、粒子単位で、部分的な濃淡な形成しながら多量、赤化した角礫、及び砂利を少量含む。この他、Ahよりも色調の明るい火山灰の5～2cm大のブロック(阿多?)を少量含む。

（ＳＡ－17）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群北東部の傾斜面上で検出した。長軸330cm、短軸320cmのやや歪な隅丸方形を呈する。遺構内から４本の柱穴を検出した。

（ＳＡ－18）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群南東部の傾斜面上で検出した。遺構は（ＳＡ－19,52,53,54）と接しており、検出面の土色の違いから、これらのどれよりも新しいことが確認された。長軸560cm、短軸450cmの隅丸方形を呈する。遺構内から９本の柱穴及び浅い円形の土坑と両脇の小ピットの組み合わせを２箇所検出した。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－19）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群南東部の傾斜面上で検出した。御池火山灰層を床面としていた北部は調査時に削平されている。そのため、平面形態や大きさは不明である。（ＳＡ－18）と接するものの、土層の残存が悪く、新旧関係を確認するには至らなかった。

（ＳＡ－20）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群よりも南東へやや外れた地点で検出した。調査区境界にあたるため、調査した部分は西側のみである。そのため、隅丸方形を呈すると考えられるものの、大きさは不明である。遺構内から６本の柱穴が認められた。また、床面からは石皿が１点出土した。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－21）

Ｃ区中央部やや東側、北側竪穴住居群と東側竪穴住居群の中間にあたる地点で検出した。遺構内から多くの土坑やピットを検出したが、遺構周辺は土坑が密集しているため、多くは住居と無関係である可能性が高い。ただし遺構中央の土坑は、検出位置から竪穴住居に伴うと考えられる。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－22）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の南東端部で検出した。遺構は（ＳＡ－26）と接しており、土層の切り合いから、（ＳＡ－26）よりも古いことを確認した。大部分が失われているが、長軸は400cmであり、平面形態は隅丸方形であったと考えられる。遺構内に柱穴は認められないが、（ＳＡ－26）内の柱穴が本来は伴っていた可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－23）

Ｃ区中央部、窪地遺構内にあたる東側竪穴住居群北西部で検出した。遺構は（ＳＡ－24,25）と接しており、土層の切り合いから、どちらよりも古いことを確認した。残存部分から、遺構は長軸330cm、短軸290cmの隅丸方形を呈していたと予想される。遺構内から中央土坑及び柱穴は認められなかったが、後に構築された（ＳＡ－24）により削平された可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－24）

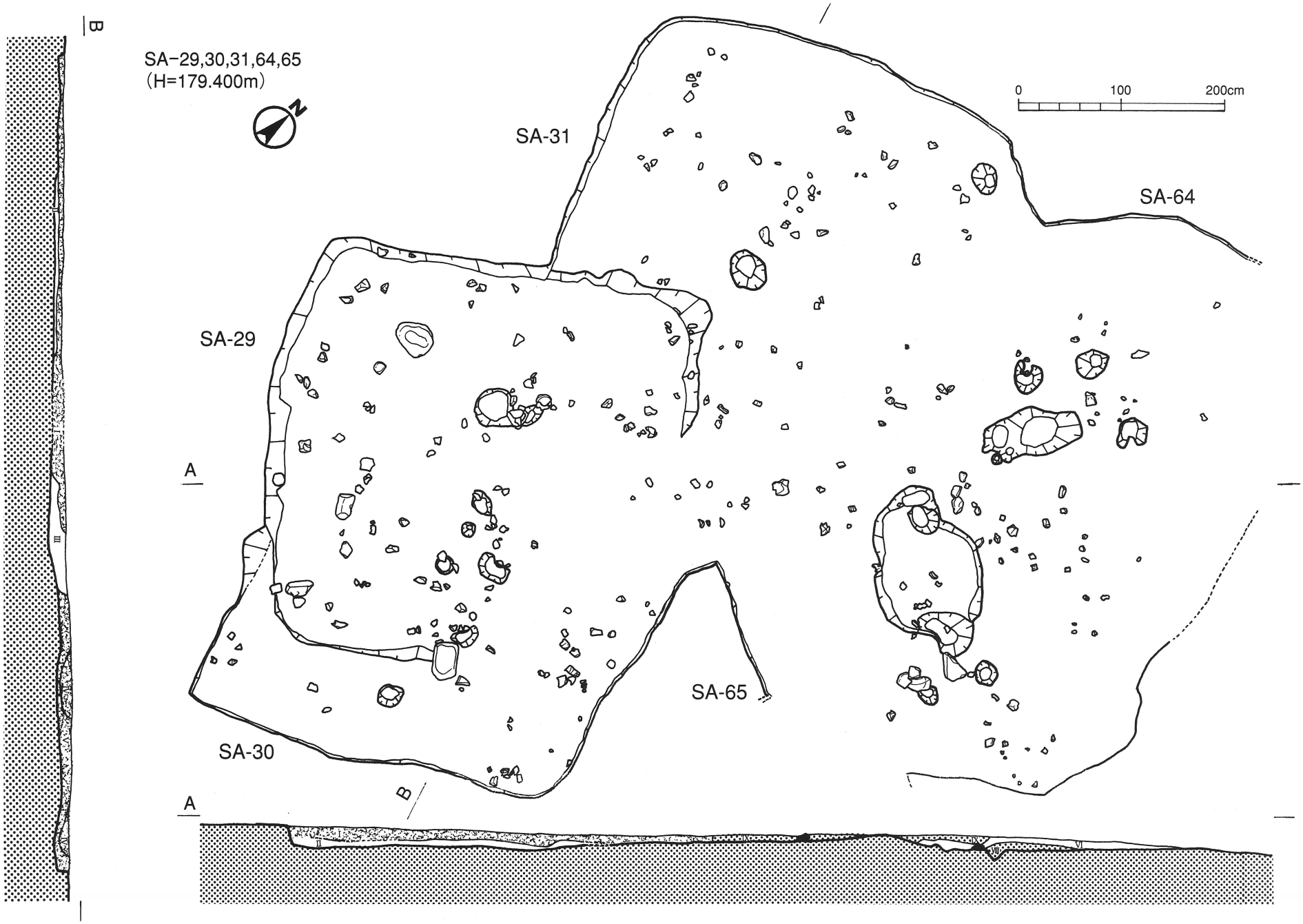
Ｃ区中央部、窪地遺構内にあたる東側竪穴住居群北西部で検出した。遺構は（ＳＡ－23）と接していたが、切り合う遺構よりも一段深く構築されていたため、長軸260cm、短軸165cmのやや歪んだ隅丸方形プランであったことが確認された。また、土層の切り合いから、（ＳＡ－23）よりも新しいことを確認した。床面は早期ローム層であるが、構築中に床面から出現した縄文時代早期の集石遺構の礫を除去した形跡が認められないことや、柱穴を伴わないことから、構築中で放棄された可能性も考えられる。

（ＳＡ－25）

Ｃ区中央部、窪地遺構内の東側竪穴住居群北西部で検出した。遺構は（ＳＡ－24）と接しているが、残存部分から、長軸350cm、短軸270cmの隅丸方形と考えられる。土層の切り合いから、（ＳＡ－24）よりも古いことを確認した。遺構内からは、中央に浅い土坑が検出されたのみであり、柱穴は認められなかった。

（ＳＡ－26）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の南東部にあたる地点で検出した。（ＳＡ－22）と接しているが、（ＳＡ－22）よりも一段深く掘り込まれていたため、長軸440cm、短軸300cmの隅丸方形を呈することが確認された。また、土層の切り合いから、（ＳＡ－22）よりも新しいことを確認した。遺構内には４本の柱穴が認められるが、（ＳＡ－22）に伴う可能性も考えられる。床面付近から使用痕のない扁平な礫が4点出土した。床面は早期ローム層であった。



第27図　竪穴住居実測図（15）

（ＳＡ－27）

Ｃ区中央部やや北西、北側竪穴住居群と東側竪穴住居群の中間地点で検出した。（ＳＡ－28）と接しているが、（ＳＡ－28）よりも僅かに深く掘り込まれていた。長軸385cm、短軸320cmの隅丸方形を呈すると考えられる。土層の切り合いから、（ＳＡ－28）よりも新しいことを確認した。遺構内から柱穴を1本検出したが、（ＳＡ－28）に伴う可能性もある。遺構床面は早期ローム層であり、床面からは、貼り床を思わせるアカホヤ火山灰の硬化が認められた。

（ＳＡ－28）

Ｃ区中央部やや北西、北側竪穴住居群と東側竪穴住居群の中間地点で検出した。（ＳＡ－27）と接する。残存部分から、長軸430cm、短軸330cmの隅丸方形を呈すると考えられる。また、土層の切り合いから（ＳＡ－27）よりも古いことを確認した。遺構内から中央土坑のほかに、柱穴を3本検出したが、（ＳＡ－27）に伴う可能性もある。また、覆土下層及び中央土坑内から平坦部を持つ礫が出土したが、使用痕は認められなかった。遺構床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－29）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北東部で検出した。遺構は（ＳＡ－30,31）と接するが、他の遺構より一段深く掘り込まれていたために、故に長軸410cm、短軸330cmの隅丸方形プランを確認できた。また、土層断面からは新旧関係は確認できなかった。遺構内から柱穴を1本検出したが、他の竪穴住居に伴う可能性もある。遺構床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－30）

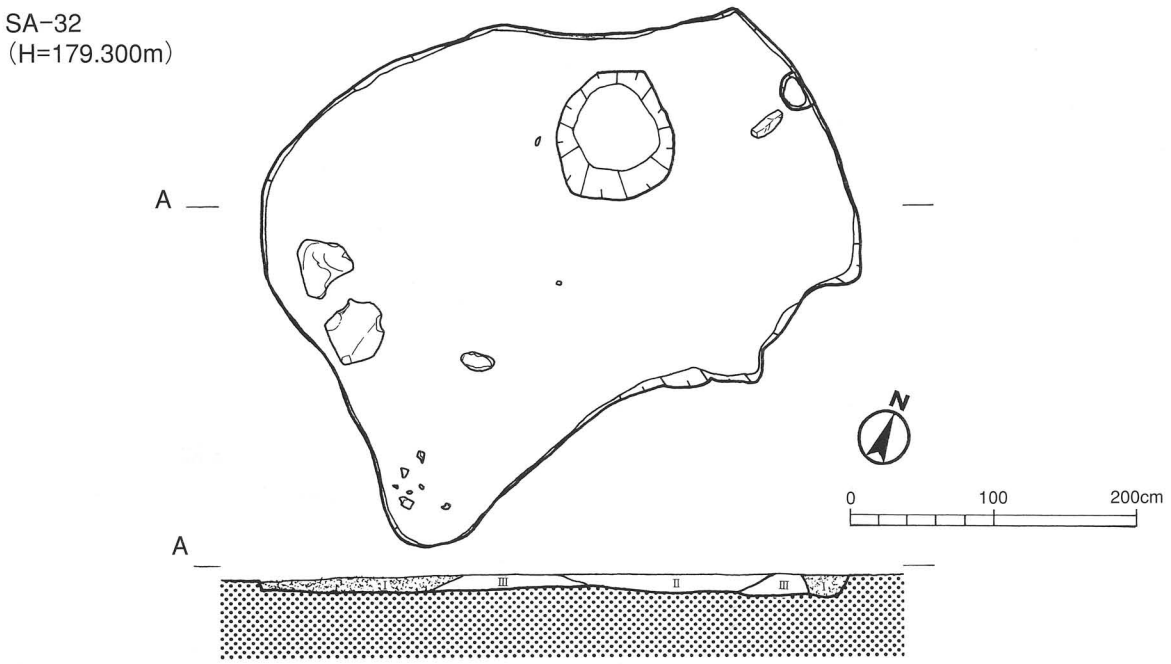
Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北東部で検出した。遺構は（ＳＡ－29）と接しており、短軸360cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、長軸及び正確な平面形態は不明である。土層断面からは新旧関係を確認できなかった。遺構内から柱穴を1本検出したが、他の竪穴住居に伴う可能性もある。また（ＳＡ－29）との境界にあたる床面付近からは扁平な円礫が出土したが、使用痕は認められなかった。遺構床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－31）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北東部で検出した。遺構は（ＳＡ－30,64）と接しており、長軸360cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、短軸及び正確な平面形態は不明である。また、アカホヤ上層を床面としている部分は調査時に削平されているために、土層断面からは新旧関係を確認できなかった。遺構内から2本の柱穴が検出されたが、他の竪穴住居に伴う可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－32）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南部で検出した。長軸400cm、短軸290cmであるが、隅丸方形とは言い難く、不定形と判断した。遺構北西部に浅い土坑を検出したほか、柱穴も1本検出した。また、床面付近から石皿が2点出土した。床面は早期ローム層であった。



Ⅰ層　10YR褐4/4
　層中にAhと思しき粒子を多量、2cm大のブロックを少量、スコリアを中量、御池と思しき白色粒子を少量、赤色粒子を微量含む。層は硬く締まっている。
Ⅱ層　10YR黒褐3/2
　層中に御池と思しき白色粒子を中量、スコリアを少量、炭化物片を微量含む。層は硬く締まっている。
Ⅲ層　10YRにぶい黄褐4/4
　層中に御池と思しき白色粒子を中量、スコリアを中量、小ぶりの円礫を少量含む。

第28図　竪穴住居実測図（16）

（ＳＡ－33）

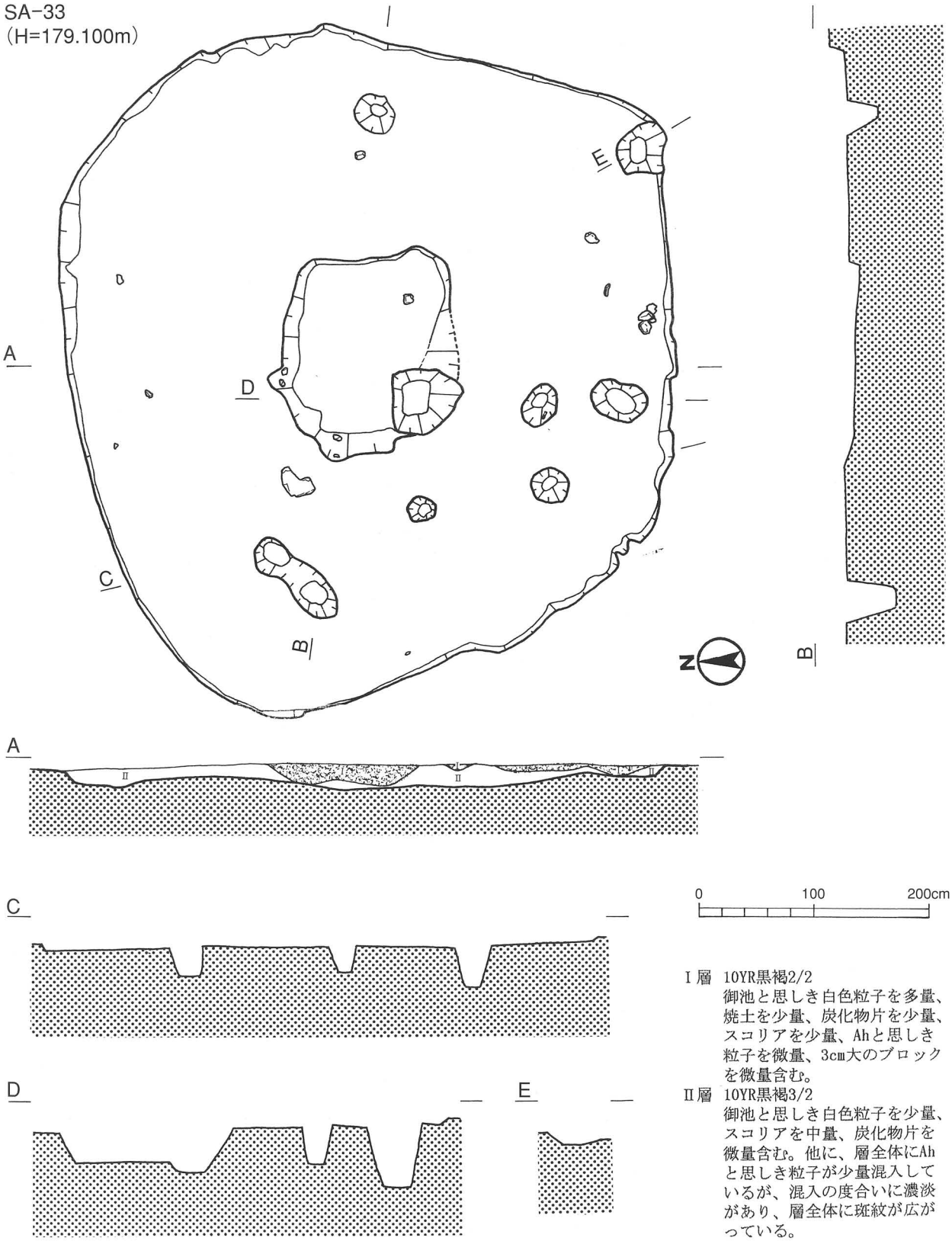
Ｃ区北西部、北側竪穴住居群の北西部で検出した。平面形態は、北側が楕円形を呈し、南側は隅丸方形を呈する。長軸は600cm、短軸530cmである。遺構内から中央土坑と9本の柱穴を検出した。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－34）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－70）と接するが、新旧関係は確認できなかった。長軸540cm、短軸380cmの隅丸方形を呈する。遺構中央部より、楕円形を呈する大型の浅い土坑と、11本の柱穴を検出した。このほか、中央土坑の縁辺からは2点の石皿を出土した。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－35）

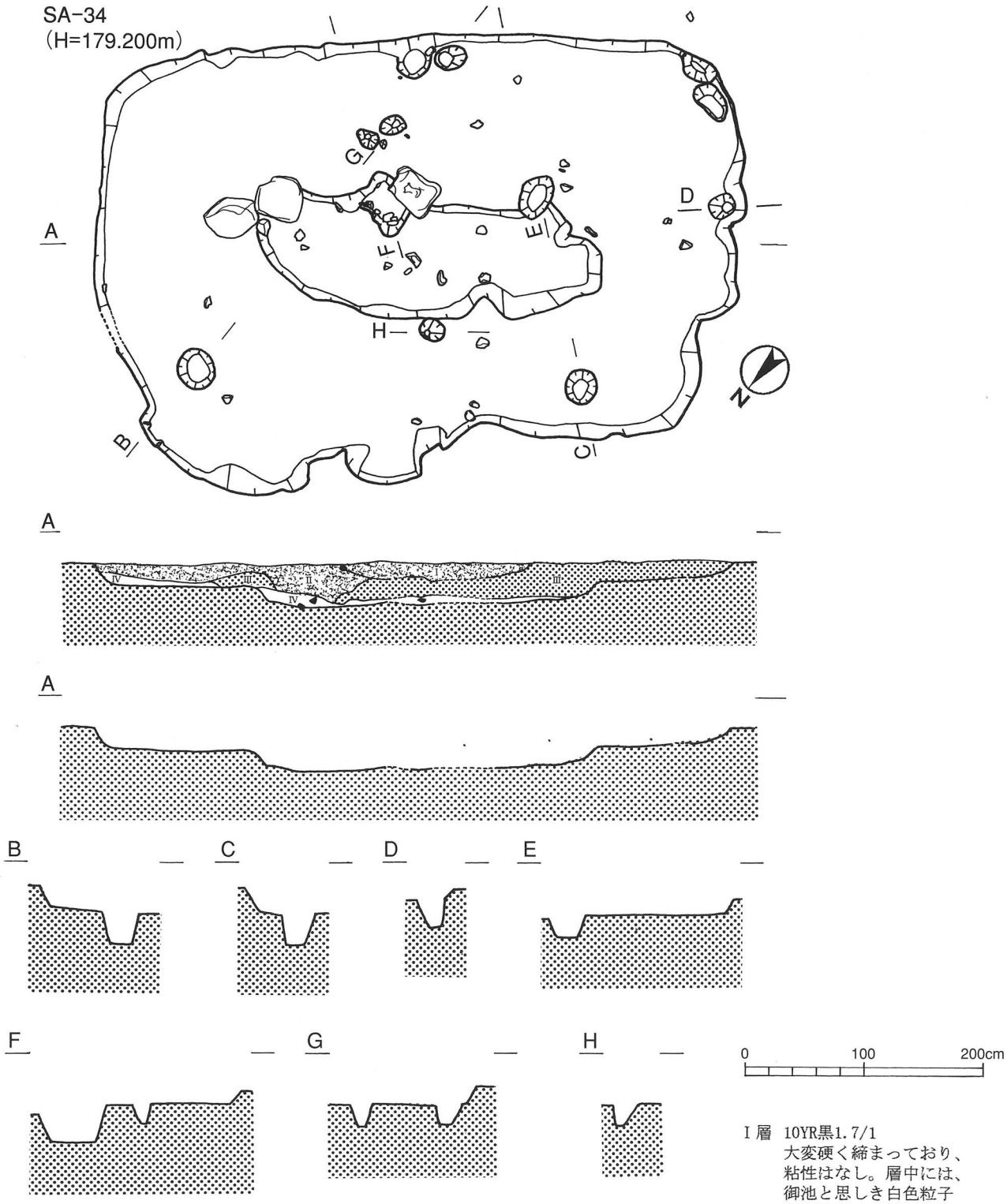
Ｃ区北西部、北側竪穴住居群の南東端部にあたる緩やかな斜面上で検出した。長軸530cm、短軸390cmの隅丸方形を呈する。遺構内から、両脇にピットを伴う土坑が認められたが、通常検出される遺構中央よりもやや東側に位置している。ほかに、9本の柱穴も検出した。遺構中央よりやや南東部からは石皿も1点出土している。床面は牛のスネローム層であった。



Ⅰ層　10YR黒褐2/2
御池と思しき白色粒子を多量、焼土を少量、炭化物片を少量、スコリアを少量、Ahと思しき粒子を微量、3cm大のブロックを微量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐3/2
御池と思しき白色粒子を少量、スコリアを中量、炭化物片を微量含む。他に、層全体にAhと思しき粒子が少量混入しているが、混入の度合いに濃淡があり、層全体に斑紋が広がっている。

第29図　竪穴住居実測図（17）



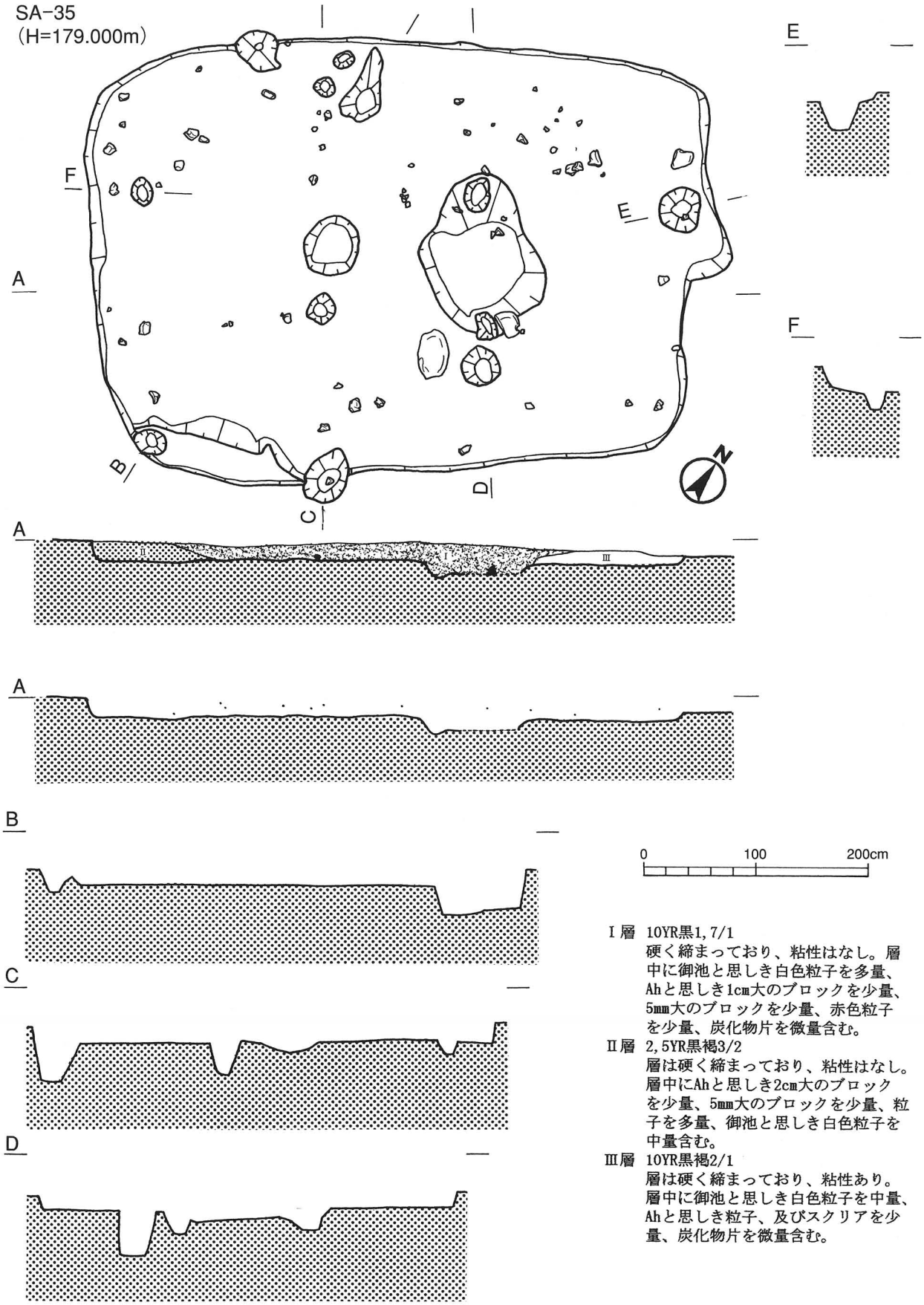
Ⅰ層　10YR黒1.7/1
大変硬く締まっており、粘性はなし。層中には、御池と思しき白色粒子を大量、スコリアを微量含む。

Ⅱ層　10YR黒2/1
Ⅰ層よりも軟質であるが、それでも硬く締まっている。層中には、御池と思しき白色粒子が多量、赤色粒子を少量、炭化物片を微量、スコリアを少量含む。この他、粘土の3cm大のブロックを少量含む。

Ⅲ層　2,5YR黒褐3/2
硬く締まっており、粘性はなし。層中に、Ahと思しき粒子を多量、5cm大のブロックを少量、炭化物片を少量、御池と思しき白色粒子を少量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐2/2
硬く締まっており、粘性に富む。層中に、炭化物片を少量、御池と思しき白色粒子を少量、スコリアを少量含むほか、全体に粘土が濃淡をもって混入しており、斑紋を形成している。

第30図　竪穴住居実測図（18）



Ⅰ層　10YR黒1,7/1
硬く締まっており、粘性はなし。層中に御池と思しき白色粒子を多量、Ahと思しき1cm大のブロックを少量、5mm大のブロックを少量、赤色粒子を少量、炭化物片を微量含む。

Ⅱ層　2,5YR黒褐3/2
層は硬く締まっており、粘性はなし。層中にAhと思しき2cm大のブロックを少量、5mm大のブロックを少量、粒子を多量、御池と思しき白色粒子を中量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐2/1
層は硬く締まっており、粘性あり。層中に御池と思しき白色粒子を中量、Ahと思しき粒子、及びスクリアを少量、炭化物片を微量含む。

第31図　竪穴住居実測図（19）

（ＳＡ－36）

Ｃ区中央やや東側、東側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－37）と接しているが、土層が明確に分かれておらず、新旧関係を確認できなかった。角が2箇所認められたことから、長軸290cm、短軸280cm隅丸方形を呈していたと考えられる。遺構中央には土坑らしき落ち込みが認められる。他に柱穴を2本検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であり、若干であるが硬化が認められた。

（ＳＡ－37）

Ｃ区中央やや東側、東側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－36,38）と接しており、径約320cmのやや歪な円形を呈していたと考えられる。また、土層の切り合い関係から、（ＳＡ－38）より新しいことを確認したが、（ＳＡ－36）とは土層が明確に分かれていなかったため、新旧関係を確認できなかった。遺構内から、中央土坑以外に２基の土坑と３本の柱穴を検出したが、柱穴は隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であり、若干であるが硬化が認められた。

（ＳＡ－38）

Ｃ区中央やや東側、東側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－37）と接しており、北西部は風倒木により破壊されていた。そのため、長軸290cmの隅丸方形を呈していたと考えられるものの、短軸及び正確な平面形態は定かでない。また、土層の切り合いから、（ＳＡ－37）よりも古いことを確認した。遺構内から柱穴を6本、遺構外にも2本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－39）

Ｃ区中央やや東側、東側竪穴住居群の南部で検出した。（ＳＡ－40）と接しており、検出時の土色の違いから、（ＳＡ－40）よりも新しいことを確認した。長軸310cm、短軸300cmであり、隅丸方形と言うよりは台形に近い。遺構内から、やや小ぶりの中央土坑と、3本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－40）

Ｃ区中央やや東側、東側竪穴住居群の南部で検出した。調査前のトレンチによって、北部を削平されていた。（ＳＡ－39,41）と接しているが、他の竪穴住居より深く掘り込まれていたことから、長軸360cm、短軸280cmの方形を呈することが確認できた。また、土層の切り合いから、（ＳＡ－39）よりも古いことを確認したが、（ＳＡ－41）との新旧関係は不明であった。遺構内から、中央土坑と5本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－41）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の南西部で検出した。調査前のトレンチによって東部を削平されていた。（ＳＡ－40,42,ＳＣ－56）と接しており、隅丸方形を呈すると考えられるが、遺構の大部分を消失していたために大きさは定かでない。また、土層断面にかかっていなかったため、接する竪穴住居との新旧関係は不明である。遺構内から1本の柱穴を検出したが、

隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－42）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の南部で検出した。調査前のトレンチによって、北西部を削平されていた。（ＳＡ－41,43）及と接していたために、平面形態及び大きさは定かでない。また、土層断面にかかっていなかったため、新旧関係も不明であった。遺構内から4本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。また、遺構南西部には土坑が検出されたが、遺構に伴うとは限らない。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－43）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の西部で検出した。調査前のトレンチによって、南部を削平されていた上に、（ＳＡ－42,44）と接していたために、方形を呈すると考えられるが、大きさは不明である。土層断面の切り合いから（ＳＡ－44）よりも古いことを確認したが、（ＳＡ－42）との新旧関係は、土層断面がなかったために不明であった。遺構内に2本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－44）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の西部で検出した。（ＳＡ－43,45,57）と接しており、土層断面の切り合いから、そのいずれよりも新しいことを確認した。平面形態は、長軸290cm、短軸240cmの歪な楕円形と考えられる。遺構中央にある落ち込みは小規模であり、土坑ではなく柱穴と判断される。それも含めて、遺構内から6本、遺構の境界から2本、遺構付近から3本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－45）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－44,46,47）と接しており、長軸450cm、短軸340cmの隅丸方形を呈する。また、（ＳＡ－44,47）よりも古いことを確認したが、（ＳＡ－46）とは土層断面がなかったために不明である。遺構内から中央土坑と4本の柱穴を検出したが、柱穴は隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。このほか遺構西端からは、平坦部を持つ円礫と多くの土器が集中して出土した。円礫には使用痕は認められなかった。土器は、後の接合作業によりほぼ1個体となることが判明したが、出土時は土器片が集積した状態であり、完形のまま放置されたものとは考え難い。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－46）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－51）により大半を消失しており、隅丸部が残存していたために平面形態は隅丸方形であったと考えられるが、正確な大きさは定かでない。また、土層断面がなかったために（ＳＡ－51）との新旧関係は不明である。遺構内から土坑や柱穴は検出されなかったが、（ＳＡ－51）をはじめ隣接する他の遺構により削平された可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－47）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－06,45,48,51）と接しているうえに、それらの遺構よりも浅く掘り込まれていたことから、平面形態や大きさは不明である。土層断面の切り合いから、（ＳＡ－45）より新しく（ＳＡ－06,48）よりも古いことを確認したが、（ＳＡ－51）との新旧関係は不明であった。遺構内から中央土坑と1本の柱穴を検出したが、柱穴は隣接する他の竪穴住居に伴う、あるいは竪穴住居により削平された可能性がある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－48）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－47）と接しているが、一段深く掘り込まれていたために長軸280cm、短軸220cmのやや歪な隅丸方形を呈することを確認した。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－47）よりも新しいことを確認した。遺構内から5基の土坑と、1本の柱穴を検出したが、中央土坑は認められなかった。なお、北の隅にある土坑は扁平な礫が地表面に対し垂直に立てられた状態で検出された。このような遺構の存在と、この遺構が通常の竪穴住居よりもかなり小型であることから、本遺構は住居とは異なる可能性も考えられる。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－49）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－06,48,50）と接しているが、他の遺構より深く掘り込まれていた。長軸450cm、短軸420cmの歪な隅丸方形を呈する。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－50）よりも新しく、（ＳＡ－06,48）よりも古いことを確認した。遺構内から中央土坑と4本の柱穴を検出したが、柱穴は隣接する他の竪穴住居に伴う可能性もある。また、中央土坑の一角からは土器片が集中して出土した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－50）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西端部で検出した。（ＳＡ－49）と接していたために、平面形態は隅丸方形を呈すると考えられるものの、正確な形態及び大きさは不明である。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－49）よりも古いことを確認した。遺構内から1本の柱穴を検出したが、隣接する他の竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－51）

Ｃ区中央部、東側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－06,46,47,48）と接しているが、それらの遺構よりも深く掘り込まれていた。長軸380cm、短軸320cmの隅丸方形を呈する。また、土層断面がなかったために新旧関係は不明である。遺構内から中央土坑と4本の柱穴を確認したが、周囲に分布する他の柱穴も伴う可能性がある。中央土坑からは多くの遺物が出土した。床面は早期ローム層下部であった。

（ＳＡ－52）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群南東部にあたる傾斜面上で検出した。（ＳＡ－18,53）と接し

ていたために、短軸300cmの隅丸方形を呈すると思われるものの、長軸を始め正確な平面形態は定かでない。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－18,53）よりも古いことを確認した。遺構内から両脇にピットを持つ中央土坑と１本の柱穴を検出した。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－53）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群やや東側にあたる傾斜面上で検出した。（ＳＡ－18,53,55,56）と接しており、掘り込みが浅かったために、平面形態及び大きさは定かでない。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－56）より新しく、（ＳＡ－18,53,55）よりも古いことを確認した。遺構内から両脇にピットを持つ土坑を2基検出したが、これは遺構内には竪穴住居が2軒存在した可能性を示している。このほか、5本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。また、北部の境界付近から石皿も出土した。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－54）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群中央部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－18,54）と接しているが、他の遺構よりも深く掘り込まれていたため、長軸370cm、短軸300cmの隅丸方形を確認した。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－54）よりも新しく、（ＳＡ－18）よりも古いことを確認した。遺構内から中央に3基のピットを伴う土坑と、柱穴を1本検出した。また、西側には、底部を打ち欠き、底部のあった地点に円礫を配置し、横に寝かせたまま埋没させたと考えられる土器が、一個体ほぼ完全な状態で出土した。

（ＳＡ－55）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群中央部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－54,57,58）と接しており、隅丸方形と考えられるものの、掘り込みが浅いために、正確な大きさは不明である。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－54,57）よりも古いことを確認したが、（ＳＡ－58）との新旧関係は、土層断面がなかったために不明である。遺構内から柱穴を1本検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。また、遺構内から２点の石皿が立てられた状態の土坑も検出したが、これが（ＳＡ－55）に伴うとは断言できない。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－56）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群中央部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－56,58,59）と接しており、短軸270cmの隅丸方形を呈すると考えられるが、長軸や正確な大きさは定かでない。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－56,58）よりも新しく、（ＳＡ－59）より古いことを確認した。遺構内から5本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－57）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群北東部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－56,57）と接しているうえに、掘り込みが浅かったために平面形態及び大きさは不明である。しかし、残さ

れた竪穴住居の壁を追うと、他の竪穴住居よりも大きく、床面や土層断面からは確認できなかったが、数軒の竪穴住居がこの中に含まれている可能性もある。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－57）より古いことを確認したが、土層断面が設定されなかった（ＳＡ－56）との新旧関係は不明である。遺構内から土坑1基と柱穴を9本検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－58）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群北東部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－56,57,60,61）と接しており、短軸370cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、長軸を始め大きさは不明である。なお、遺構の北部は突出部が認められ、他に竪穴住居が存在した可能性も考えられる。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－56,57）より新しく、（ＳＡ－61）よりも古いことが確認したが、土層断面が設定されなかった（ＳＡ－60）との新旧関係は不明である。遺構内から3本の柱穴を、遺構境界付近から1本の柱穴を検出したが、隣接する他の遺構に伴う可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－59）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群北東部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－59,61,16）と接する。短軸240cmの方形を呈すると考えらえるが、長軸をはじめ具体的な大きさは不明である。土層断面を設定しなかったため、新旧関係はいずれにおいても不明である。遺構内から土坑や柱穴は認められなかったが、隣接する他の竪穴住居に含まれている可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

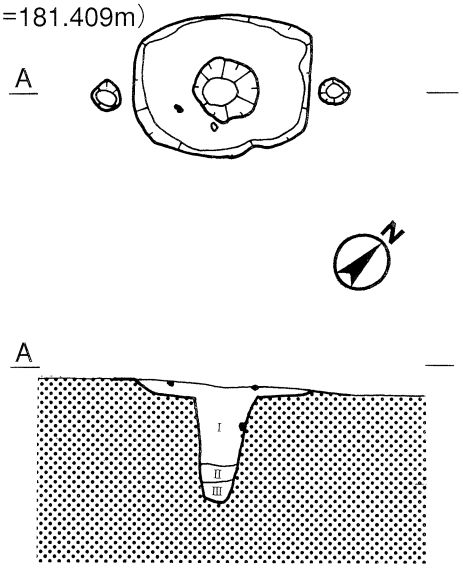
（ＳＡ－60）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群北東部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－16,59,60）と接しているが、他の竪穴住居より深く掘り込まれており、平面形態は把握できたが、角が5箇所認められるなど不定形であることから、深さの殆ど変わらない他の竪穴住居が含まれている可能性も考えられる。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－58）よりも新しいことを確認したが、土層の残存が悪く、（ＳＡ－16,59）との新旧関係は不明である。遺構内から、両脇にピットを持つ土坑と4本の柱穴が検出されたが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。このほか、遺構南部からは4点の石皿を伴う土坑が検出された。土層断面からは竪穴住居の埋没前に既に埋まっていたことが明らかとなっているが、遺構に隣接して出土した石皿は、遺構の床面上であったことや、遺構内の石皿の一部は、土坑覆土を越えて床面上に突き出ていたことから、竪穴住居と土坑が同時に存在した可能性も考えられる。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－61）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群南東部にあたる斜面上で検出した。（ＳＡ－18,52,54）と接しており、他の竪穴住居よりも浅いために、平面形態や大きさは定かでない。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－52）よりも新しく、（ＳＡ－18,54）よりも古いことを確認した。遺構内から柱穴は全く検出されなかったが、他の竪穴住居に伴う、若しくは削平され

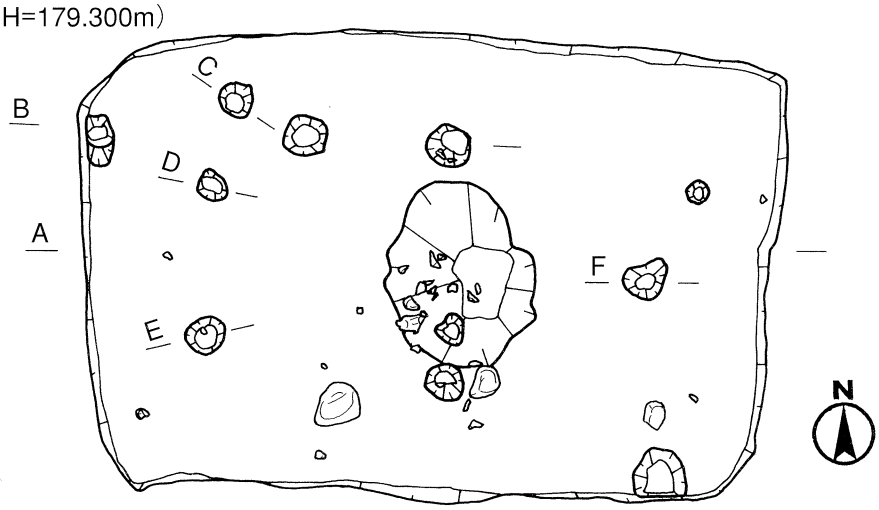
SA-62
(H=181.409m)

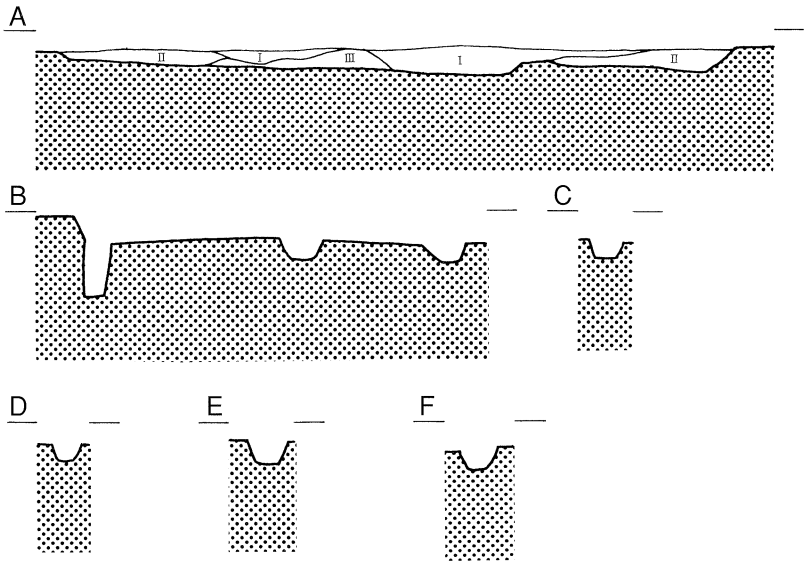


Ⅰ層　10R赤黒1,7/1
　直径0,5mm以下の白色粒子、及び大小のAhブロックを含む。
Ⅱ層　10R赤黒1,7/1
　Ahブロックが小粒のもののみとなる。また、白色粒子も微量となる。
Ⅲ層　10R赤黒2/1
　Ⅱ層よりもやや硬質である。混入物の量に変化はない。

0　100　200cm

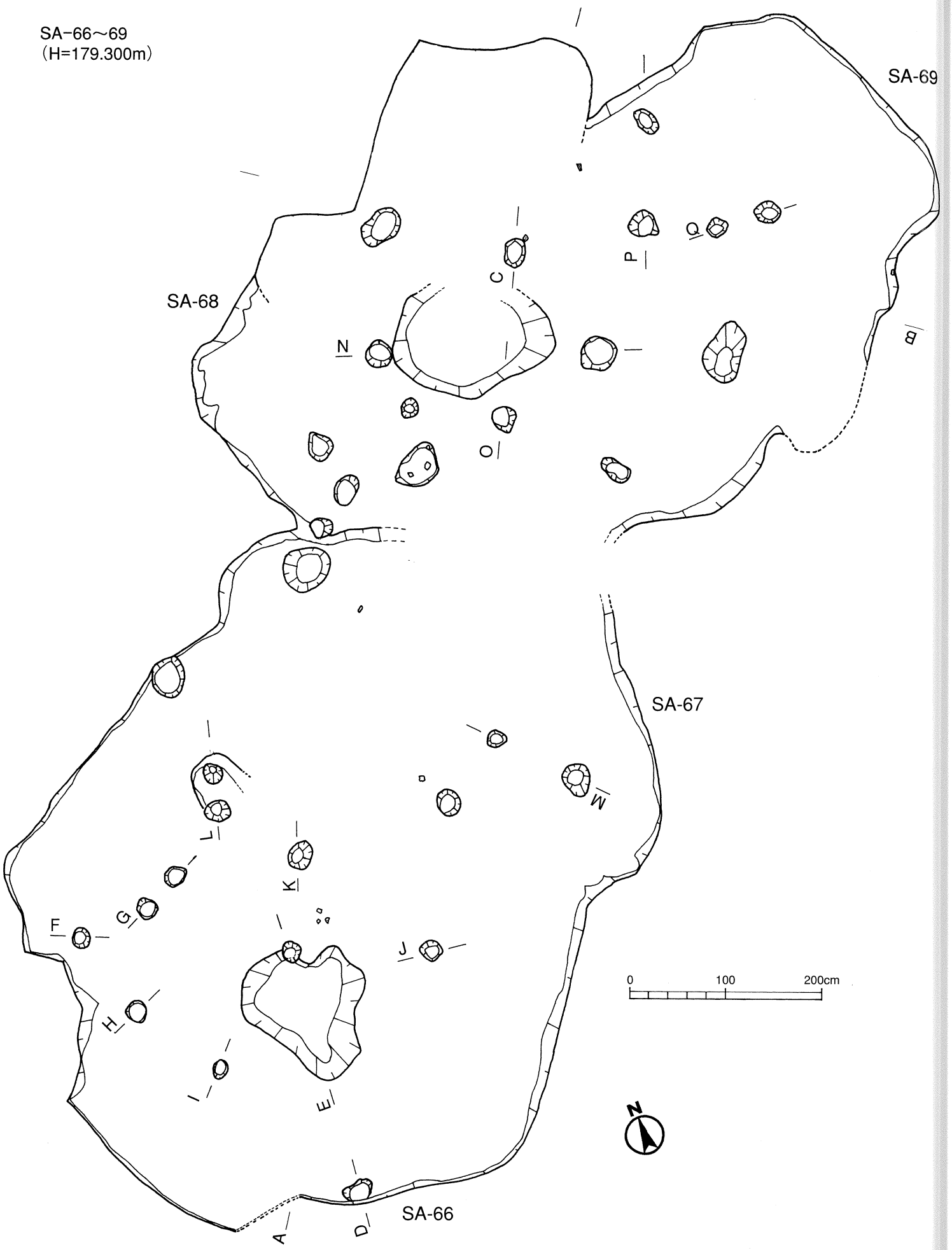
SA-63
(H=179.300m)



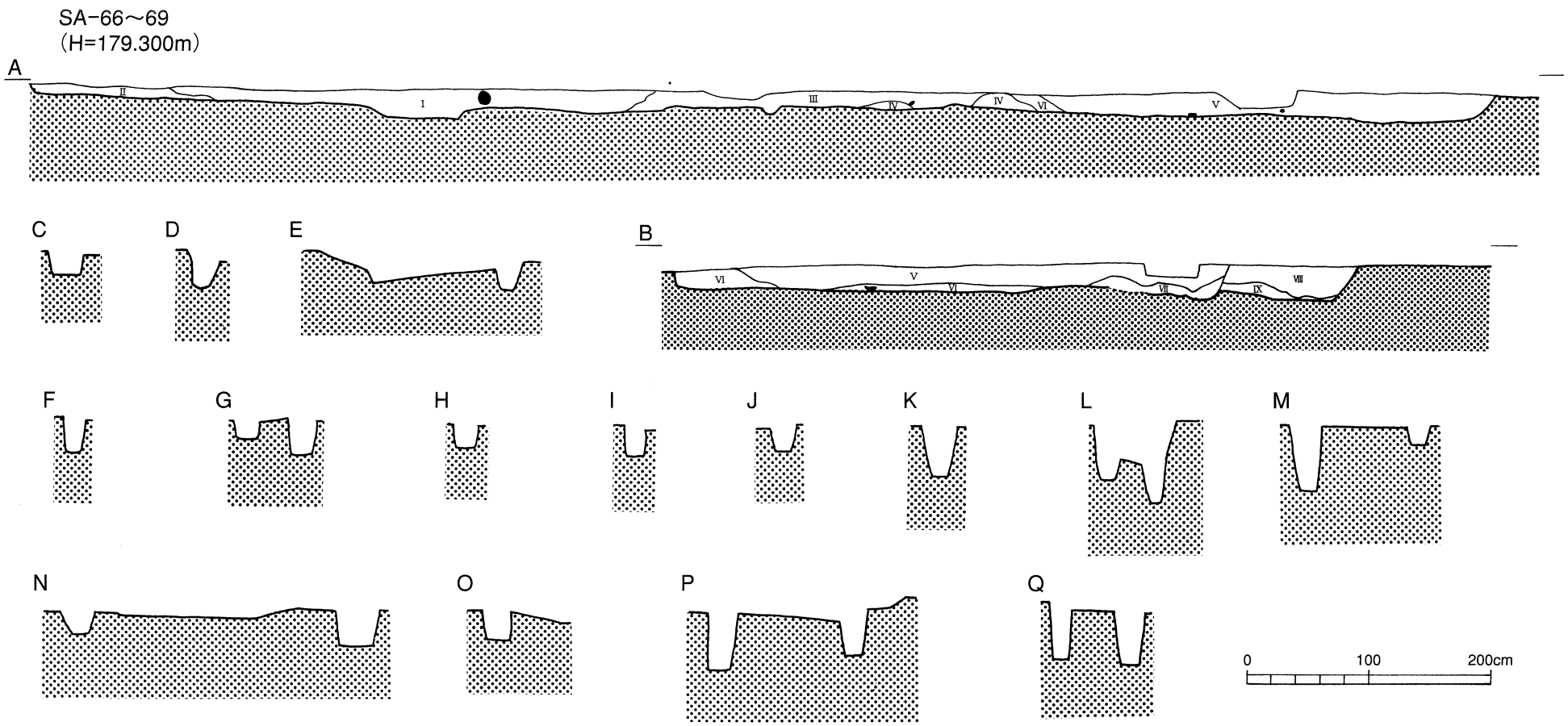


Ⅰ層　10YR黒褐3/2
　層は硬く締まっており、粘性アリ。焼土と思しき赤色粒子を微量含む。層はやや斑紋が見られる。土質はAh直下に似る。
Ⅱ層　10YR黒褐2/2
　層は硬く締まっており、粘性は殆どない。焼土と思しき赤色粒子を微量、御池火山灰によると思われる軽石片を中量含む。層に斑紋は認められない。
Ⅲ層　10YR黒褐2/2
　層は著しく硬く締まっており、粘性に富む。層中には、御池火山灰によると思われる軽石片を少量、炭の小片を微量含む。層の堆積は一様であり、斑紋は認められない。

第32図　竪穴住居実測図（20）



第33図　竪穴住居実測図（21）



Ⅰ層　10YR黒1,7/1　層は硬く締まっており、粘性あまりない。御池火山灰を少量、炭の小片を少量、Ahの粒子を少量、小石・小角礫を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐2/2と、2,5Y黒褐3/1の斑紋　層は硬く締まっており、粘性なし。層中に、骨粉を少量、小粒の軽石片を中量、炭の小片を微量、1cm大の小石を微量、それより小さい小砂利を少量含む。礫の約半分は被熱している。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2　層は硬く締まっており、粘性はなし。焼土に伴う赤色粒子を少量、軽石片を中量、2cm大の早期ローム、炭の小片、小石を微量、小砂利を少量含む。礫類の半分は被熱。

Ⅳ層　10YR黒2/1　層は硬く締まっている。層中に、Ahの1cm大の粒子を多量、粒子を多量含む。御池火山灰を少量、焼土と思しき赤色粒子を微量含む。Ahが、層の約半分を構成する。

Ⅴ層　10YR黒2/1　層は硬く締まっており、粘性少しあり。層中に、軽石片を中量、御池を多量、火山ガラスを中量含む。他に、被熱の認められない角の丸い小砂利を少量含む。
められない角の丸い小砂利を少量含む。

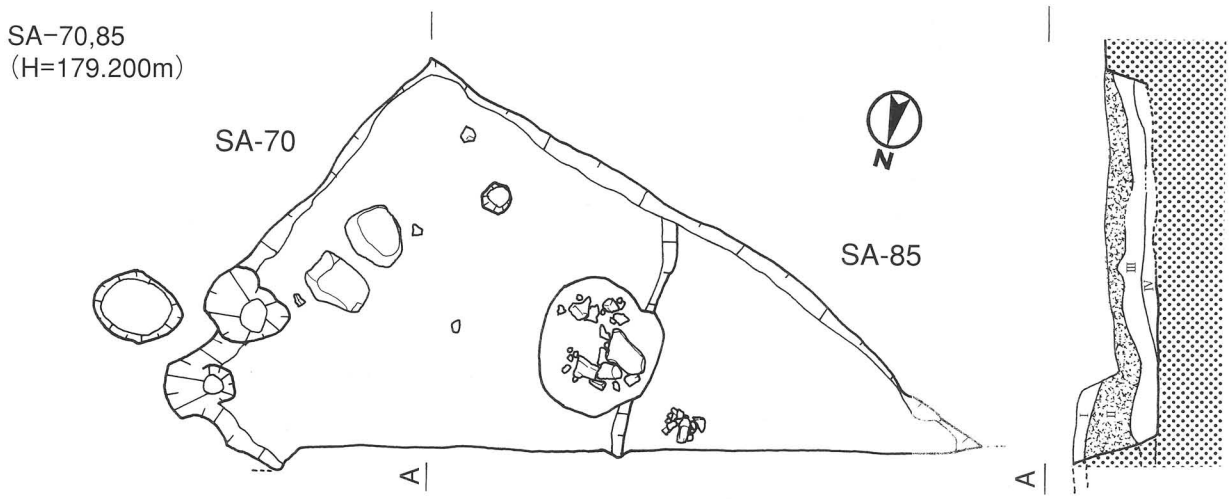
Ⅵ層　10YR黒褐2/2　層は軟質で、ボロボロと崩れ落ちる。粘性少しあり。Ahの、5mm大のブロックを少量、粒子を中量、火山ガラスを中量含む。

Ⅶ層　10YR黒2/1　層は大変硬く締まっており、粘性に富む。層中には、軽石片のうち5mm大を少量、粒子を中量、火山ガラスを中量、炭の小片を微量含む。

Ⅷ層　10YR黒1,7/1　層は硬く締まっており、粘性あり。層中に、軽石片を中量、御池火山灰を中量、炭の小片を微量、焼土と思しきの赤色粒子を微量含む。層の堆積状況から、風倒木による撹乱の可能性もある。

Ⅸ層　10YR黒2/1　層は軟質であり、粘性に富む。層中には、火山ガラスを中量、軽石片を中量、炭の小片を微量、御池火山灰を中量、骨粉を微量、焼土と思しき赤色粒子を少量含む。風倒木による可能性が考えられる。

第34図　竪穴住居実測図（22）

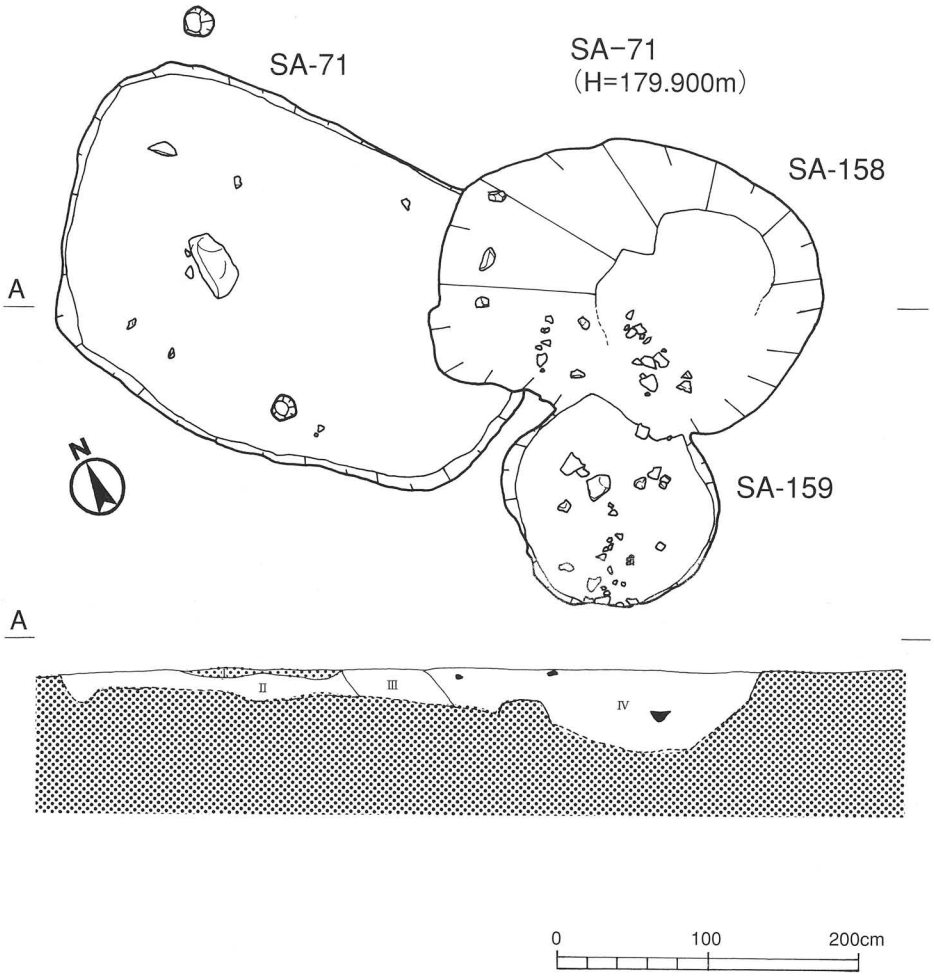


Ⅰ層　10YR暗褐３/３
硬く締まっており(硬さ：８)、粘性殆どない。層中には、御池火山灰の粒子を多量含むが、粒子は小粒のものが多い。他にスコリアを微量、炭の小片を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐２/２
硬く締まっており(硬さ：7,5)、粘性少しあり。層中には、御池火山灰の粒子を多量に含むが、Ⅰ層とは異なり粒子には大粒のもの多い。他にスコリア、粘土粒子、３～５㎜大のAhブロック、Ah粒子をそれぞれ少量含む。

Ⅲ層　10YR暗褐３/４
硬く締まっており(硬さ：８)、粘性に富む。1cm大のAhブロックを少量、2cm大のAhブロッグを微量、Ahの粒子を中量含む。他に御池火山灰を中量、スコリアを少量含む。Ahの粒子は濃淡があり、斑紋を形成する。

Ⅳ層　10YR黒褐２/３
硬く締まっており(硬さ：８)、粘性に富む。層中にAhは認められず、スコリア･御池火山灰を少量含む以外に、Ⅲ層の５㎜大のブロックを中量含む。



Ⅰ層　2,5Y黄褐５/４
硬く締まっており(硬さ８)、粘性はない。層中にAh粒子を多量、黒色土のブロックを中量、白色粒子を少量含む。層は斑紋が認められる。

Ⅱ層　2,5Y黒褐３/３
硬く締まっており(硬さ８)、粘性少しあり。層中に白色粒子を少量、スコリアを少量含む。層は斑紋が認められる。

Ⅲ層　10YR黒褐２/２
硬く締まっており(硬さ９)、粘性殆どなし。層中に３㎜大の粘土粒子を微量、粘土の粒子を中量、焼土による赤色粒子を少量、炭の小片を微量含む。粘土粒子の量により、斑紋が認められる。

Ⅳ層　10YR黒褐３/２
大変硬く締まっており(硬さ10)粘性なし。層中に白色粒子を多量、炭とスコリアを少量含む。

第35図　竪穴住居実測図（23）

た可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－62）

Ｂ区北部の傾斜面上で検出した。遺構確認時には既にアカホヤ火山灰層上面まで下げていたために、中央土坑及び両脇のピットのみであった。よって、平面形態及び大きさは不明である。中央土坑の中心部には柱穴らしき落ち込みが認められる。本来の床面は御池火山灰層と思われる。

（ＳＡ－63）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南西端部で検出した。長軸470cm、短軸315cmの隅丸方形を呈する。遺構内から両脇にピットを伴う中央土坑と８本の柱穴が検出された。中央土坑からは多くの円礫が出土したが、赤変したものは僅かであるうえに、集石炉と呼べるほど密集したものではなかった。石皿は、遺構床面からも１点出土している。床面は早期ローム層であり、床面付近からは貼床らしき硬化した堆積層も認められた。

（ＳＡ－64）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北東部で検出した。（ＳＡ－31,65）と接しており、土層の残存状態も悪かったため、大きさ、平面形態、新旧関係はいずれも不明である。遺構内から土坑１基と柱穴３本を検出したが、柱穴は隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－65）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北東部で検出した。（ＳＡ－30,31,64）と接しており、土層の残存状態の悪さもあいまって、大きさ、平面形態、新旧関係はいずれも不明である。遺構内から両脇にピットを持つ土坑と２本の柱穴を検出したが、柱穴は隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面はアカホヤ火山灰層であった。

（ＳＡ－66）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の南東部で検出した。（ＳＡ－67）と接するが、土層断面からは新旧関係を確認できなかった。遺構内で確認できた土坑を中心として、径約480cmの円形を呈すると思われるが、遺構北西部には隅丸方形の角を思わせるカーブもあり、複数の竪穴住居が存在する可能性もある。遺構境界部にはピットを伴う土坑と10本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であり、床面付近には硬化面も認められた。

（ＳＡ－67）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の南東部で検出した。（ＳＡ－66,68）と接するが、土層断面から新旧関係は確認できなかった。残された壁面には２箇所の角が認められることから、長軸440cm、短軸390cmの隅丸方形を呈すると考えられる。遺構内から４本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であり、床面付近には硬化面も認められた。

（ＳＡ－68）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の南東部で検出した。遺構東側は風倒木による削平を受けていた。（ＳＡ－67,69）と接しているが、土層断面からは新旧関係を確認できなかった。なお、隅丸方形を呈すると考えられるが、大きさは定かでない。遺構内から浅い土坑と９本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であり、床面付近に硬化面も認められた。

（ＳＡ－69）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の南東部で検出した。遺構北側は風倒木による削平を受けていた。（ＳＡ－67,69）と接しており、長軸460cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、短軸及び正確な大きさは定かでない。また、土層断面からは新旧関係を確認できなかった。遺構内から７本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であり、床面付近に硬化面も認められた。

（ＳＡ－70）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の北部で検出した。遺構北部は調査区の境界にかかっていた。（ＳＡ－85）に接しており、正確な形状は不明であるが、長軸290cm、短軸190cmの台形に近い方形を呈すると考えられる。調査区境界の土層断面から、（ＳＡ－85）よりも新しいことを確認した。遺構内から柱穴を１本、境界付近に柱穴を２本検出した。また、（ＳＡ－85）との境界付近より上部に土器を伴う土坑が検出されたが、竪穴住居の検出面では確認できなかったことから、土坑は竪穴住居に先行して構築したと考えられる。また、遺構東部の床面付近では石皿が２点出土した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－71）

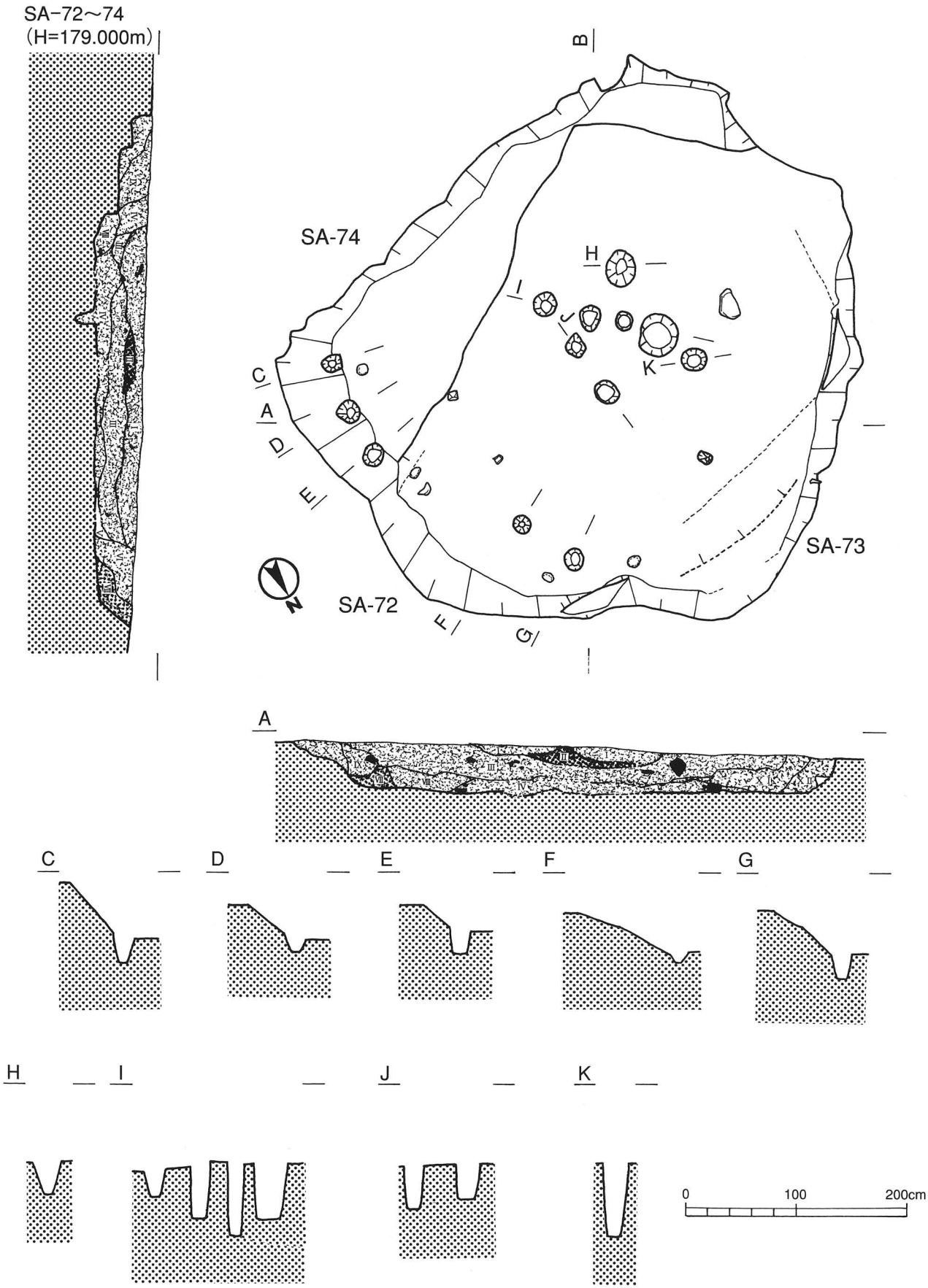
Ｃ区中央部、東側竪穴住居群より西側の窪地遺構内側で検出した。（ＳＣ－158,159）に接しており、土層断面の切り合いから（ＳＣ－159）よりも古いことを確認したが、（ＳＣ－158）との新旧関係は不明である。長軸330cm、短軸210cmのやや歪な隅丸方形を呈する。遺構内から１本の柱穴を検出したが、土坑に削平された可能性もある。遺構西部の床面付近からは石皿が１点出土した。床面は早期ローム層下部であった。

（ＳＡ－72）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－73,74）と密に接しており、土層断面の切り合いから、どれよりも新しいことを確認した。長軸495cm、短軸350cmの、隅の丸い台形を呈する。遺構内から10本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。遺構の覆土上層からは夥しい量の土器が出土し、接合作業により土器の残存状態は良好であることを確認した。一方、床面付近の遺物の出土はごく僅かであった。床面は早期ローム層であり、床面付近は硬化していないものの、貼床と思われる粘質土のブロックが認められた。

（ＳＡ－73）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の北西部で検出した。（ＳＡ－73,74）と密に接しており、土層



第36図　竪穴住居実測図（24）

表10　竪穴住居覆土注記（3）

SA－72

Ⅰ層　10YR黒褐２/２
層は軟質であり（硬さ：５）、粘性はなし。層中に、御池火山灰の大小の粒子を特に多量、スコリア・炭の小片を少量、Ah粒子・焼土粒子・角礫・土器片を微量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐－－（記述なし）
層はやや軟質であり（硬さ：６）、粘性なし。層中に、５cm大のAhブロックを多量、５mm大のAh小ブロックを少量、Ah粒子を中量、スコリアを中量、御池火山灰を多量、炭の小片を微量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐２/２
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性に富む。層中に、御池火山灰の大小の粒子を特に多量、３mm大のAh粒子を少量、赤変した焼土粒子・スコリアを少量含む。御池火山灰の混入の度合いにより、斑紋が見られる。

Ⅳ層　10YR黒褐２/２
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性に富む。層中に、御池火山灰の粒子を多量、１cm大の粘土ブロックを少量、５mm大のAhブロックを微量、Ahの粒子を層全体に少量、スコリアを微量、炭の小片を少量含む。

Ⅴ層　10YR黒２/１
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性に富む。層中に、１cm大のブロックを微量、スコリアを少量、Ah粒子を少量、御池火山灰を中量含む。御池火山灰は、粒子が細かいものばかりである。他に、大小の黒色土が層全体に認められるが、これとAh粒子により、層は斑紋が認められる。

Ⅵ層　10YR黒２/１
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性は殆どない。層中に御池火山灰を特に多量、３mm大のAhブロックを少量、Ah粒子を層全体に中量含む。

Ⅶ層　10YR暗褐３/３
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性は少しあり。層中に御池火山灰を多量、１cm大のAhブロックを少量、Ah粒子を多量、スコリアを少量含む。Ah粒子は部分的に混入の度合いに開きがあり、層全体は斑紋を帯びる。

Ⅷ層　10YR黒２/１
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性に富む。層中に、３mm大の粘土粒子を少量、御池火山灰を多量、炭の小片を少量、スコリアを微量含む。

Ⅸ層　2,5Y黒褐３/２
層は硬く締まっており、（硬さ：８）、粘性に富む。層中に、御池火山灰を多量、２cm大のAhブロックを微量、Ah粒子を中量、焼土粒子を微量、炭の小片を少量含む。Ahの粒子は一様に堆積しており、色調に変化はない。

Ⅹ層　10YR黒２/１
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性はなし。層中に、御池火山灰を多量、Ah粒子を少量、炭の小片を微量、赤変した焼土粒子を微量含む。Ah粒子は層全体に一様に堆積しており、色調に変化はない。

ⅩⅠ層　10YR黒褐２/３
層は硬く締まっており（硬さ:7）、粘性に富む。層中にAh粒子を中量、1.5cm大のAhブロックを少量、御池火山灰を特に多量、炭の小片を少量含む。

ⅩⅡ層　10YR黒褐２/２
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性に富む。層中に、御池火山灰を多量、５mm大のAhブロックを少量、２mm大のAh粒子を少量、炭の小片を微量含む。

断面の切り合いから（ＳＡ－72）より古いことを確認したが、（ＳＡ－74）との新旧関係は不明であった。長軸400cmの隅丸方形を呈すると考えられるが、短軸をはじめ正確な大きさは定かでない。遺構内から柱穴は検出されなかったが、（ＳＡ－72）にある柱穴の一部が含まれる可能性がある。床面は早期ローム層であり、床面付近は若干硬化していた。

（ＳＡ－74）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の北西部で検出した。遺構は（ＳＡ－73,74）と密に接しており、土層断面の切り合いから（ＳＡ－72）より古いことを確認したが、（ＳＡ－73）との新旧関係は不明であった。長軸410cmの隅丸方形を呈すると考えられるが、短軸を始め正確な大きさは定かでない。遺構境界付近から、3本の柱穴の並びを確認した。床面は早期ローム層であり、床面付近には貼床と思われるアカホヤ火山灰層のブロックが多く検出された。

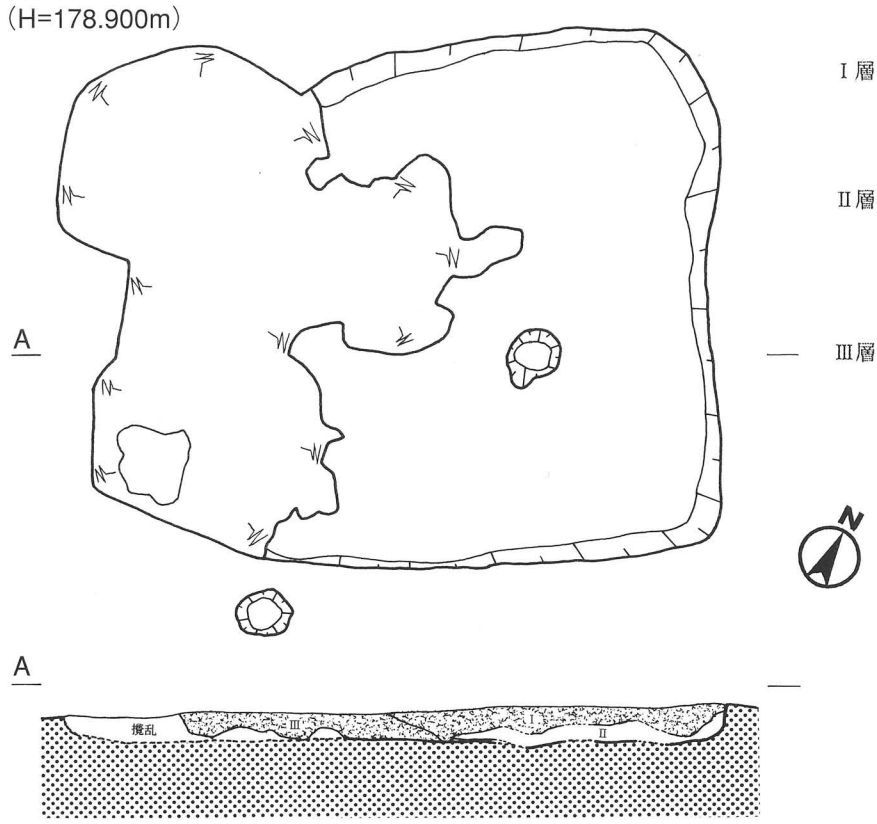
（ＳＡ－75）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の北西端部で検出した。遺構西側は、風倒木により既に破壊されていたために、短軸350cmの歪な隅丸方形を呈すると思われるものの、長軸を始め正確な大きさは定かでない。遺構内から1本の柱穴を検出した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－76）

Ｃ区北西部、道路状遺構の更に西部で検出した。長軸470cm、短軸340cmの隅丸方形を呈する。遺構内から中央土坑以外に3基の土坑を検出したほか、遺構内に8基、遺構境界に2基の柱穴を検出した。床面はアカホヤ火山灰層であった。

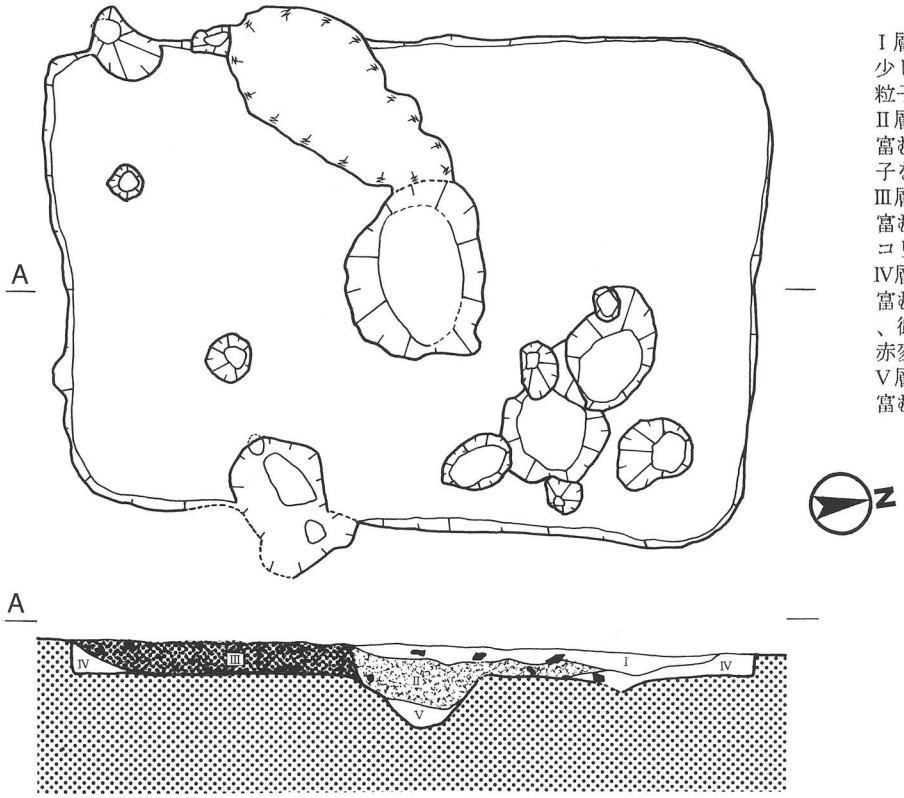
SA-75
(H=178.900m)



Ⅰ層　10YR黒褐２/２
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性なし。御池火山灰を多量、４㎜大のAh粒子を少量、スコリアを少量、炭の小片を微量含む。
Ⅱ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性あり。御池火山灰を多量、２cm大のAhブロックを微量、スコリアを少量、Ahの粒子を微量、炭の小片を微量含む。
Ⅲ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性はなし。御池火山灰を多量、スコリアを少量含む。

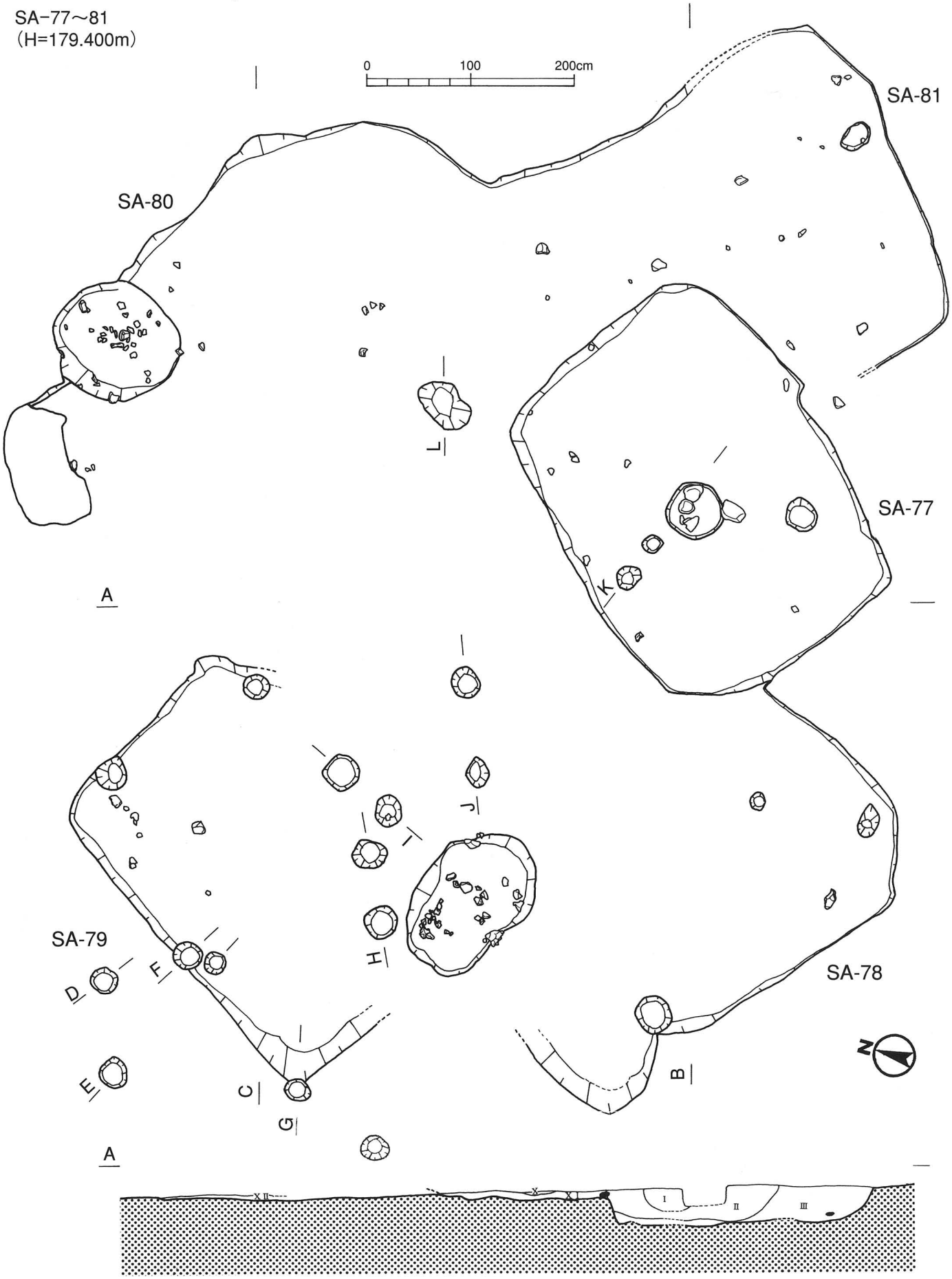
0　100　200cm

SA-76
(H=179.300m)

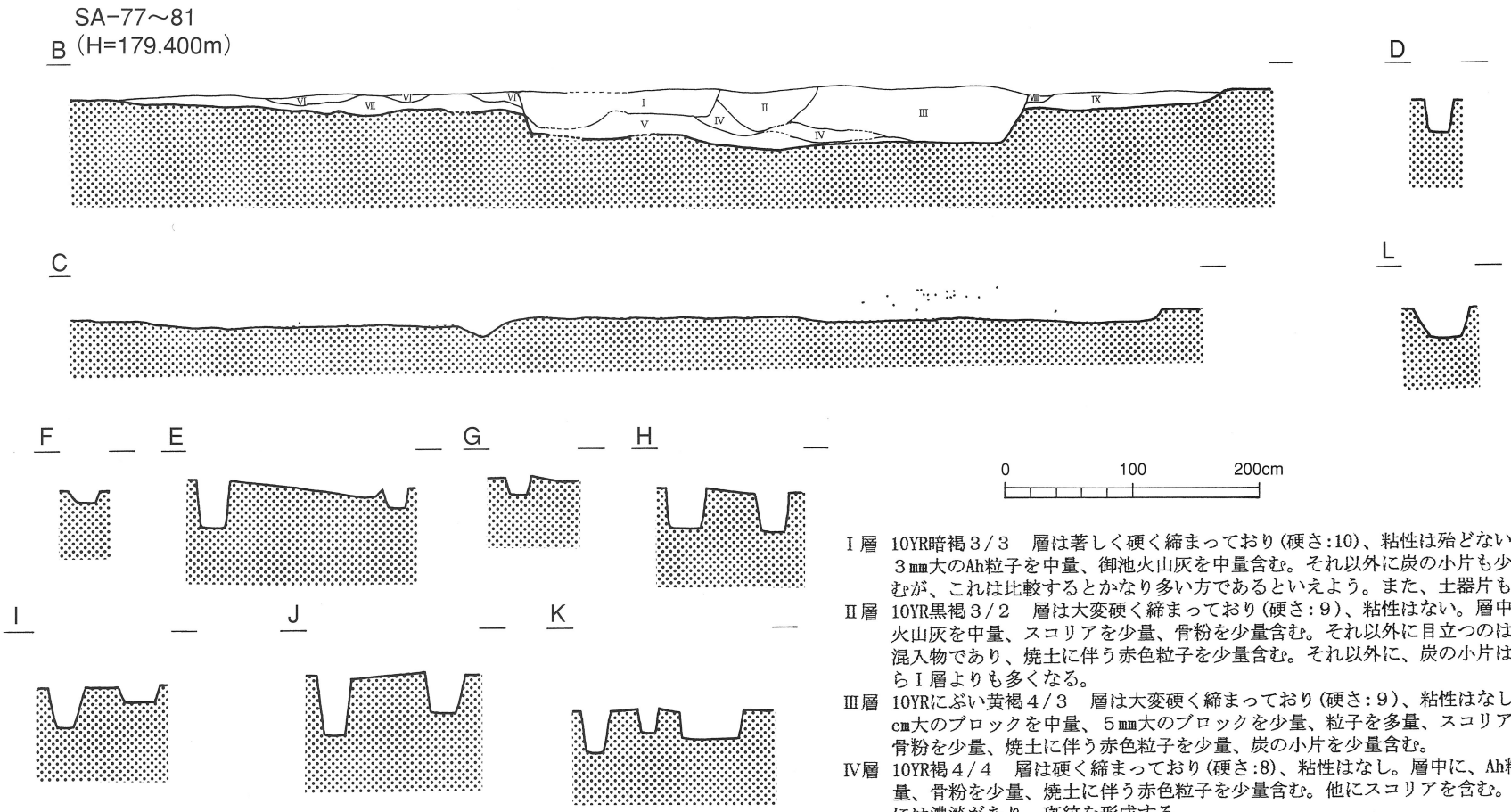


Ⅰ層：10YR暗褐３/３　硬さ：７、粘性少しあり。Ah、５㎜大を微・２cm大を微粒子を中、スコリア・炭を少、御池を中
Ⅱ層：10YR黒褐２/２　硬さ：６、粘性富む。Ah、５㎜大を少、1cm大を少、粒子を少、スコリアを少、御池を多
Ⅲ層：10YR黒褐３/２　硬さ：５、粘性富む。Ah、５㎜大を多、粒子を多、スコリアを中、御池を多、粘土粒子を中
Ⅳ層：10YR黒褐２/４　硬さ：５、粘性富む。Ah、２cm大を少量、粒子を少量、御池火山灰を少量、スコリアを少量、赤変した焼土粒子を微量含む。
Ⅴ層：10YR黒褐３/２　硬さ：４、粘性富む。スコリアを少。

第37図　竪穴住居実測図（25）



第38図　竪穴住居実測図（26）



Ⅰ層　10YR暗褐３/３　層は著しく硬く締まっており（硬さ:10）、粘性は殆どない。層中に３㎜大のAh粒子を中量、御池火山灰を中量含む。それ以外に炭の小片も少量含むが、これは比較するとかなり多い方であるといえよう。また、土器片も多く含む。

Ⅱ層　10YR黒褐３/２　層は大変硬く締まっており（硬さ：９）、粘性はない。層中に、御池火山灰を中量、スコリアを少量、骨粉を少量含む。それ以外に目立つのは熱に伴う混入物であり、焼土に伴う赤色粒子を少量含む。それ以外に、炭の小片は少量ながらⅠ層よりも多くなる。

Ⅲ層　10YRにぶい黄褐４/３　層は大変硬く締まっており（硬さ：９）、粘性はなし。Ahの２㎝大のブロックを中量、５㎜大のブロックを少量、粒子を多量、スコリアを多量、骨粉を少量、焼土に伴う赤色粒子を少量、炭の小片を少量含む。

Ⅳ層　10YR褐４/４　層は硬く締まっており（硬さ:8）、粘性はなし。層中に、Ah粒子を多量、骨粉を少量、焼土に伴う赤色粒子を少量含む。他にスコリアを含む。Ahの混入には濃淡があり、斑紋を形成する。

Ⅴ層　10YR暗褐３/３　層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性あり。早期ロームの２㎝大のブロック、Ahの粒子を中量、焼土に伴う赤色粒子を少量、炭の小片を少量含む。

Ⅵ層　10YR黒褐３/２　層は著しく硬く締まっており（硬さ:10）、粘性はなし。御池火山灰の粒子を中量、スコリアを少量、炭の晶片を少量含む。やや斑紋が見られる。

Ⅶ層　10YR黒褐２/３　層は大変硬く締まっており（硬さ：９）、粘性はなし。３㎜大のAh粒子を少量、スコリアを少量、骨粉を少量、焼土に伴う赤色粒子を微量、炭の小片を少量含む。Ahの混入に濃淡があるため、やや斑紋が見られる。

Ⅷ層　10YR暗褐３/３　層は著しく硬く締まっており（硬さ:10）、粘性はなし。牛のスネローム層の５㎜大のブロックを多量含み、層の殆どを形成するほか、骨粉を少量、炭の小片を少量含む。

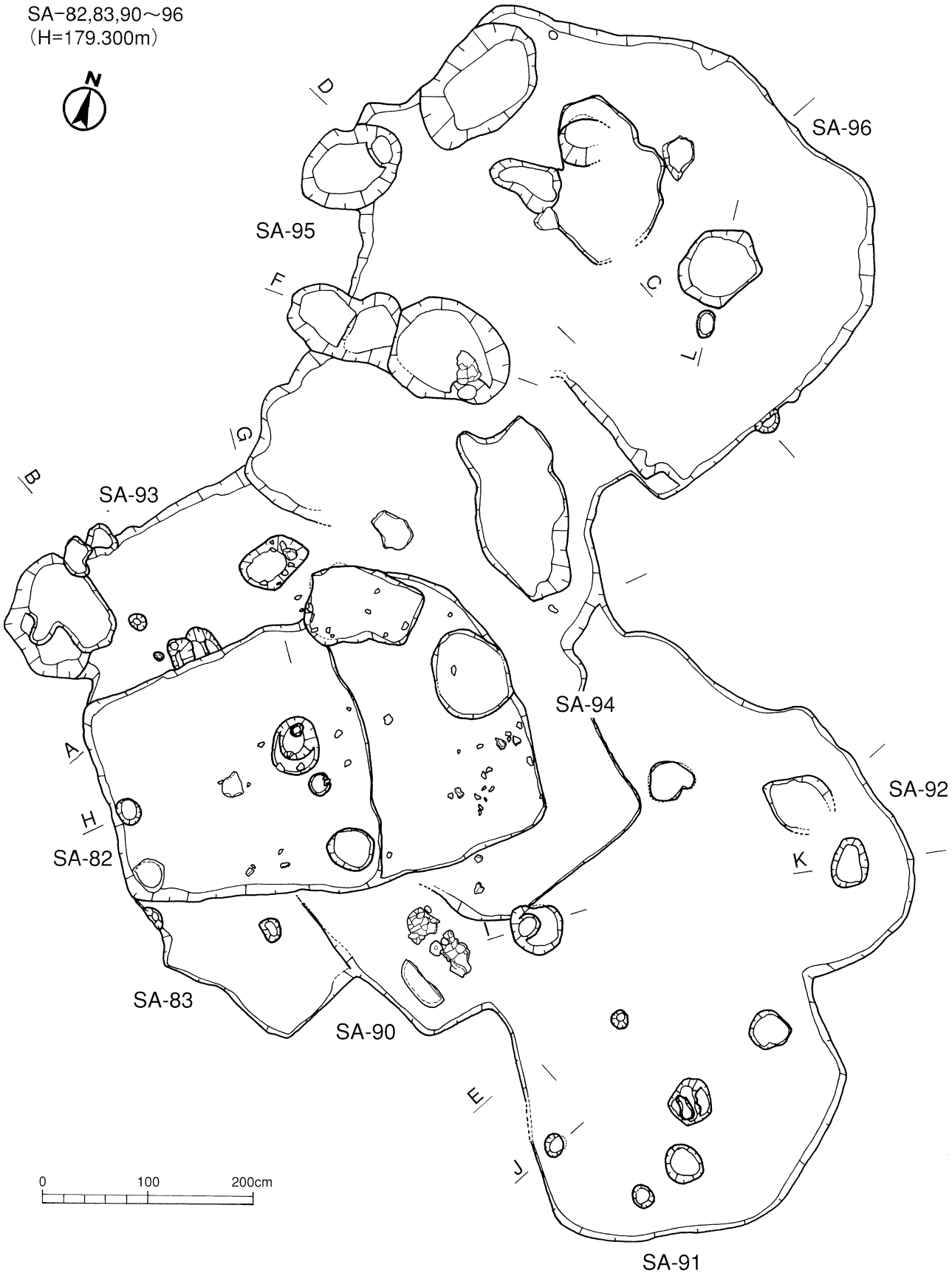
Ⅸ層　10YR暗褐３/２　層は著しく硬く締まっており（硬さ:10）、粘性はなし。御池火山灰を少量、スコリアを少量、２㎜大のAh粒子を少量、炭の小片を少量、粘土の粒子を少量含む。Ahブロックの濃淡により、層は斑紋が見られる。

Ⅹ層　10YRにぶい黄褐４/３　層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性はない。層中に、早期ローム層の５㎜大のブロックを多量、スコリアを中量、御池火山灰を少量、炭の小片を微量含む。

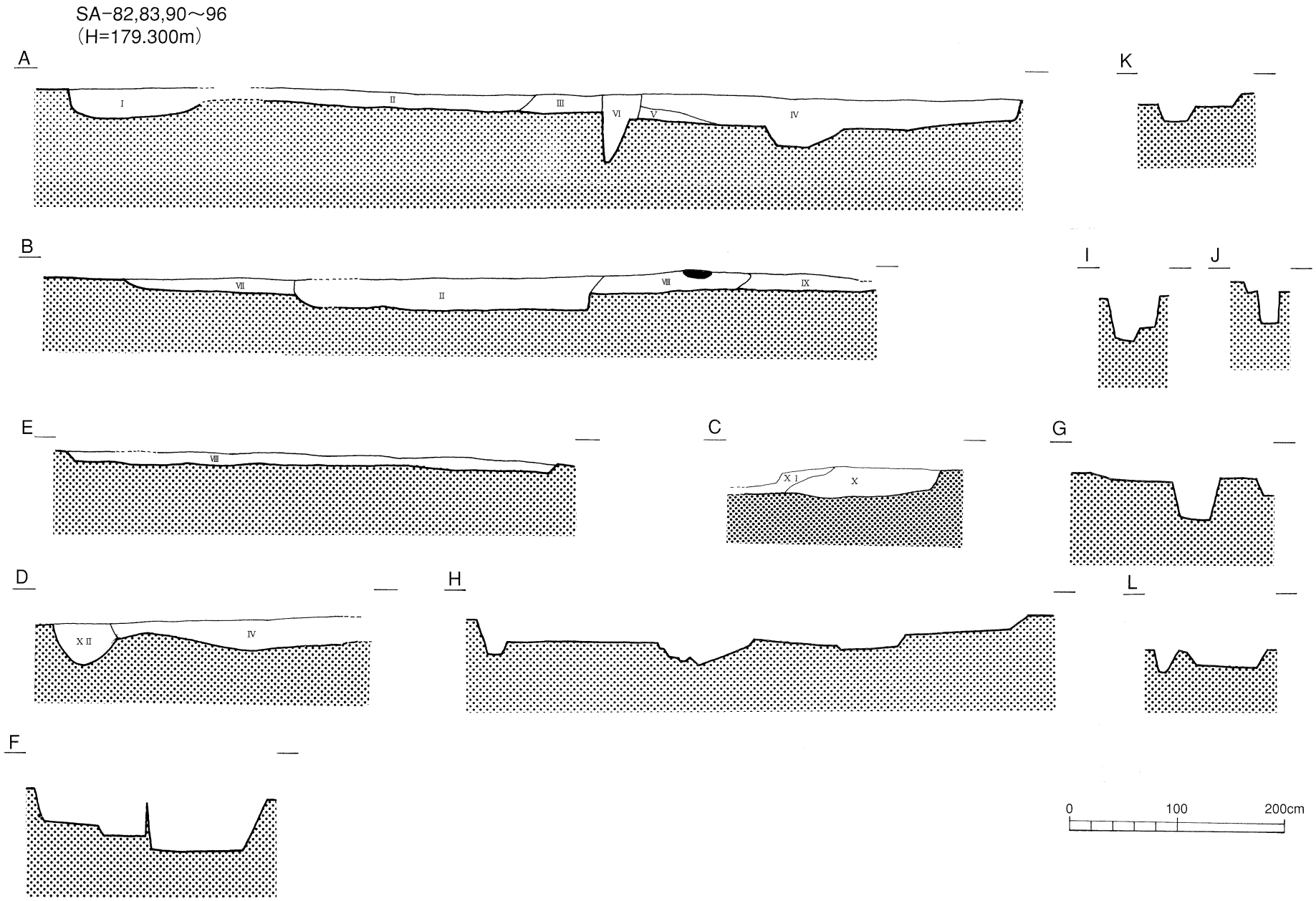
ⅩⅠ層　10YR暗褐３/３　層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性はない。層中に、スコリアを中量、Ahの粒子を中量、御池火山灰を中量、炭の小片を少量含む。

ⅩⅡ層　10YR黒褐２/３　層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。層中に、御池火山灰を少量、スコリアを中量、骨粉を少量、焼土に伴う赤色粒子を少量含む。

第39図　竪穴住居実測図（27）



第40図　竪穴住居実測図（28）



第41図　竪穴住居実測図（29）

（ＳＡ－77）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－78,80,81）と接しており、土層断面の切り合いから、そのいずれよりも新しいことを確認した。長軸365cm、短軸275cmの隅丸方形を呈する。遺構内から中央に礫を伴う土坑と3本の柱穴を検出した。床面は早期ローム層であった。床面付近は、貼床を思わせる牛のスネローム層の堆積が認められた。

（ＳＡ－78）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－77,79）と接しており、（ＳＡ－77）よりも古いことは確認できたが、土層の残存が悪く、（ＳＡ－79）との新旧関係は不明であった。短軸430cmの隅丸方形を呈すると考えられるが、住居の重複により長軸や正確な大きさは定かでない。遺構内から3本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－79）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－78,81）と接しているが、土層の残存が悪く、新旧関係はいずれも不明であった。長軸360cm、短軸240cmの隅丸方形を呈すると考えられるが、一部耕作による削平を受けており、正確な大きさとは限らない。遺構内から6本、遺構境界から2本の柱穴を検出したが、柱穴に相当するピットは竪穴住居周辺にも多く認められることから、このピットが竪穴住居にどれだけ伴うかは不明である。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－80）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－79,81）と接しているが、土層の残存が悪く、新旧関係はいずれも不明であった。一端が急激にカーブすることから隅丸方形を呈すると思われるが、耕作による削平を受けており、正確な大きさは不明である。遺構内から1本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－81）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の南西部で検出した。（ＳＡ－77,80）と接しており、土層断面の切り合いから（ＳＡ－77）よりも古いことを確認したが、土層の残存が悪く、（ＳＡ－80）との新旧関係は不明であった。短軸350cmの隅丸方形を呈すると考えられるが、遺構の重複により正確な大きさは不明である。遺構内に柱穴は認められず、床面付近から大ぶりの礫が出土したのみであった。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－82）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のやや南側で検出した。（ＳＡ－83,90,93）と接しており、土層断面の切り合いから（ＳＡ－90,93）よりも新しいことを確認したが、土層断面がなかったために（ＳＡ－83）との新旧関係は不明であった。長軸400cm、短軸265cmのやや歪な隅丸方形を呈する。遺構内には中央土坑以外に1基の土坑と3本の柱穴を伴うが、隣

表11　竪穴住居覆土注記（4）

SA-82,83,90-96

Ⅰ層　10YR黒1,7/1
層は硬く締まっており(硬さ:7)、粘性に富む。層中には御池火山灰を特に多量、スコリアを少量、炭の晶片を少量、焼けた礫の小片を微量含む。

Ⅱ層　10YR黒1,7/1
層は硬く締まっており(硬さ:8)、粘性に富む。層中に御池火山灰を多量、焼土に伴う赤色粒子を微量、炭の少片を微量含む。

Ⅲ層　10YR暗褐2/3
層は硬く締まっており(硬さ:8)、粘性少しあり。層中に白色粒子を中量、焼土に伴う赤色粒子を少量、炭の少片を少量、Ah火山灰のブロックを多量、粒子を少量含む。

Ⅳ層　10YR黒2/1
層は硬く締まっており(硬さ:8)、粘性に富む。層中に御池火山灰を特に多量、炭の小片を少量、焼土に伴う赤色粒子を少量含む。赤色粒子は、相対的には多い方と言えよう。

Ⅴ層　10YR黒2/1
層は硬く締まっており、粘性に富む。層中に焼土に伴う赤色粒子を少量、炭の小片を少量含むほか、御池火山灰の粒子を、大粒のものも含めて特に多く含む。

Ⅵ層　10YR黒2/1
層は硬く締まっており(硬さ:7)、粘性に富む。層中には、1cm大のAhブロックを少量、炭の小片を少量、焼土に伴う赤色粒子を微量含む以外に、御池火山灰を特に多く含む。御池火山灰は、層の上部ほど混入の密度が高い。

Ⅶ層　10YR黒2/1
層は硬く締まっている(硬さ:7)。層中には、白色粒を多量、炭の小片を少量、スコリアを微量、赤色粒子を微量含む。

Ⅷ層　10YR暗褐2/2
層は大変硬く締まっている(硬さ:9)。層中には、白色粒子を中量、炭の小片を少量、スコリアを少量含む。

Ⅸ層　10YR黒褐2/3
層は硬く締まっている。層中には、白色粒子を少量、Ahのブロックを中量、炭の小片を少量含む。

Ⅹ層　10YR黒褐1,7/1
層中には、御池火山灰の大小の粒子が特に多量、炭の大小の欠片が少量含まれる。層は黒色土と御池火山灰のブロックにより成り立っており、そのため斑紋が見られる。

ⅩⅠ層　10YR暗褐2/2
層中には、早期ローム層下の粘土粒子を多量、御池火山灰を中量、炭の大小の欠片を少量、焼土に伴う赤色粒子を微量含む。

ⅩⅡ層　10YR黒褐1,7/1
層はやや硬く締まっている(硬さ:6)。層中には、御池火山灰層を特に多量、炭の小片を少量含む。

ⅩⅢ層　10YR暗褐2/2
層は硬く締まっており(硬さ:8)、粘性は殆どなし。層中に御池火山灰を多量、スコリアを少量、焼土に伴う赤色粒子を微量、炭の小片を微量含む。他に、1～3cm大のAhブロックを少量含む。

SA-87

Ⅰ層　10YR暗褐3/4
層は硬く締まっており、粘性殆どなし。層中には、御池火山灰が濃淡を持ちながら中量、赤色焼土粒が少量、炭の小片が少量含まれる。御池火山灰以外にも、早期ローム層やアカホや火山灰の粒子が混入し、層には斑紋が顕著に認められる。

Ⅱ層　10YR黒褐2/2
層は硬く締まっており、粘性は少しあり。層中には、御池火山灰を多量、Ahの1cm大のブロックを多量、5mm大のブロックを中量、赤色焼土粒を微量、炭の小片を微量含む。Ah、御池火山灰、粘土ブロックの集合により形成された層である。

Ⅲ層　2,5Y黄褐5/4
層は硬く締まっており、粘性あり。層中には、Ahの粒子が特に多量混入するが、部分的な濃淡が激しく、色調は一定しない。また、炭の小片も少量混入するが、3mm大のものも多く含まれる。

SA-87

Ⅳ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっており、粘性あり。層中には、Ahの粒子が中量、御池火山灰が中量、炭の小片が微量、5mm大の黒色土のブロックが微量含まれる。Ah、御池、黒色土の混合であり、色調は部分的に若干変化がある。

Ⅴ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっており、粘性あり。層中には、御池火山灰を中量、Ahの粒子を少量、炭の小片を微量、赤色焼土粒子を微量、2cm大の、早期ローム及び粘土で構成されたブロックを少量含む。

Ⅵ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっており、粘性あり。層中には、御池火山灰を中量、Ahの5mm大のブロックを少量、5mm以下のブロックを中量、粒子を中量、炭の小片を微量含む。混入物は部分的に濃淡が見られる。

Ⅶ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっている。層中には、Ahの5mm大のブロックを中量、粒子を中量、早期ロームブロックの1cm大を少量、5mm大のブロックを少量、御池火山灰の5mm大のブロックを少量含む。それぞれのブロックははっきり分かれている。

SA-88,89,102

Ⅰ層　2,5Y黒褐2/2
層中には、御池火山灰を特に多量、炭の小片を少量、Ahの1cm大のブロックを微量、5mm大の小ブロックを少量、粒子を中量含む。

Ⅱ層　2,5Y暗オリーブ褐3/3
層中には、御池火山灰を特に多量含むが、Ⅰ層よりも僅かに混入は減少する。Ahは、5mm大のブロックを少量、粒子を層全体に多量含むが、粒子の混入には濃淡があり、斑紋を形成する。他に炭の小片を少量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐2/2
層中には、御池火山灰を中量、Ahの5mm大のブロックを小量、粒子を層全体に少量含む。

Ⅳ層　10YR暗褐3/3
層は硬く締まっており(硬さ:8)、層中には、御池火山灰を中量、炭の小片を少量、Ahの1cm大のブロックを微量含む。

Ⅴ層　10YR黒褐3/2
層はやや硬く締まっており(硬さ:6)、層中には、御池火山灰を中量、炭の小片を少量、Ahの粒子を層全体に少量含む。この他、焼土に伴うと見られる赤色粒子が少量含まれるが、この割合は、焼土としては多い。

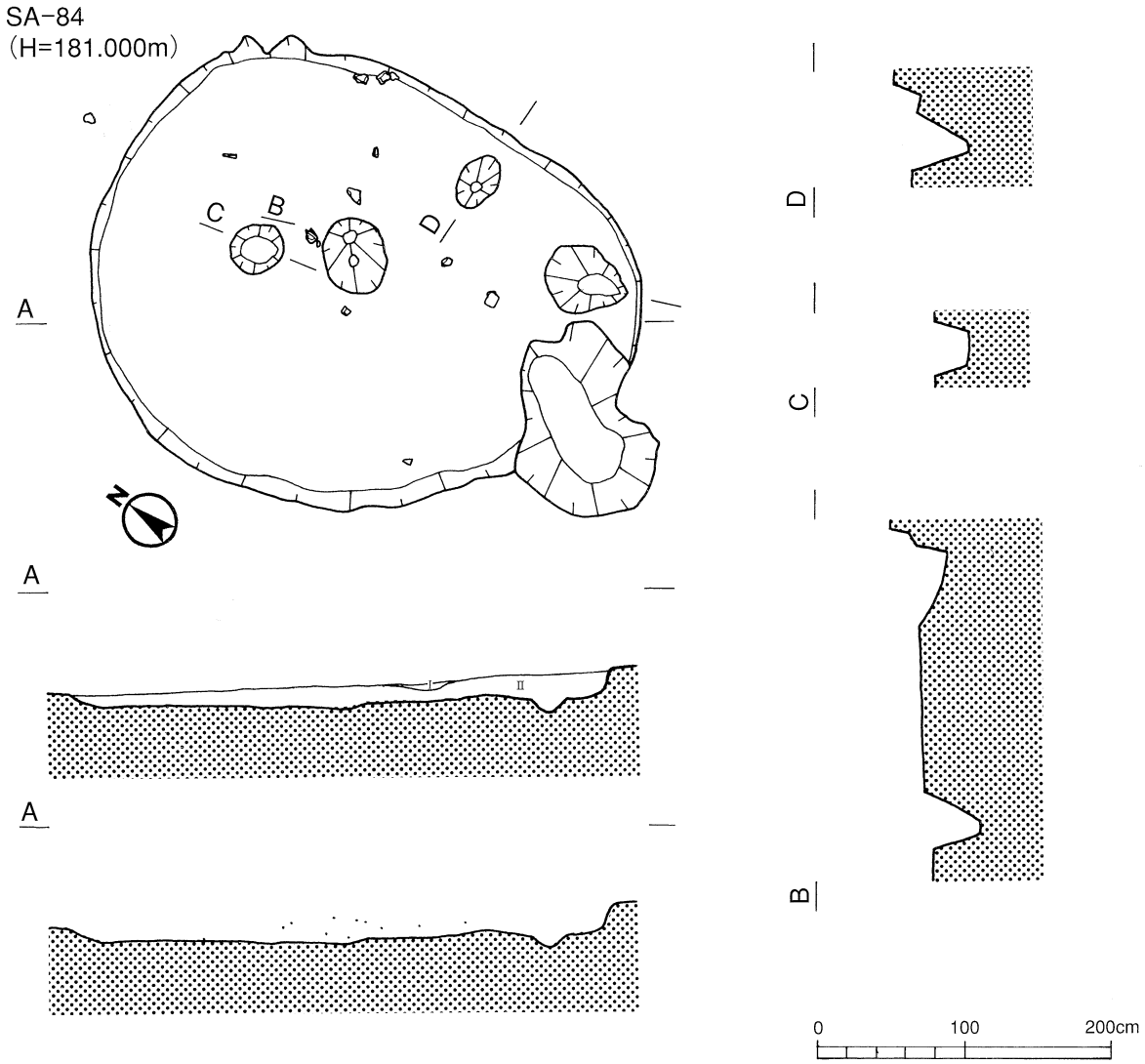
Ⅵ層　10YR黒2/1
層はやや軟質であり(硬さ:5)、層中には、御池火山灰を中量、1cm大のAhブロックを微量、焼土に伴う赤色粒子を微量含む。

Ⅶ層　10YR黒褐3/2
層は硬く締まっており(硬さ:7)、層中には、御池火山灰を多量含むが、濃淡が激しい。炭の小片を少量、焼土に伴う赤色粒子を少量含む。

Ⅷ層　10YR黒2/1
層は硬く締まっており(硬さ:7)、層中には、御池火山灰を多量含む。他に、炭の小片を中量～少量含むが、量としては比較的多い方である。また、焼土に伴う赤色粒子も少量含まれるが、この量も比較的多い。

Ⅸ層　2,5Y暗オリーブ褐3/3
層中には、御池火山灰を特に多量、炭の小片を微量、焼土に伴う赤色粒子を微量含む。この他、Ahの1cm大のブロックを少量、5mm大のブロックを少量、粒子を層全体に中量含む。Ahは、部分的な濃淡が激しく、一部に集中区が見られる。

Ⅹ層　10YR黒褐2/2
層中には、御池火山灰を多量、炭の小片を少量、Ahの3mm大の粒子を微量含む。



Ⅰ層　10YRにぶい黄褐4/3
層は硬く締まっており(硬さ:8)、粘性は殆どない。層中には、炭の小片を少量、白色粒子を中量、赤変した焼土粒子を少量含む。白色粒子は、早期ローム層中に含まれるものとは異なり、焼土に関連する可能性もある。

Ⅱ層　10YR暗褐3/3
層は大変硬く締まっており(硬さ:9)、粘性あり。層中には、炭の小片を少量、骨粉を多量、焼土に伴う赤色粒子を少量、同じく粘土の粒子を中量、焼けた角礫の欠片を少量含む。

第42図　竪穴住居実測図（30）

接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面付近から、石皿が2点出土した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－83）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のやや南側で検出した。（ＳＡ－83,90）と接しており、隅丸方形を呈すると思われるものの、正確な大きさは定かでない。また、土層断面がなかったために、新旧関係は不明であった。遺構内から1本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－84）

Ｃ区南部、（ＳＡ－04）の南東へ約7mの地点で検出した。（ＳＣ－174）と接している

が、土層断面を設定していなかったために、新旧関係は定かでない。長軸390cm、短軸290cmのやや歪な楕円形を呈する。遺構内から中央土坑と3本の柱穴を検出した。床面は早期ローム層下位の粘質土層であった。

（ＳＡ－85）

Ｃ区北東部、北側竪穴住居群の北部で検出した。調査区の境界にかかっており、確認されたのは南側の一部のみである。その上、（ＳＡ－70）に接していたために、平面形態は方形と考えられるものの、正確な大きさは定かでない。また、調査区境界の土層断面から、（ＳＡ－70）よりも古いことを確認した。遺構内から柱穴等は検出されなかった。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－86）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－97）内にあるが、他の竪穴住居よりも深く掘り込まれているために、長軸260cm、短軸160cmの方形を呈することは明らかである。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－97）よりも新しいことを確認した。遺構内から中央土坑も柱穴も検出されず、大ぶりの礫が1個出土したのみであった。しかし覆土上層から、残存状態のよい土器が多量に出土している。このような特徴から、この遺構は竪穴住居ではなく、土器の一括廃棄を目的とした特殊遺構である可能性も考えられる。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－87）

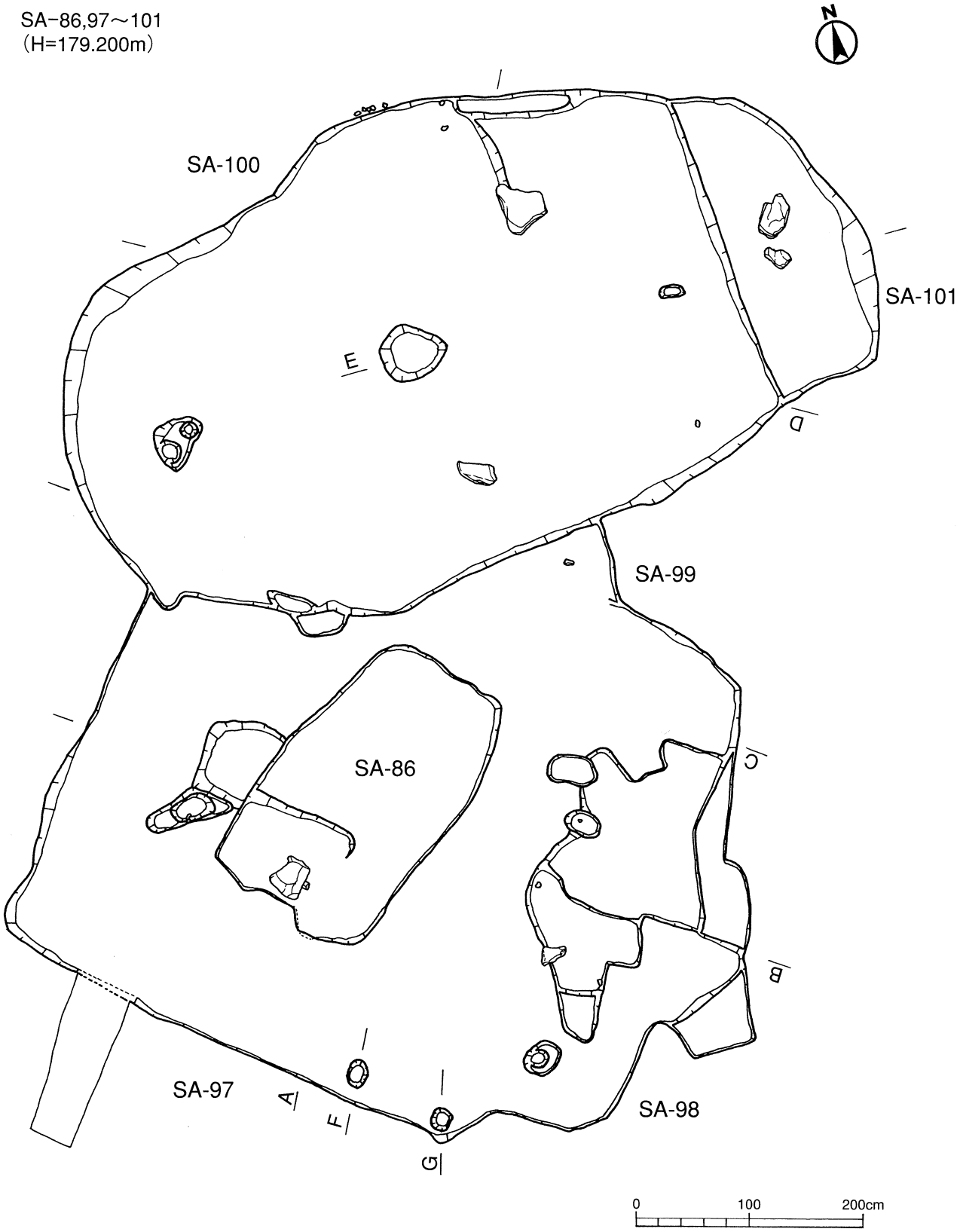
Ｃ区北西部、北側竪穴住居群の南西部で検出した。第2トレンチにより二つに分断されている。長軸370cm、短軸320cmのやや歪な隅丸方形を呈する。中央土坑の部分はトレンチにより削平を受けており不明であるが、遺構内から7本の柱穴を検出した。このほか、床面付近から石皿を2点出土した。床面は早期ローム層下部まで掘り込まれていた。

（ＳＡ－88）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のなかでも北部の調査区境界で検出した。そのため、調査されたのは遺構南部のみであった。（ＳＡ－89,102）とも接しているため、一辺410cmの隅丸方形と考えられるものの、もう一辺の長さや正確な大きさは不明である。また、調査区境界及び土層断面からは新旧関係は確認できなかった。遺構内から両脇にピットを伴う土坑と8本の柱穴を、遺構境界上からも1本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。

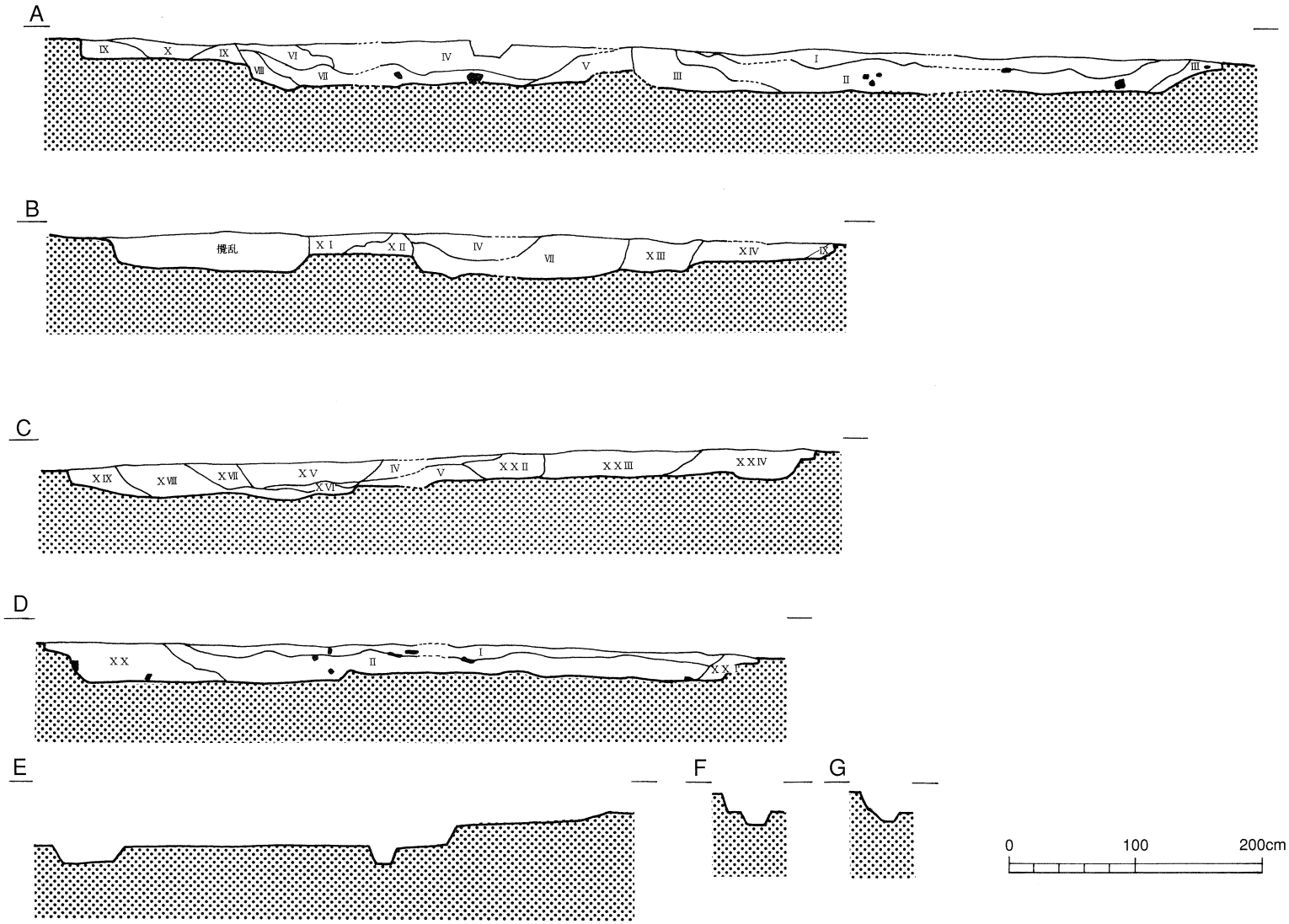
（ＳＡ－89）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のなかでも北部の調査区境界で検出した。そのため、調査されたのは遺構南部のみであった。（ＳＡ－88,102）とも接しているため、一辺560cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、もう一辺の長さや正確な大きさは不明である。また、調査区境界及び土層断面からは新旧関係は確認できなかった。遺構内から中央土坑以外に3基の土坑、14本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は早期ローム層であった。



第43図　竪穴住居実測図（31）

SA-86,97～101
（H=179.200m）



第44図　竪穴住居実測図（32）

表12　竪穴住居覆土注記（5）

SA-86、97-101

Ⅰ層　10YR黒２/１
層はやや硬く締まっており（硬さ：６）、粘性はなし。御池火山灰を特に多量含むが、粒子は細かいものが多い。他に、焼土に伴う赤色粒子を少量、炭の小片を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐２/２
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火山灰を特に多量、スコリアを少量、焼土に伴う赤色粒子を少量、炭の小片を少量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐２/３
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火を特に多量、Ah粒子を中量、炭の小片を少量、焼土に伴う赤色粒子を少量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐２/３
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火山灰を特に多量、３mmのAh粒子を少量、炭の小片、及び焼土に伴う赤色粒子を微量含む。

Ⅴ層　10YR暗褐３/３
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火を多量、Ahの５mm大のブロックを中量、粒子を少量、炭の小片を微量含む。

Ⅵ層　10YR暗褐３/４
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火山灰を中量、Ahの３mm大の粒子を少量、粒子を中量、焼土に伴う赤色粒子を微量含む。

Ⅶ層　10YR黄褐５/８
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火山灰を中量、Ahの２cm大のブロックを微量、粒子を多量含む。

Ⅷ層　10YR暗褐３/４
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性少しあり。御池火山灰を中量、Ahの粒子を多量含む。

Ⅸ層　10YR黄褐５/８
Ahの２cm大のブロック、及び粒子をそれぞれ多量含む。御池火山灰はこの層中には確認されなかった。

Ⅹ層　10YR黒褐２/２
層中に、Ahの５mm大のブロックを微量、粒子を多量含む。

ⅩⅠ層　10YR黒２/１
層中に、御池火山灰を特に多量、３mm大のAh粒子を微量、更に小粒の粒子を少量含む。

ⅩⅡ層　10YR黒褐２/３
層中には、御池火山灰を中量、Ahの１cm大のブロックを少量、粒子を中量含む。

ⅩⅢ層　10YR黒褐２/３
層中には、御池火山灰を多量、早期ローム層の1.5cm大のブロックを微量、及び５mm大のブロックを微量、Ahの粒子を少量含む。

ⅩⅣ層　10YR黒２/１
層中には、御池火山灰を多量、炭の小片を少量、Ahの粒子を少量含む。

ⅩⅤ層　10YR黒褐２/３
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性はない。層中には、御池火山灰を特に多量、Ahの３mm大の粒子を少量、更に小粒の粒子を少量、炭の小片を少量、焼土に伴う赤色粒子を微量含む。

ⅩⅥ層　10YR黒褐２/３
層はやや硬く締まっており（硬さ：6）、粘性に富む。層中には、１cm大のAhブロックを多量、御池火山灰を多量含む。

ⅩⅦ層　10YR暗褐３/２
層中には、御池火山灰を特に多量、２cm大のAhブロックを微量、粒子を少量含む。

ⅩⅧ層　10YR暗褐３/２
層中には、御池火山灰を特に多量、３mm大のAhの粒子を少量、炭の小片を少量含む。その他に、早期ローム層下に堆積する粘土の５mm大のブロックも中量含む。

ⅩⅨ層　10YR黒２/１
層中には、御池火山灰を多量、３mm大のAh粒子を少量含む。

ⅩⅩ層　10YR黒２/１
層はやや硬く締まっており（硬さ：6）、粘性に富む。層中には、Ahの５mm大のブロックを少量、粒子を少量、炭の小片を少量、２cm大の早期ローム下位に堆積する粘土のブロックを少量含む。

ⅩⅩⅠ層　10YR黒２/１
層は大変硬く締まっており（硬さ：９）、粘性に富む。層中に白色粒子を中量、Ahの粒子を中量含む。

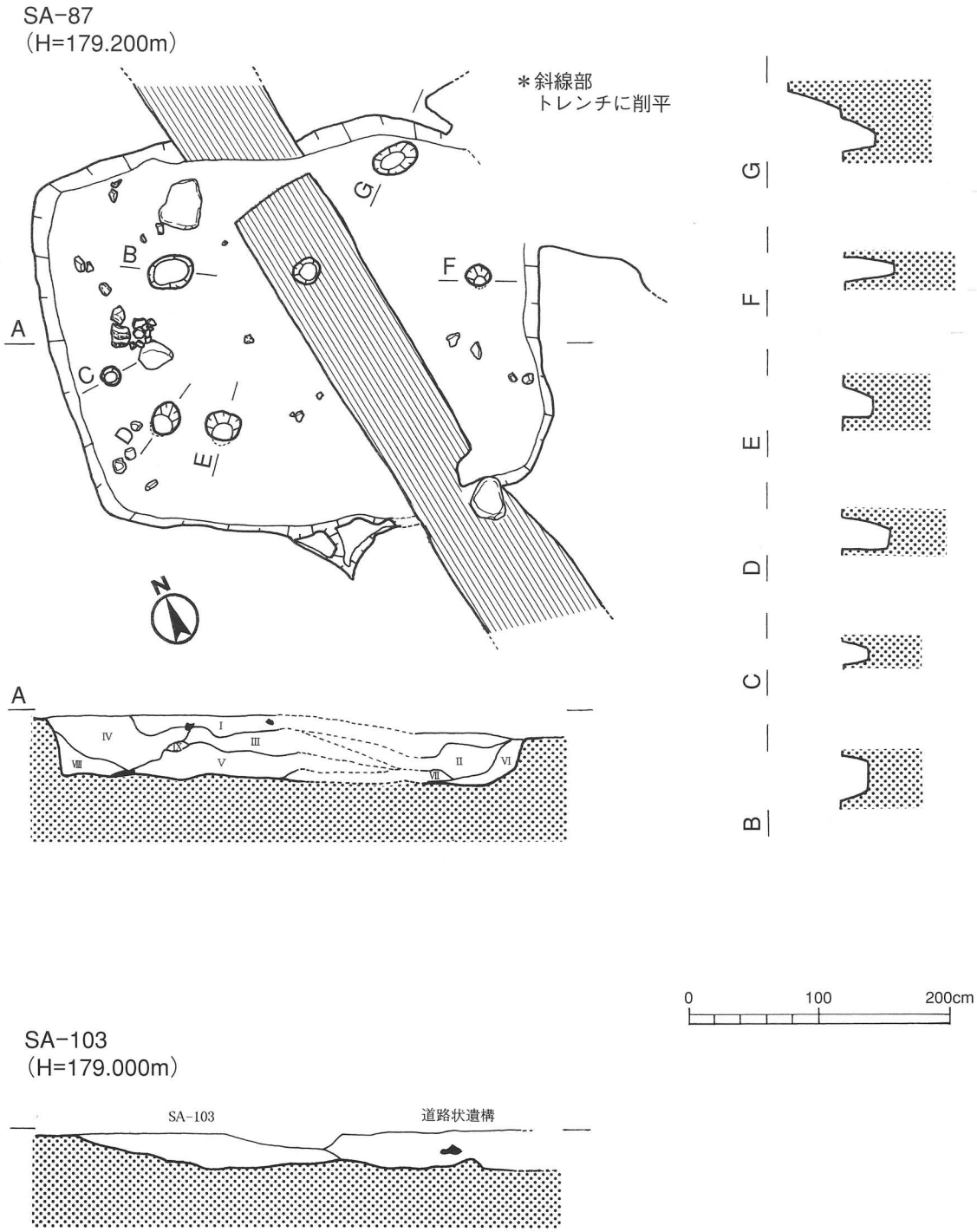
ⅩⅩⅡ～ⅩⅩⅣ層　注記なし

（ＳＡ－90）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のやや南側で検出した。（ＳＡ－82,83,91）と接しており、角が一箇所認められることから隅丸方形を呈すると考えられるものの、正確な大きさは不明である。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－91）より新しく、（ＳＡ－82）よりも古いことを確認したが、（ＳＡ－83）とは土層断面がなかったために、新旧関係は不明であった。遺構内から土坑や柱穴は認められなかったが、隣接する他の竪穴住居に伴う可能性もある。床面から後期末～晩期の土器が良好な状態で出土したほか、石皿も出土した。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－91）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のやや南側で検出した。（ＳＡ－90,92）と接しており、短軸290cmのやや歪な隅丸方形を呈すると考えられるものの、正確な大きさは不明である。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－90）より古いことを確認したが、（ＳＡ－92）との間は土層の残存が悪く、新旧関係は不明であった。遺構内から6本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面付近から石皿を1点出土した。床面は牛のスネローム層であった。



第45図　竪穴住居実測図（33）

（ＳＡ－92）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のやや南側で検出した。（ＳＡ－91,94）と接しており、遺構境界にカーブが認められるものの、残された部分からは竪穴住居の平面形態を想定するのは困難であった。また、土層断面がなかったために、新旧関係は不明であった。遺構内には1基の土坑と2本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－93）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群のやや南側で検出した。（ＳＡ－82,94）と接しており、遺構境界にカーブが認められることから隅丸方形を呈すると考えられるものの、大きさや正確な平面形態は定かでない。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－82）より古く、（ＳＡ－94）よりも新しいことを確認した。遺構内から1基の土坑と3本の柱穴を、境界部から土坑を１基と柱穴を2本検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－94）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－93,95）と接しており、短軸210cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、長軸や正確な平面形態は定かでない。また、土層断面が設定されなかったため、新旧関係はいずれにおいても不明であった。遺構内に土坑や柱穴は認められなかったが、隣接する竪穴住居に含まれている可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－95）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－94,96）と接しており、検出時に角が認められたことから、一辺390cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、もう一辺及び正確な大きさは定かでない。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－96）より古いことを確認したが、土層断面を設定した地点に土坑が認められたため、（ＳＡ－94）と新旧関係は不明であった。遺構内から2基の土坑を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。北側の土坑内から無文の土器が良好な状態で出土した。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－96）

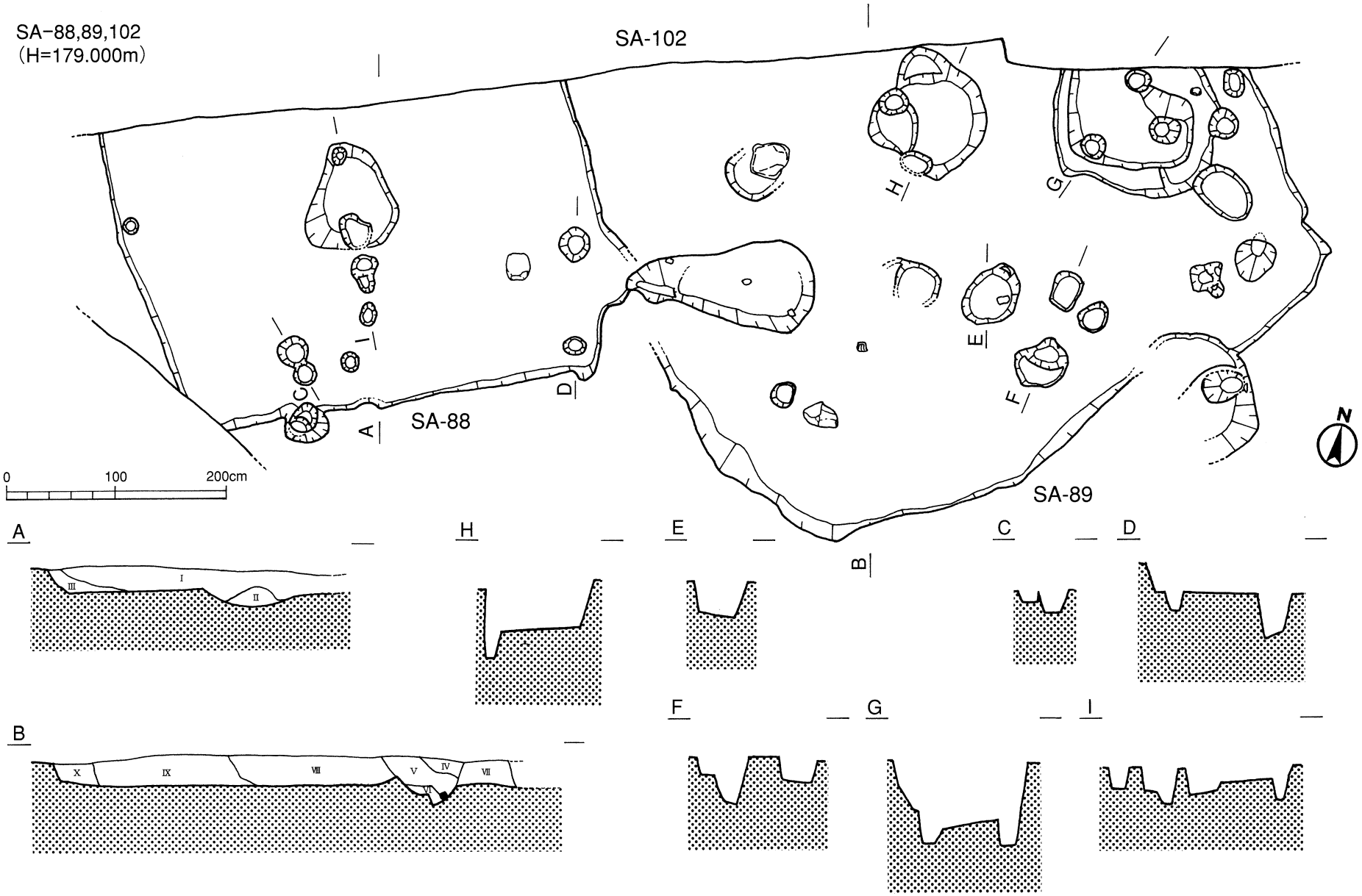
Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－95）と接しており、長軸470cm、短軸410cmの歪な隅丸方形を呈する。また、土層断面の切り合いから（ＳＡ－95）より新しいことを確認した。遺構内から中央土坑以外に2基の土坑と1本の柱穴を、境界部から1基の土坑を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－97）

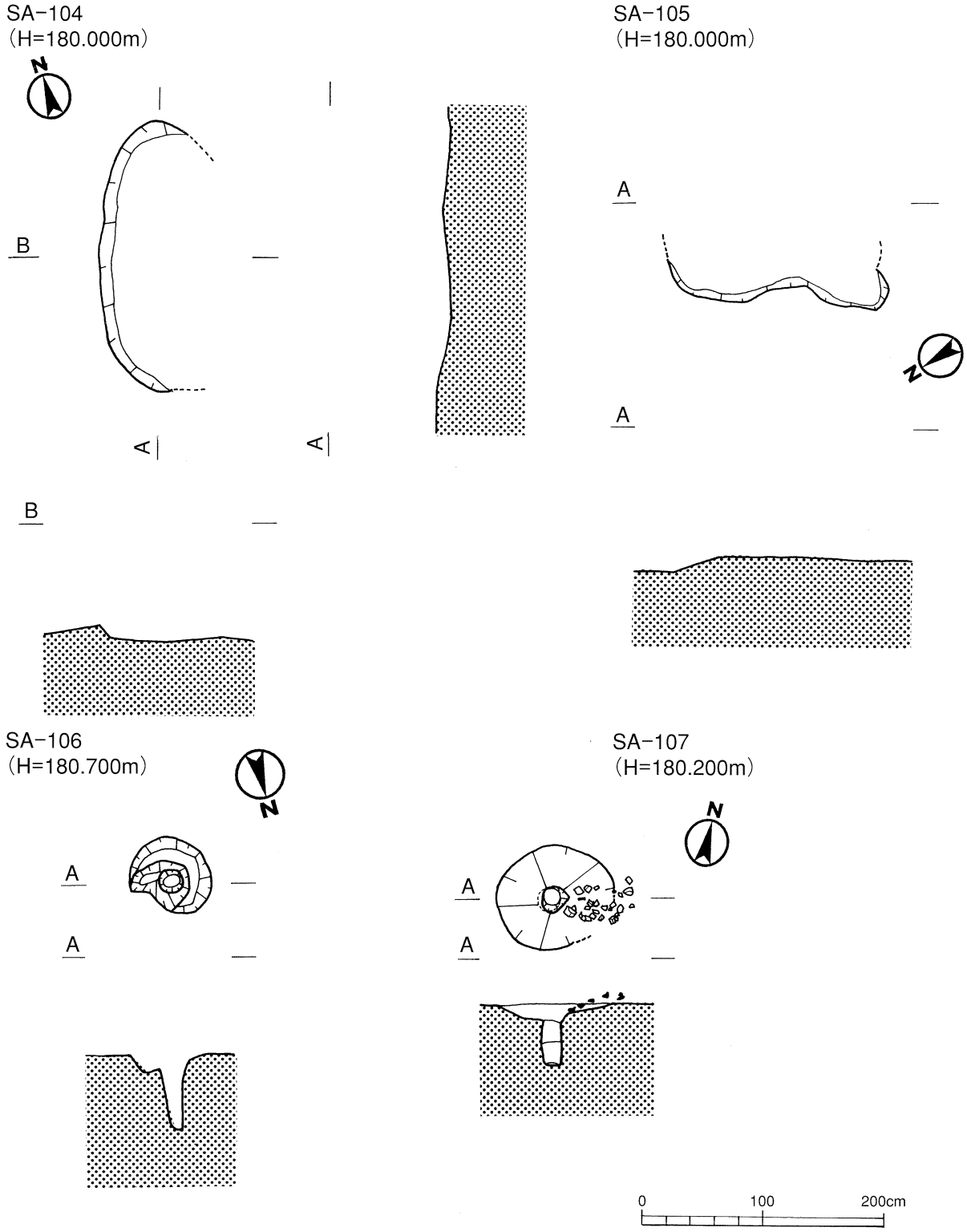
Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。長軸510cm、短軸500cmの隅丸方形を呈する。（ＳＡ－86,98）と接しており、土層の切り合いから（ＳＡ－86）よりも古いことを確認したが、土層断面を設定した箇所に風倒木があったため、（ＳＡ－98）との新旧関係は不明であった。遺構内から４本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－98）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－97）と接しており、大半が消失しているため、角の存在から隅丸方形を呈すると考えられるものの、正確な大きさは定



第46図　竪穴住居実測図（34）



第47図　竪穴住居実測図（35）

かでない。また、土層断面を設定した箇所に風倒木もあり、新旧関係は不明であった。遺構内から1本の柱穴を検出したが、隣接する竪穴住居に伴う可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－99）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－97,100）と接しており、大半が失われている。そのため、大きさや平面形態は不明である。また、土層断面がなかったために、新旧関係は不明であった。遺構内に柱穴は検出されなかったが、隣接する他の竪穴住居に含まれている可能性もある。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－100）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－97,101）と接しており、長軸600cm、短軸410cmの歪な楕円形を呈する。また、土層断面の切り合いより、いずれよりも新しいことを確認した。遺構内から中央土坑と3本の柱穴を確認したが、隣接する他の竪穴住居に伴う可能性もある。このほか、床面付近からは石皿が2点出土した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－101）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の中央部で検出した。（ＳＡ－100）と接しており、短軸280cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、正確な大きさは不明である。また、土層断面の切り合いより（ＳＡ－100）より古いことを確認した。遺構内から土坑や柱穴は検出されなかったが、隣接する他の竪穴住居に伴う、若しくは削平された可能性もある。このほか、床面付近からは大ぶりの礫が2点出土した。床面は牛のスネローム層であった。

（ＳＡ－102）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の北部にあたり、調査区境界により遺構南部のみ検出した。（ＳＡ－88,89）と接しており、大半を消失している。そのため、大きさ、平面形態ともに不明である。また、調査区境界及び土層断面からは新旧関係は確認できなかった。遺構内から柱穴を伴う土坑を1基と柱穴を1本検出したが、隣接する他の竪穴住居に含まれる可能性もある。柱穴の上部からは、大ぶりの礫が出土した。床面は早期ローム層であった。

（ＳＡ－103）

Ｃ区北部、北側竪穴住居群の西はずれで検出した。道路状遺構と接しており、土層断面から道路状遺構よりも古いことを確認した。長軸345cm、短軸240cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、道路状遺構により削平されたため、正確な大きさは不明である。内部構造も不明であった。

（ＳＡ－104）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北はずれで検出した。斜面上に構築されたため、御池火山灰層を床面としていた東側は調査時に削平され、一部しか検出できなかった。そのため、竪穴住居の平面形態及び大きさは不明である。

（ＳＡ－105）

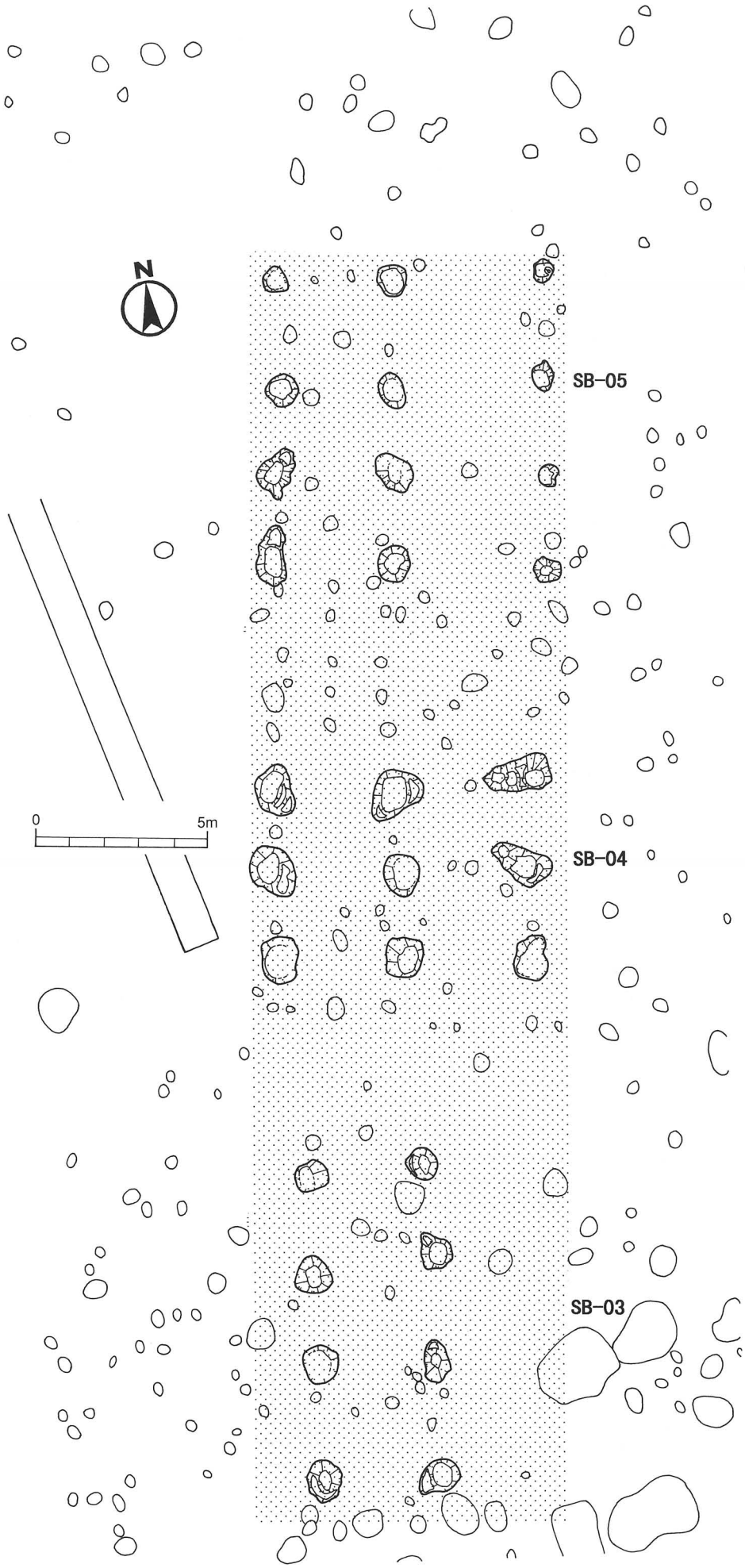
Ｃ区東部、東側竪穴住居群の北はずれで検出した。斜面上に構築されたため、御池火山

表13　竪穴住居観察表(1)

番号	区	形状	面積(㎡)	柱穴	中央土坑	両脇ピット	硬化面	貼床	出土遺物									推定時期	備考
									Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅹ		
SA-01	B	円形	6.76	11	○	×	×	×			7	1						Ⅲ	
SA-02	B	隅丸方形		0	×	×	×	×										古代	須恵器、縄文早期各1
SA-03	C	円形	7.9	6(+α)	×	×	×	×	2	2	19	2	5	1	2			Ⅲ	縄文早期2
SA-04	C	隅丸方形	20.44	7	×	×	×	×											
SA-05	C	楕円形	17.25	13	×	×	×	×		1								Ⅱ	
SA-06	C	円形		5	○	○	×	×		2	15	10	7		1			Ⅳ	台付皿形2、縄文早期1
SA-07	C	隅丸方形	12.2	3	×	×	×	×			1							Ⅲ	
SA-08	C	不定形	25.46	8	○	○	×	×		21		1						Ⅱ	重複の可能性
SA-09	C	隅丸方形	11.73	6	×	×	×	×											
SA-10	C	隅丸方形	14.63	4	×	○	×	×											
SA-11	C	不正円形	24.02	13	○	×	○	×		1	4							Ⅲ	重複の可能性、縄文早期1
SA-12	C	隅丸方形	12.23	1	×	×	×	×			8				1			Ⅲ	
SA-13	C	隅丸方形	15.92	2	○	×	×	×		1	7	1						Ⅲ	
SA-14	C	円形	*14.99	8	?	?	×	×											
SA-15	C	隅丸方形	12.72	17(−α)	○	×	×	×		1								Ⅱ	
SA-16	C	不明	6.23	2	○	×	×	×											
SA-17	C	隅丸方形	11.37	4	×	×	×	×		1								Ⅱ	
SA-18	C	隅丸方形		9	○	○	×	×											
SA-19	C	不明		不明	×	×	×	×		2								Ⅱ	
SA-20	C	隅丸方形	—	6	×	×	×	×											
SA-21	C	隅丸方形	11.51	16(−α)	○	×	×	×			1				1			Ⅲ	
SA-22	C	隅丸方形	15.58	4(−α)	×	×	×	×		1	18							Ⅲ	
SA-23	C	隅丸方形	*11.4	0(+α)	?	?	×	×			6							Ⅲ	
SA-24	C	隅丸方形	*5.37	0	×	×	×	×			2							Ⅲ	床面に集石遺構
SA-25	C	隅丸方形	*12.51	0	○	×	×	×			4							Ⅲ	
SA-26	C	隅丸方形		4(+α)	?	?	×	×		2	6							Ⅱ・Ⅲ	
SA-27	C	隅丸方形	15.98	1(±α)	×	×	×	×		1	4	1						Ⅲ	
SA-28	C	隅丸方形	*18.72	3(±α)	○	×	×	×											
SA-29	C	隅丸方形	*17.82	1(±α)	×	×	×	×			3							Ⅲ	
SA-30	C	隅丸方形		1(±α)	×	×	×	×											
SA-31	C	隅丸方形		2	×	×	×	×		1	1							Ⅱ・Ⅲ	
SA-32	C	不定形	13.1	1	×	×	×	×											
SA-33	C	円＋隅丸	32.42	9	○	×	×	×											
SA-34	C	歪な円形	23.47	11	○	×	×	×		2	2						1	Ⅱ・Ⅲ	
SA-35	C	隅丸方形	24.93	9	○	○	×	×		1	1							Ⅱ・Ⅲ	
SA-36	C	台形		2(±α)	○	×	○	×			3							Ⅲ	
SA-37	C	方形		3(±α)	○	×	○	×			3	1						Ⅲ	
SA-38	C	隅丸方形		8(±α)	×	×	×	×				1						Ⅳ	
SA-39	C	不明		3(±α)	○	×	×	×											
SA-40	C	方形		5(+α)	○	×	×	×		1	7							Ⅲ	
SA-41	C	歪な楕円		1(±α)	×	×	×	×			3							Ⅲ	
SA-42	C	隅丸方形		4(±α)	×	×	×	×		2	3			1				Ⅱ	
SA-43	C	隅丸方形		2(±α)	×	×	×	×			6							Ⅲ	
SA-44	C	不明		11(±α)	×	×	×	×			4							Ⅲ	
SA-45	C	隅丸方形		4(±α)	○	×	×	×		3	3	4			1			Ⅱ～Ⅳ	
SA-46	C	隅丸方形		0(+α)	×	×	×	×	1		17							Ⅲ	
SA-47	C	不明		1(±α)	○	×	×	×		4	5							Ⅱ	
SA-48	C	隅丸方形		1(±α)	×	×	×	×	1	1	6							Ⅲ	
SA-49	C	隅丸方形		4(±α)	○	×	×	×		3	3	1						Ⅱ	土器集中区あり
SA-50	C	不明		1(±α)	×	×	×	×											
SA-51	C	隅丸方形		4(±α)	○	×	×	×			4	3						Ⅲ・Ⅳ	
SA-52	C	隅丸方形		1(±α)	○	○	×	×		5	6							Ⅱ	
SA-53	C	不定形		5(±α)	2	2	×	×		1	12							Ⅲ	2軒重複の可能性
SA-54	C	隅丸方形		1(±α)	○	○	×	×		9	2							Ⅱ	
SA-55	C	隅丸方形		1(±α)	×	×	×	×			1								
SA-56	C	隅丸方形		5(±α)	×	×	×	×		3	5							Ⅱ	
SA-57	C	不明		9(±α)	×	×	×	×		2	3							Ⅱ	

表14　竪穴住居観察表(2)

番号	区	形状	面積(㎡)	主柱穴	中央土坑	両脇ピット	硬化面	貼り床	出土遺物 I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	X	推定時期	備考
SA-58	C	隅丸方形		4(±α)	×	×	×	×		3	7							III	
SA-59	C	方形		0(+α)	×	×	×	×											
SA-60	C	不定形		4(±α)	×	×	×	×		5	3							II	
SA-61	C	不明		0(+α)	×	×	×	×											
SA-62	B	不明	*1.18	0	○	○	×	×											
SA-63	C	隅丸方形	16.77	10	○	○	×	○		1	15							III	
SA-64	C	不明		3	○	○	×	×											
SA-65	C	不明		4	○	×	×	×											
SA-66	C	不明		11	○	×	○	×											
SA-67	C	隅丸方形	*21.14	4	×	×	○	×		15	5	1					2	II	
SA-68	C	不明		8	○	×	×	×											
SA-69	C	隅丸方形		7	×	×	×	×											
SA-70	C	隅丸方形		3	×	×	×	×		10	5							II	
SA-71	C	隅丸方形	*7.82	2	×	×	×	×		1	4	3	3	1				III～V	
SA-72	C	不定形	*20.5	10(±α)	×	×	×	×											土器一括廃棄
SA-73	C	隅丸方形		3(±α)	×	×	×	×											
SA-74	C	隅丸方形		0(+α)	×	×	×	×											
SA-75	C	隅丸方形		2(+α)	?	?	×	×											
SA-76	C	隅丸方形	18.46	7	⊖	×	×	×		7	10							II	
SA-77	C	隅丸方形	11.34	3	○	×	×	○		1	1							II・III	
SA-78	C	隅丸方形		3(±α)	×	×	×	×		4								II	
SA-79	C	隅丸方形	*11.45	10(±α)	×	×	×	×											
SA-80	C	隅丸方形		0	×	×	×	×											
SA-81	C	隅丸方形		1	×	×	×	×											
SA-82	C	隅丸方形	12.26	4(±α)	○	×	×	×											
SA-83	C	隅丸方形		1(±α)	×	×	×	×			2							III	
SA-84	C	楕円形	11.62	4	×	×	×	×											
SA-85	C	隅丸方形		0	×	×	×	×											
SA-86	C	隅丸方形	4.72	0	×	×	×	×											土器一括廃棄
SA-87	C	隅丸方形	*13.56	7	?	?	×	×		1	7				1			III	
SA-88	C	隅丸方形		9	○	○	×	×		8	3							II	
SA-89	C	隅丸方形		1(±α)	○	×	×	×											
SA-90	C	隅丸方形		0(+α)	×	×	×	×									1	X	
SA-91	C	楕円形		3(±α)	○	×	×	×											
SA-92	C	楕円形		0	×	×	×	×											
SA-93	C	隅丸方形		1(±α)	×	×	×	×											
SA-94	C	隅丸方形		0(+α)	×	×	×	×											
SA-95	C	隅丸方形		0(+α)	×	×	×	×											
SA-96	C	不定形		2	○	×	×	×											
SA-97	C	隅丸方形	*25.39	3(±α)	×	×	×	×									5	X	
SA-98	C	隅丸方形		3(±α)	×	×	×	×		1	1							II・III	
SA-99	C	不明		0(+α)	×	×	×	×											
SA-100	C	不定形	26.38	2(±α)	○	×	×	×	2	4								II	
SA-101	C	隅丸方形		0(+α)	×	×	×	×											
SA-102	C	隅丸方形		6(±α)	×	×	×	×		4	1							II	
SA-103	C	隅丸方形		0	×	×	×	×											道路に一部かかる
SA-104	C	不明		0	?	?	×	×											
SA-105	C	不明		0	?	?	×	×											
SA-106	C	不明		0	○	×	×	×											
SA-107	C	不明		0	○	×	×	×			3							III	
SA-108	D	円形		?	?	?	?	?											
SA-109	D	円形		?	?	?	?	?											
SA-110	E	隅丸方形		?	?	?	?	?											
SA-111	F	円形		?	?	?	?	?											
SA-112	F	円形		?	?	?	?	?											
SA-113	*	隅丸方形		?	?	?	?	?											
SA-114	*	隅丸方形		?	?	?	?	?											



第48図　列状掘立柱建物全体図

灰層を床面としていた東側は調査時に削平され、一部しか検出できなかった。そのため、竪穴住居の平面形態及び大きさは不明である。

（ＳＡ－106）

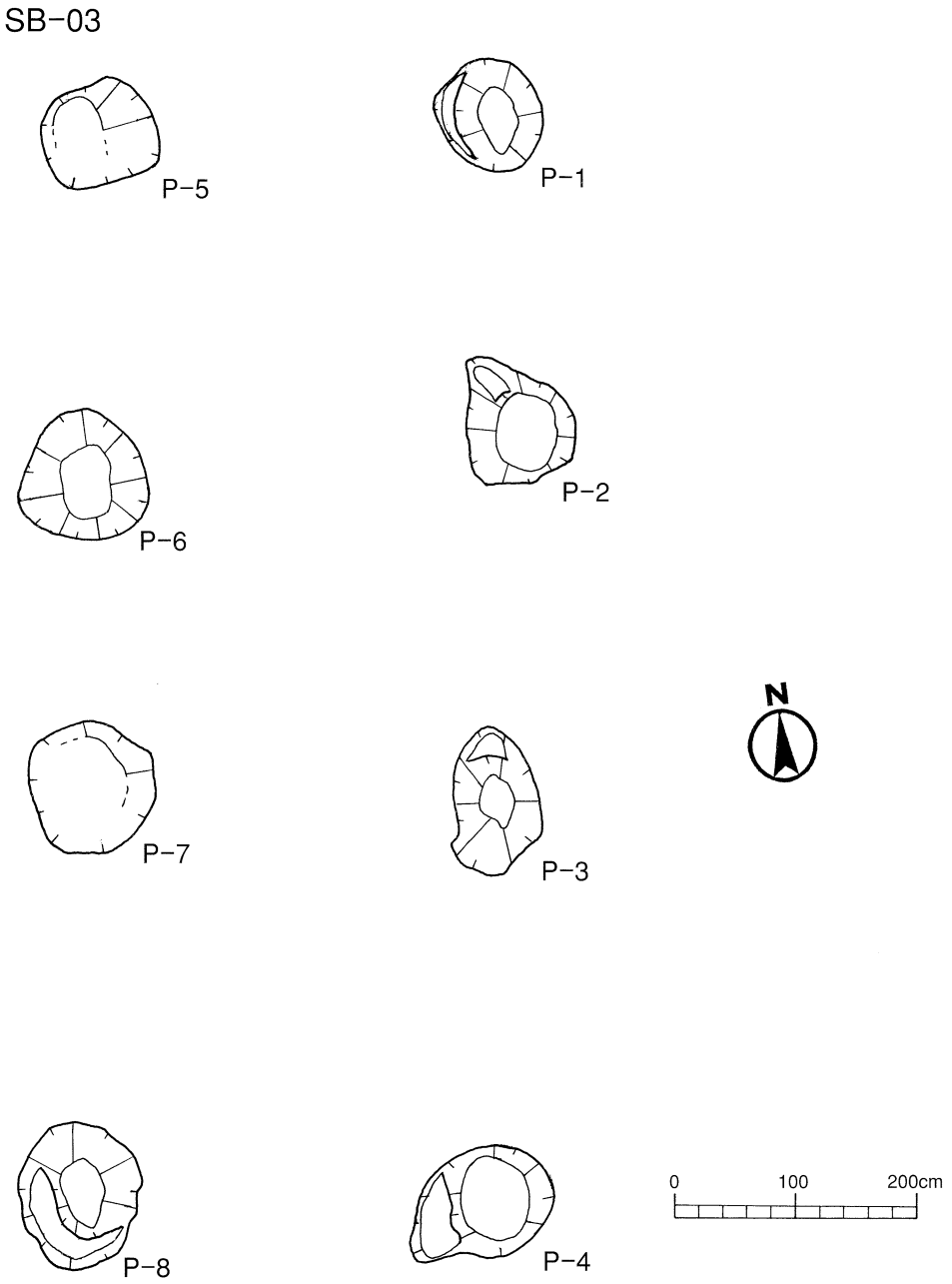
Ｃ区東部、東側竪穴住居群の南部で検出した。御池火山灰層を床面としていたと考えられる。そのため、床面は調査時に削平されており、確認されたのは中央土坑のみであった。

（ＳＡ－107）

Ｃ区東部、東側竪穴住居群の南部で検出した。御池火山灰層を床面としていたと考えられる。竪穴住居の床面は調査時に削平されており、確認されたのは中央土坑のみであった。中央土坑付近からは土器片が多く確認されたが、これらは殆ど別個体であった。

（ＳＡ－108）

Ｅ区西部、調査区の境界で検出した。確認されたのはごく一部であり、一辺210cmの隅丸方形を呈すると考えられるものの、もう一辺及び正確な平面形態は不明である。調査は検出面の確認で終



第49図　列状掘立柱建物実測図（1）

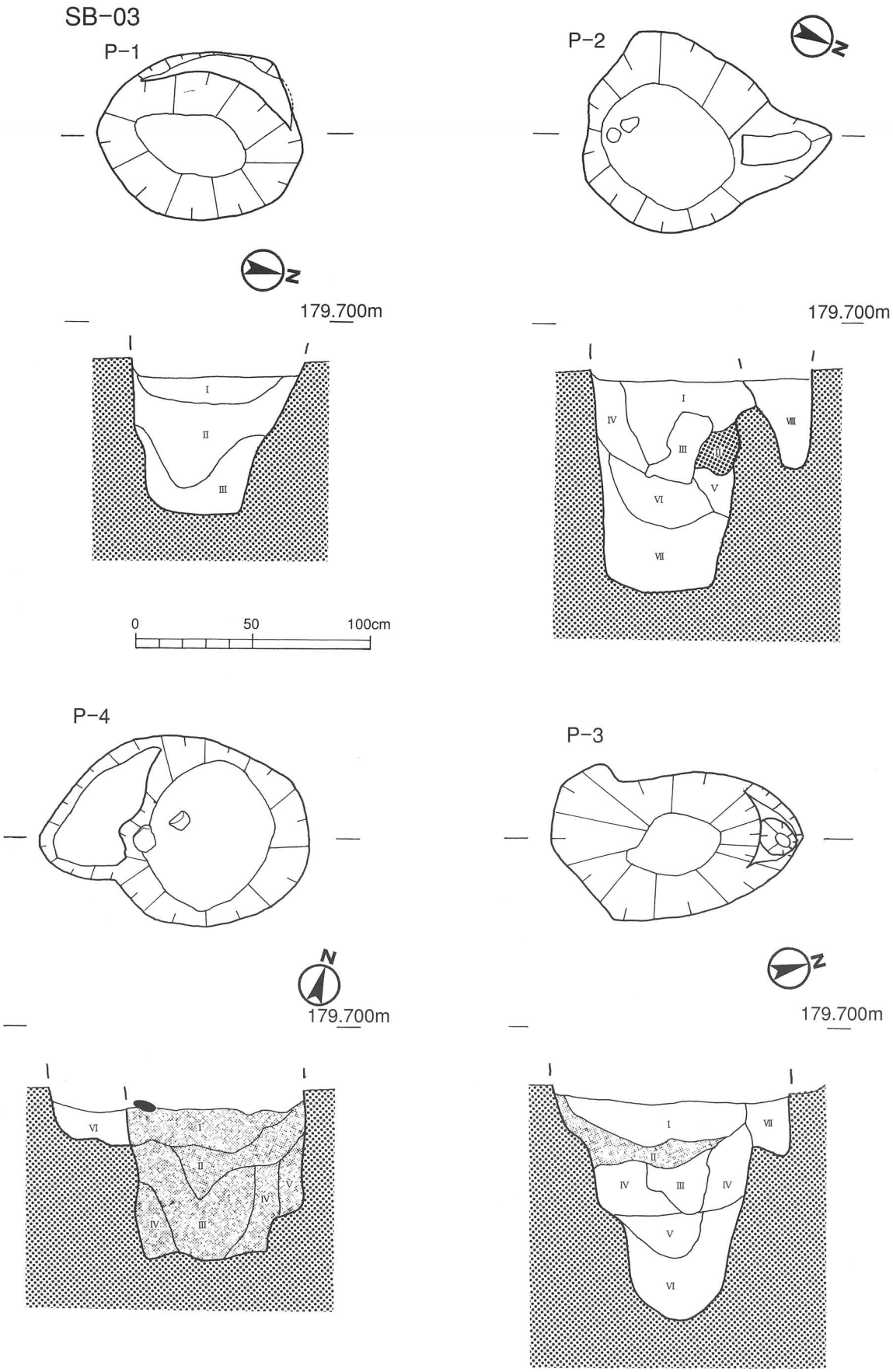
わっているため、遺構内の構造や出土遺物は不明である。

（ＳＡ－109）

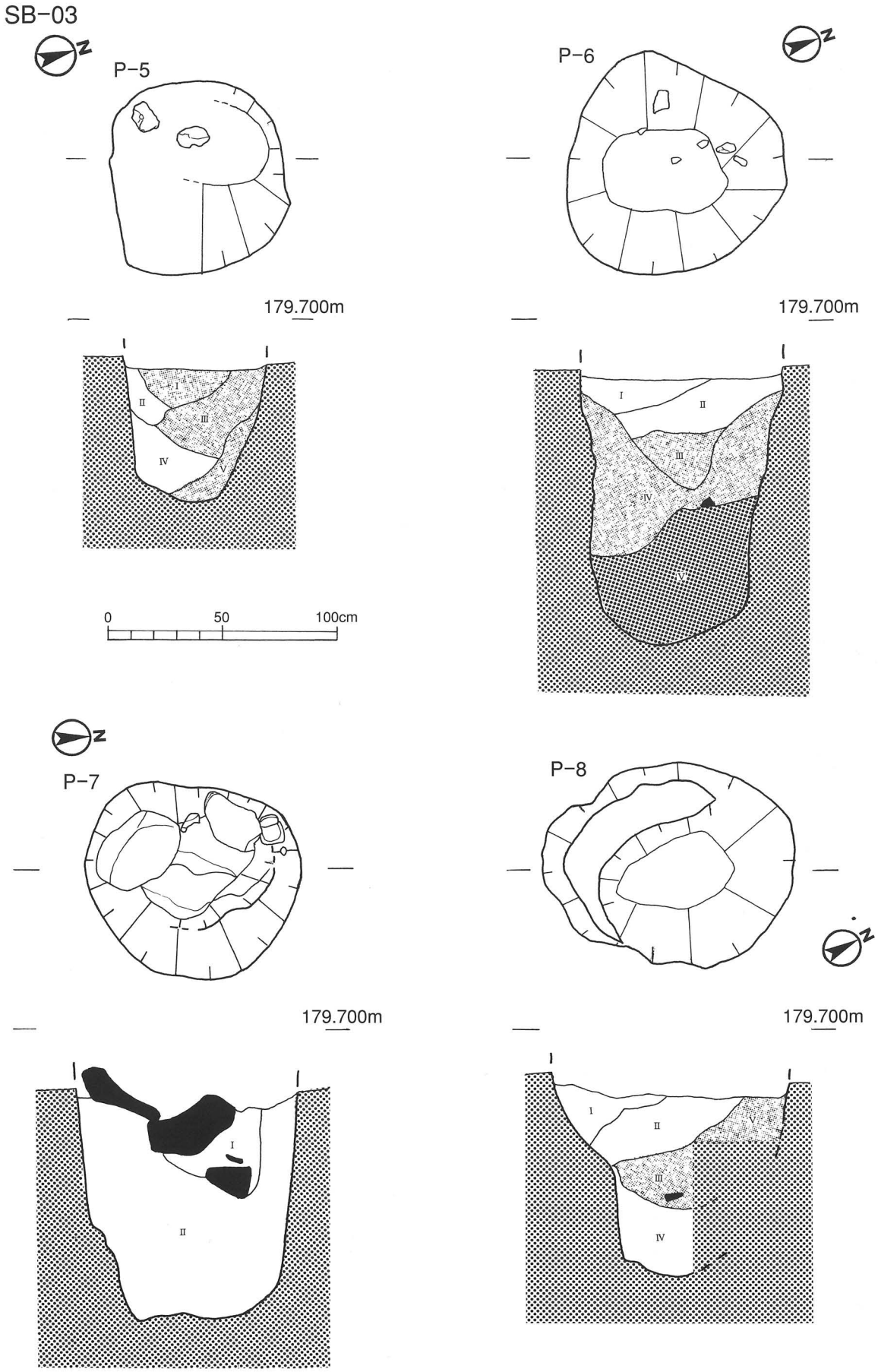
Ｆ区東部の緩やかな斜面上で検出した。竪穴住居の床面は調査時に削平されており、確認されたのは中央土坑のみであった。よって、平面形態は不明である。

（ＳＡ－110）

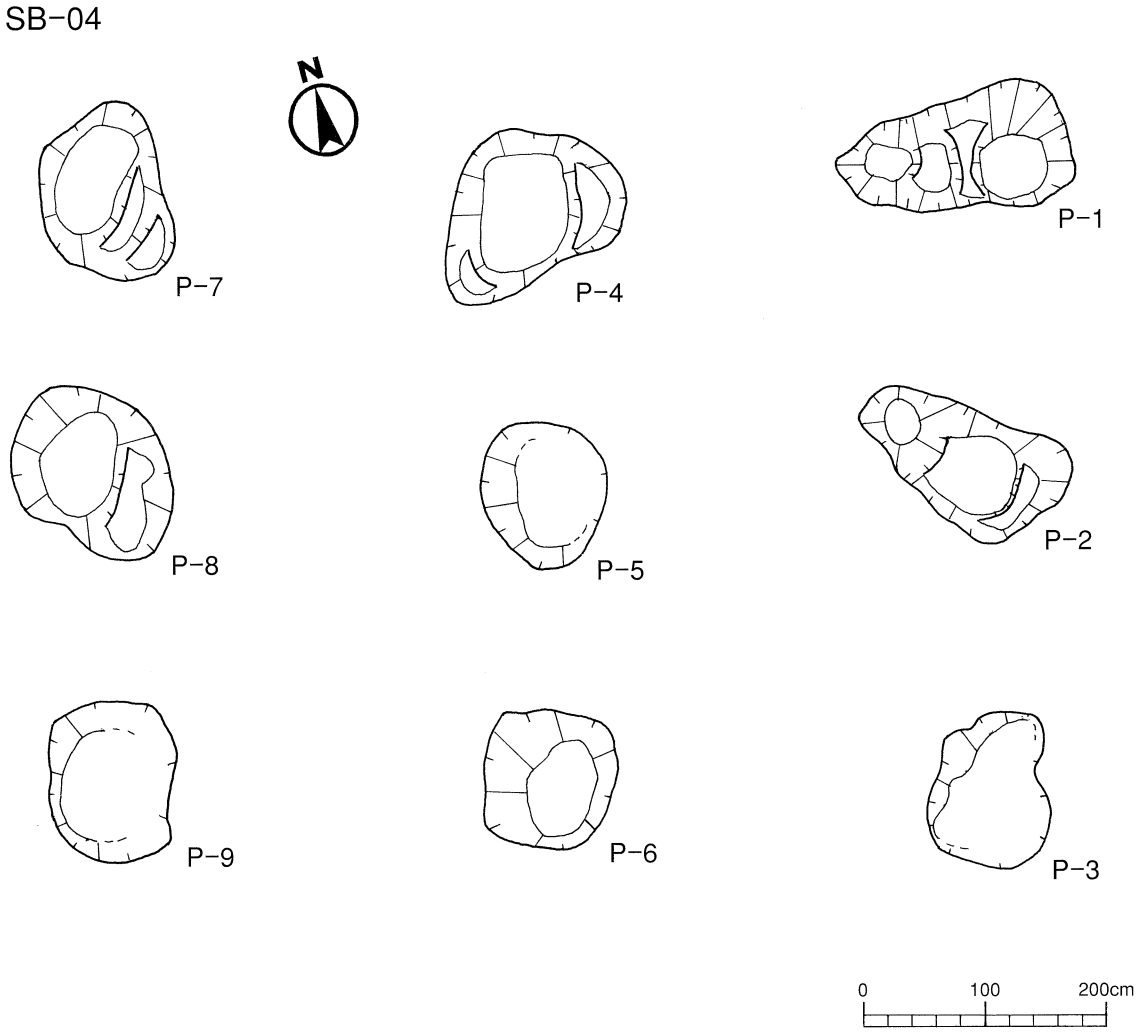
Ｆ区東部の緩やかな斜面上で検出した。竪穴住居の床面は調査時に削平されており、確認されたのは中央土坑とその両脇のピットのみであった。よって、平面形態及び遺構内遺物は不明である。平面形態を想定すると、（ＳＡ－109）に接していたと考えられる。



第50図　列状掘立柱建物実測図（2）



第51図　列状掘立柱建物実測図（3）



第52図　列状掘立柱建物実測図（4）

（ＳＡ－111）

Ｆ区中央やや東側の緩やかな斜面上で検出した。長軸360cm、短軸270cmの楕円形を呈する。平面形態を確認するに留めたため、遺物や内部構造は不明であった。

（ＳＡ－112）

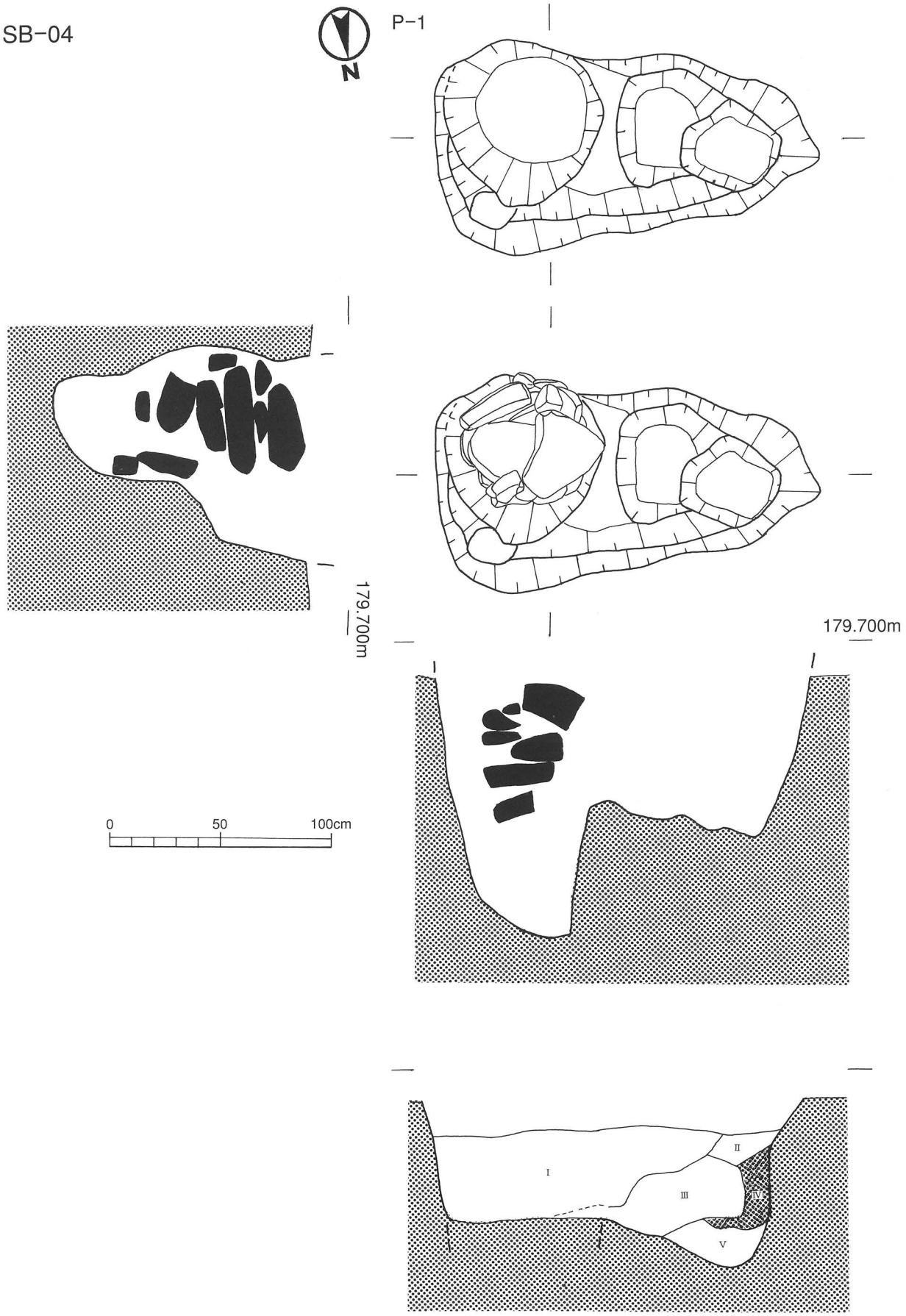
Ｆ区中央やや西側の緩やかな斜面上で検出した。径315cmの円形を呈する。平面形態を確認するに留めたため、遺物や内部構造は不明であった。

（ＳＡ－113）

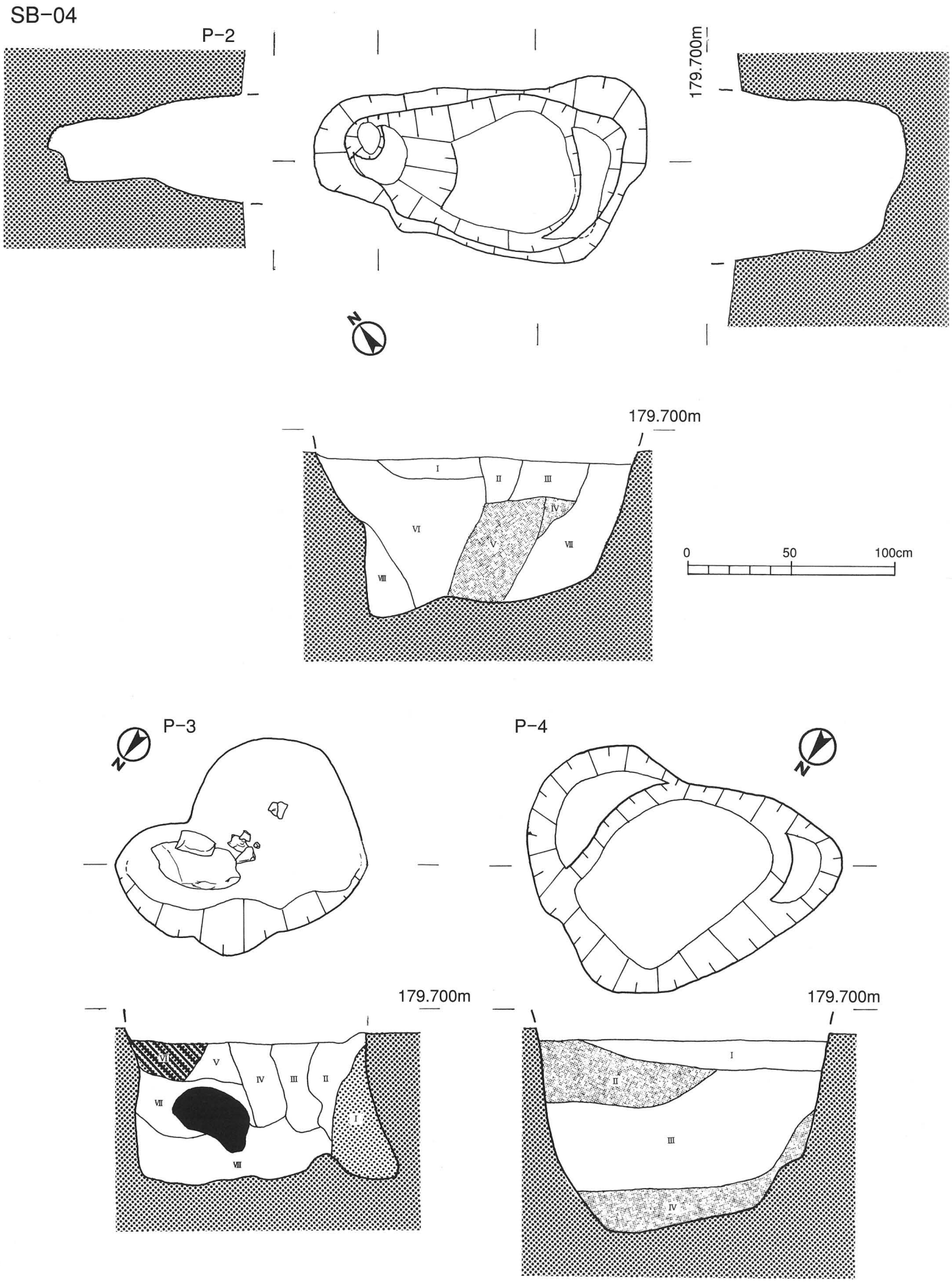
Ｄ区から西側に伸ばしたトレンチ上で検出した。確認された部分から、隅丸方形と考えられるが、境界にかかっており、正確な平面形態や大きさは不明である。分布を確認するに留めたため、遺物や内部遺構は不明であった。

（ＳＡ－114）

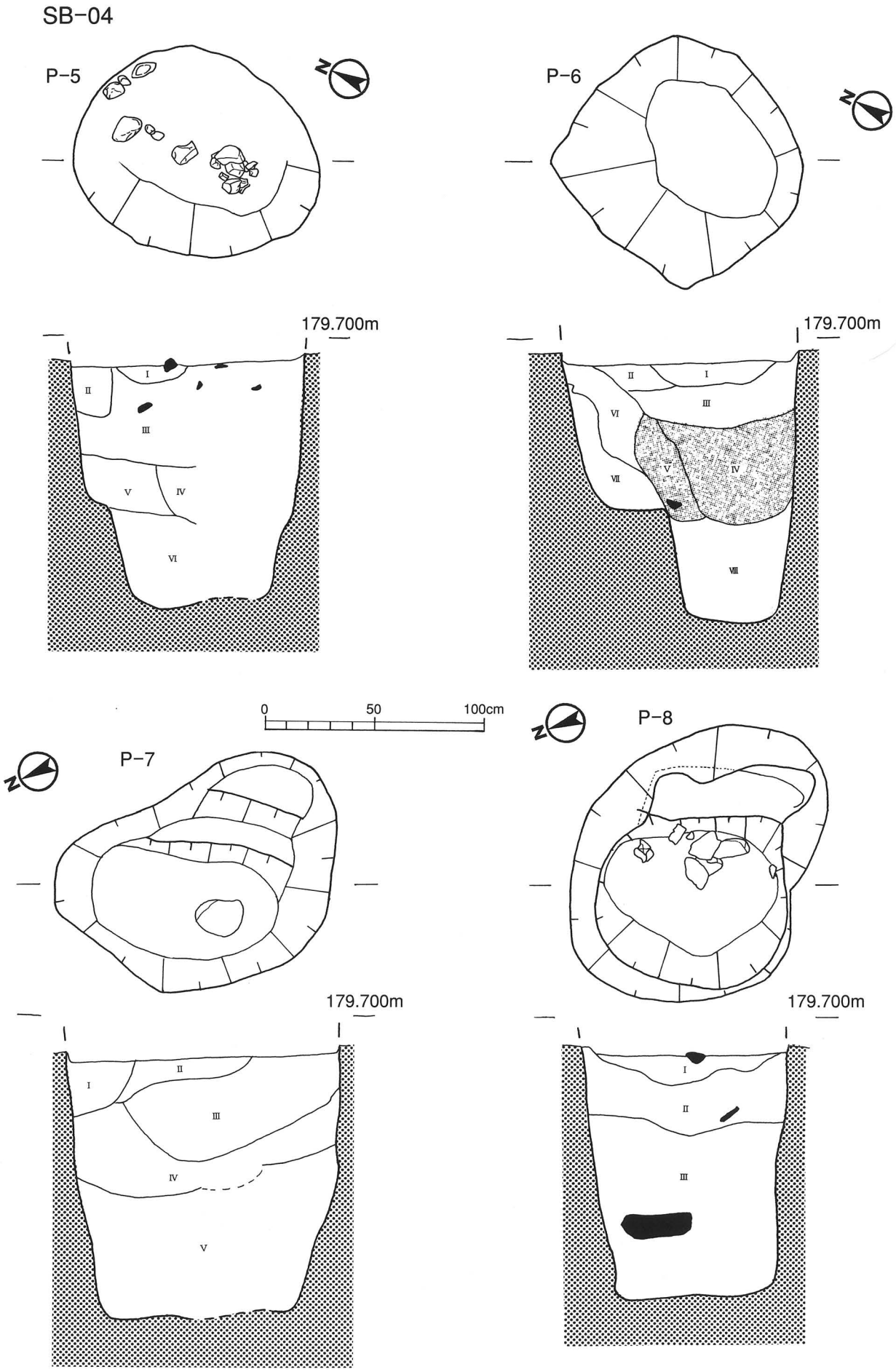
Ｄ区から西側に伸ばしたトレンチ上で検出した。確認された部分から、平面形態は隅丸方形と考えられるが、境界にかかっているため、正確な平面形態や大きさは不明である。分布を確認するに留めたため、遺物や内部構造は不明であった。



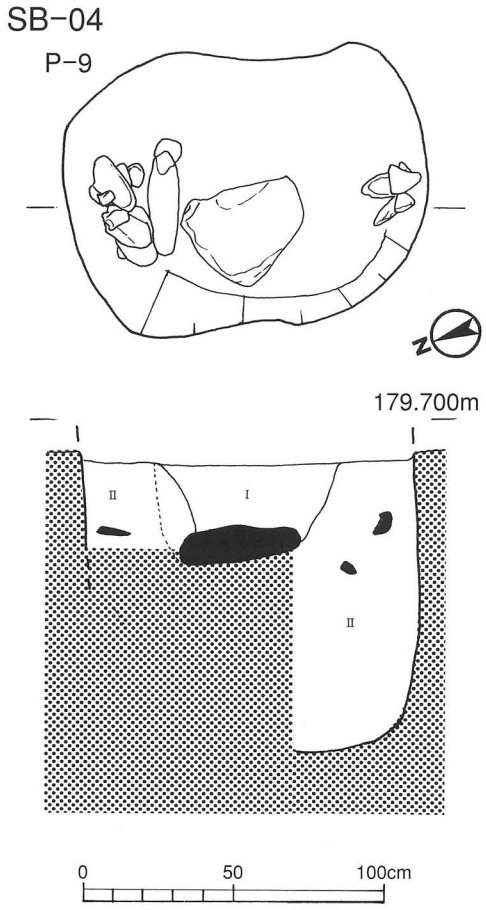
第53図　列状掘立柱建物実測図（5）



第54図　列状掘立柱建物実測図（6）



第55図　列状掘立柱建物実測図（7）



第56図　列状掘立柱建物実測図（8）

列状掘立柱建物群

C区北側には、一定の大きさと深さを持つ列状の柱穴の配置が検出された。これは、第48図に記したように3つのまとまりを見ることができたため、南側から（ＳＢ－03,04,05）とした。

（ＳＢ－03）

南北方向に4基、東西方向に2基並ぶ。柱穴の間隔は、縦位に250～330cm、横位に350cmである。個々の柱穴は、長軸約80cm、短軸約60cmの楕円形を呈し、深さは60cmから120cmまでばらつきが認められた。断面形は、テラスを設けるものも見られたが、多くは垂直に近い状態で底部に達していた。柱穴の方向は、磁北に対し約10°東に傾いている。

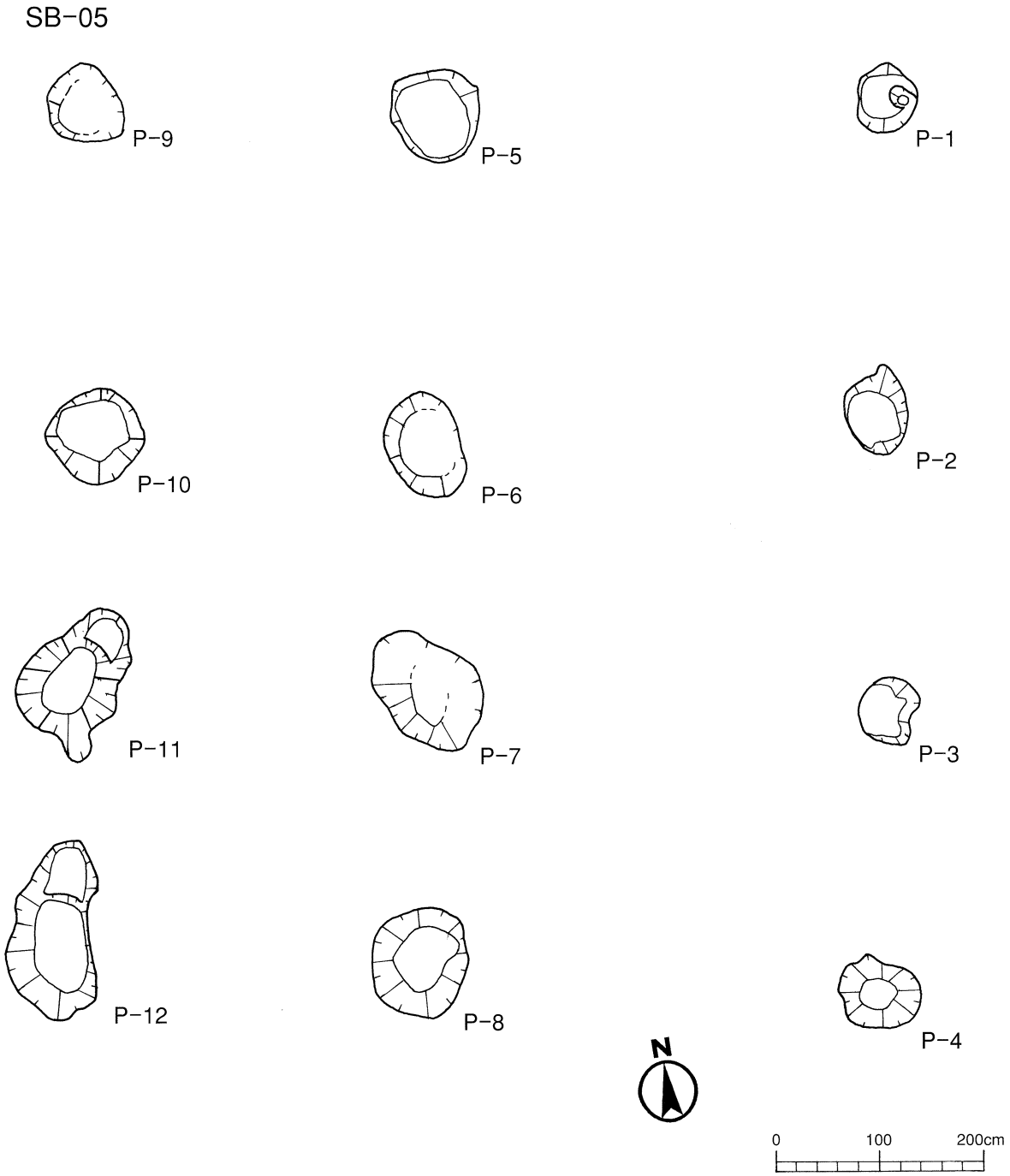
（ＳＢ－04）

南北方向に3基、東西方向に3基並ぶ。柱穴の間隔は、縦位に230～250cm、横位に370～400cmである。個々の柱穴は、長軸約150cm、短軸90cmを呈するＰ－1,2を除けば、長軸約110cm、短軸100cmの楕円形を呈し、深さはＰ－2,3以外100cmを超えていた。断面形は、Ｐ－1,2など明確なテラスを設けるものもあるが、多くは垂直に近い状態で底面に達していた。柱穴の方向は、磁北に対し約20°東に傾いている。

（ＳＢ－05）

柱穴の間隔は変則的であり、南北方向に4基、東西方向に3基並んでいるように見えるが、西の2列、南の3列は、平面の径が約60cm、断面の深さが100cmであり、柱穴間の距離は南北方向に250～280cm、東西方向に350cmである。これに対し、最も東の一列及び北の一列は径40～60cm、深さ80cm未満と一回り小さく、南北方向に310cm、東西方向に440cmと間隔が広い。このような特徴から、柱穴の並びは南北方向に3（＋1）列、東西方向に2（＋1）列であったとするのがより正確である。断面形は、テラスを設けるものも一部見受けられるが、殆どが垂直に近い状態で底面に達するものである。柱穴の方向は、磁北に対し約20°東に傾いている。

また、（ＳＢ－03～05）の付近は柱穴が集中しており、遺構を線で結んだところ、7軒の掘立柱建物の存在が確認された。いずれも（ＳＢ－03～05）より柱穴が細く、浅かった。柱穴の方向にもばらつきが見られる。

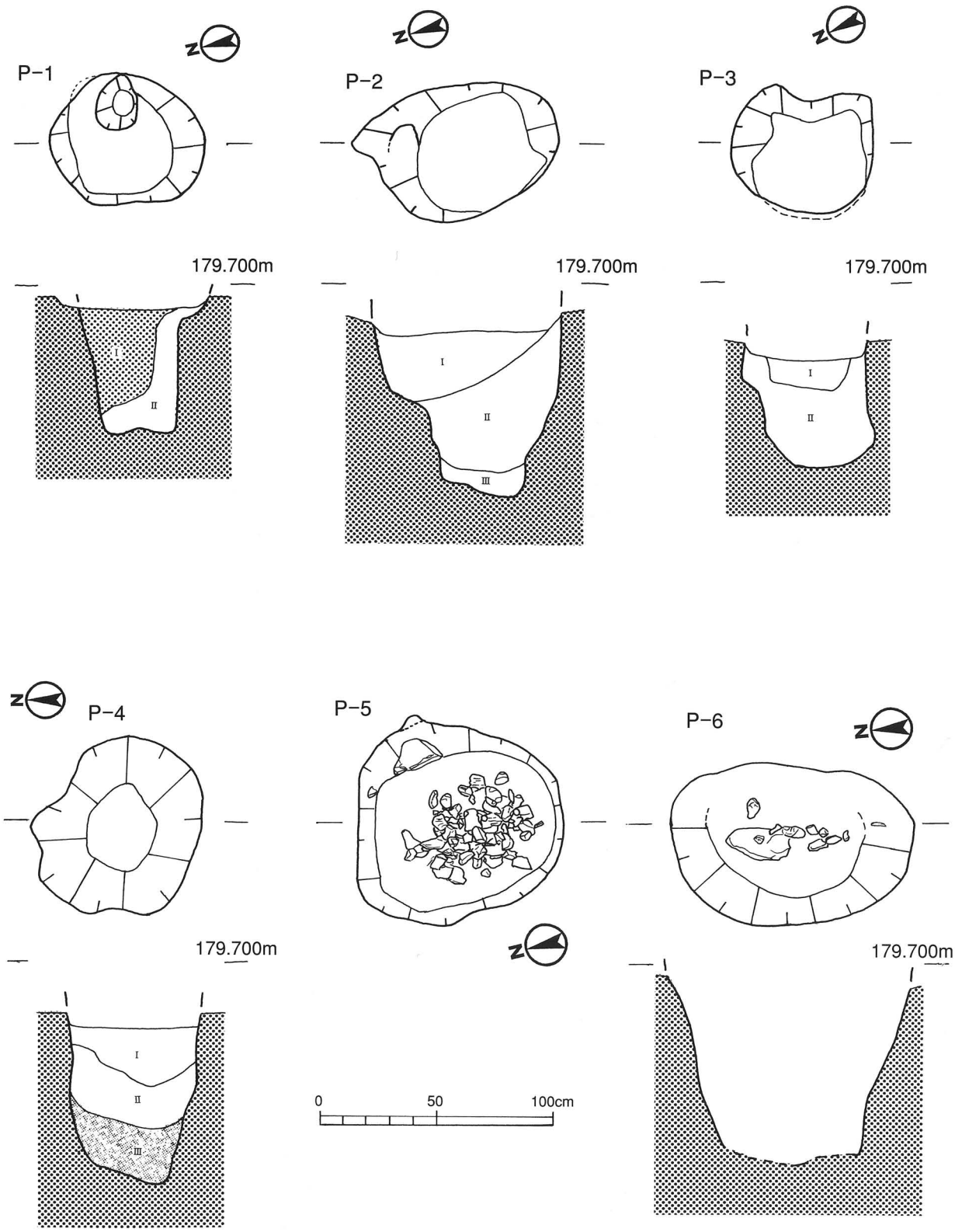


第57図　列状掘立柱建物実測図（9）

窪地遺構

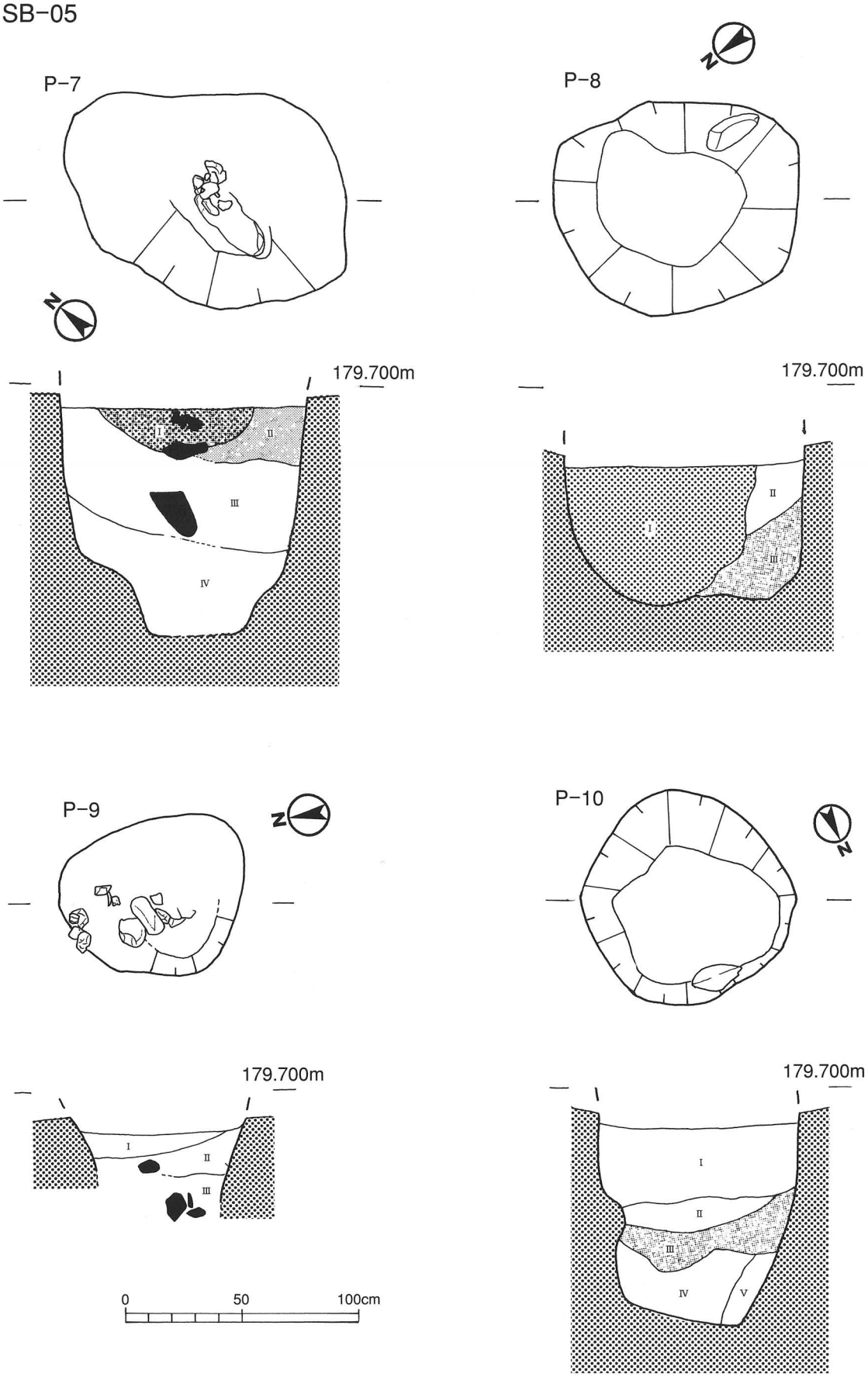
縄文後期包含層を取り除いた時点で、10cm単位の等高線図を作成したところ、一部環状に巡る土坑群にかかりながら、C区南部全体に緩やかな窪地が形成されていることを確認した。C区東部では、等高線の湾曲に沿ってアカホヤ火山灰層が不自然に消失しており、西側にゆくにつれ、堆積年代の古い層が露出していた。一方、排土置き場に設定したトレ

SB-05

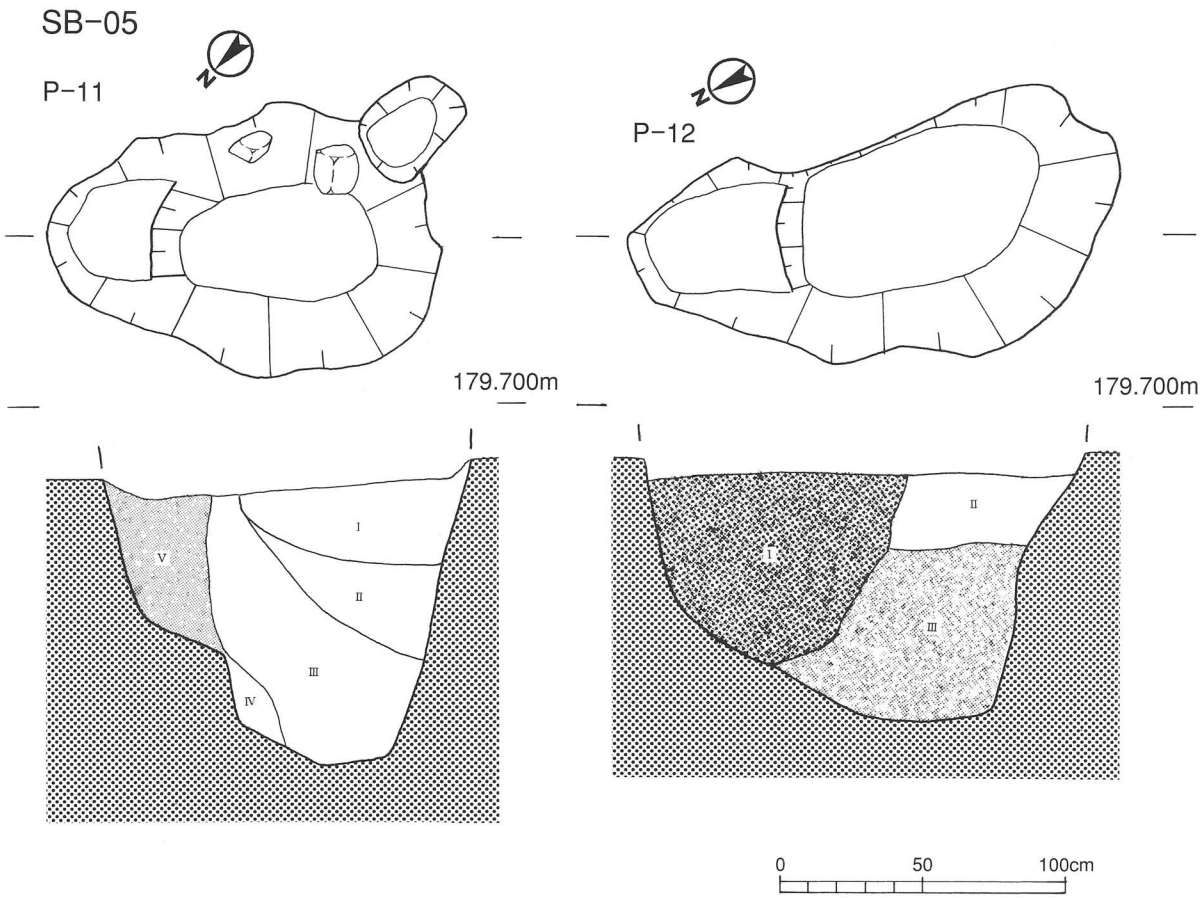


第58図　列状掘立柱建物実測図（10）

SB-05



第59図　列状掘立柱建物実測図（11）



第60図　列状掘立柱建物実測図（12）

ンチでは、東へ傾斜する地点でアカホヤ火山灰層が消失し、東側にゆくほど堆積年代の古い層が露出していた。土層の消失は、C・D区がクランク状に接する部分がもっとも顕著で、約9万5千年から10万年前に降灰した阿多火砕流の漸移層にまで達している。このような土層堆積から、断面が擂り鉢状を呈する削平行為を想定することが可能である。土層消失部は、南北が開墾時の削平を受けているが、おおよそ径80～100mの、南西部が狭れた円形を呈していたと考えられる。

整地前は、北東へ緩やかに傾斜する地形であったと考えられるが、調査区内及び周辺の土層の検討から、阿多火砕流降灰から小林降下軽石降灰までの数万年は、土層が堆積しなかったと予想される。中でも、2万5千年前に分厚く降灰した姶良丹沢火山灰が、自然作用によって流出している点は非常に特徴的であることから、縄文後期の土層消失も、雨水などの影響を考慮せずにはいられない。しかし、土層の消失は雨水の影響を受けずに堆積した小林硬化軽石や、非常に硬い牛のスネローム層にまで及んでいるうえに、消失は局地的であり、雨水の流路も認められず、検出面には縄文後期包含層が直接堆積していることから、包含層堆積前の縄文後期に「土木工事」が行われたと判断するに至った。

表15 列状掘立柱建物観察表

遺構名		面積 (㎡)	深さ (cm＋α)	長さ (cm)	幅 (cm)	出土遺物										備考
						Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	
SB-03	P-1	2.43	66	89	74											
	P-2	2.93	94	107	88											
	P-3	3.35	74	116	81											
	P-4	2.61	100	108	68											
	P-5	2.68	64	92	86			1								
	P-6	3.48	120	98	97			1								
	P-7	3.11	102	96	86			1								
	P-8	3.7	88	111	93											
SB-04	P-1	6.07	118	176	103											
	P-2	5.34	94	161	105											
	P-3	4.1	76	122	106											
	P-4	6.22	100	154	120											
	P-5	4.02	116	114	95			2			1	1				
	P-6	4.31	122	116	114											
	P-7	4.98	124	135	96											
	P-8	5.66	116	143	113											
	P-9	4.73	120	126	114			1								縄文早期1
SB-05	P-1	1.42	58	67	59											
	P-2	1.86	78	89	61											縄文早期1
	P-3	1.29	54	67	62											
	P-4	2.05	74	81	74			1								
	P-5	3.08	－	98	91			3								
	P-6	2.86	82	104	72			4								
	P-7	4.48	104	134	96		1	4								縄文早期1
	P-8	3.83	120	110	102											
	P-9	2.15	－	83	70			2								
	P-10	3.01	94	93	93		1	5								
	P-11	5.14	108	154	100			7								
	P-12	5.53	92	176	90											縄文早期2

中央配石

窪地遺構の中心部付近から、10個の礫がまとまって検出された。うち②、③、⑧を除く7個は大型である。礫の表面を観察すると、厚手の円礫である⑤は、礫の表面に研磨痕が認められた。器面には凹み部や平坦面は認められない。扁平な円礫である③は、表面は研磨により平坦面を作出しているが、研磨の前に鋭利な敲打痕が認められる。角柱状を呈する⑨の、稜上には敲打痕が顕著に認められ、礫の下面は窪地遺構の検出面と同じである。なお周辺も含めて土坑は検出されなかった。

礫の間隔は不規則であるが、径約5ｍの円形を呈することに加え、この礫の出土位置が窪地遺構の中心部付近にあることから、配石遺構と考えられる。

竪穴状遺構

窪地遺構の中央付近から、中央配石を取り囲むように、歪な円形を呈するソイルマークが確認された。検出面は窪地遺構内堆積層の上面であり、窪地遺構の埋没中に構築されたと考えられる。検出時は竪穴住居を想定したが、遺構の立ち上がりはなだらかであり、底面も凹凸が激しいことから、別種の特殊遺構と判断するに至った。調査はＣ区のみ行ない、Ｄ区は分布と平面形態の確認に留めた。

表16　列状掘立柱建物覆土注記（1）

SB-03

P-1

Ⅰ層　10YR黒褐３/２
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性少しあり。層中に、炭の小片を微量、骨粉を中量、焼土に伴うと思われる赤色粒子を少量、スコリアを少量、粘質土の粒子を中量、黒色土のブロックの混入はない。

Ⅱ層　10YR黒褐２/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性あり。層中に、オレンジ(阿多orAh)の、５mm大を微量、３mm大を少量、粒子を層全体に中量含む。他に骨粉を少量、粘質土の粒子を、３mm大を少量、粒子を少量、焼土に伴うと思われる赤色粒子を微量含む。

Ⅲ層　10YR暗褐３/４
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、粘質土の粒子を中量、骨粉を微量、スコリアを微量含む。粘質土粒子の混入は濃淡が激しく、斑紋が見られる。

P-2

Ⅰ層　2,5Y黒褐３/２
層中にブロックが混入するため、硬さは部位により大きく異なる(最も硬い部分:９、最も軟かい部分:４)。粘性も同様である。層中に、10cm大の早期ロームブロックを中量、１cm大のブロックを少量、10cm大の牛のスネロームブロックを中量、オレンジ色の(阿多orAh)の３mm大の粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YRにぶい黄褐４/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中には、５mm大の黒色土のブロックを少量、３mm大のオレンジ色(阿多orAh)のブロックを少量、早期ローム層の１cm大のブロックを微量、阿多火砕流直上漸移層の３mm大の粒子を少量、粘質土の３mm大の粒子を少量、骨粉を中量含む。

Ⅲ層　2,5Y黄褐５/４
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、黒色土の１cm大のブロックを少量、オレンジ色(阿多orAh)の、２cm大のブロックを特に多量、粒子を特に多量含む。オレンジ色が特に強い層である。

Ⅳ層　10YR黒褐３/３
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、５mm大の粘質土のブロックを少量、粘質土の粒子を層全体に中量、１cm大のオレンジ色(阿多orAh)のブロックを微量、スコリアを少量、骨粉を中量、３mm大の黒色粒子を少量含む。Ⅰ層とは、オレンジ色の混入が少なくなる点で分別が可能である。

Ⅴ層　10YR黒褐２/３(部分的に異なる)
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、粘質土の、３cm大のブロックを微量、１cm大のブロックを中量、オレンジ色(阿多orAh)の、１cm大のブロックを微量、粒子を少量、５mm大の黒色土のブロックを微量、焼土に伴うと思われる赤色粒子を微量、骨粉を微量含む。粘質土の混入が著しく多い点で分別が可能。

Ⅵ層　10YR暗褐３/４
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の５mm大の小ブロックを少量、３mm大の粒子を中量、粘質土の５mm大の小ブロックを微量、３mm大の粒子を少量、黒色土の５mm大の小ブロックを微量、骨粉を少量含む。

Ⅶ層　10YR暗褐３/３
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性少しあり。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、１cm大のブロックを微量、５mm大のブロックを少量、黒色土の５mm大のブロックを微量、１cm大の阿多火砕流直上の漸移層ブロックを微量、骨粉を微量含む。

Ⅷ層　多くのブロックにより構成されているため、色調判別不能。そのため、硬さも部分的に異なる(７～４の間)。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、１cm大のブロックを少量、粒子を中量、黒色土の１cm大のブロックを中量、牛のスネローム層の２cm大のブロックを微量、粘質土層の１cm大のブロックを微量含む。

P-3

Ⅰ層　10YR暗褐３/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性なし。層中に、骨粉を中量、焼土に伴うと思われる赤色の２～３mmの粒子を少量、同じく１mm大の粒子を微量、粘質土の、１cm大のブロックを微量、粒子を多量、黒色土の３mm大の粒子を中量、炭の小片を少量含む。他の層に比べ、粘土がブロック状にならないのが特徴である。

Ⅱ層　10YR暗褐３/４
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、粘質土の、１cm大のブロックを微量、３mm大の粒子を中量、１mm大の粒子を多量、黒色土の、３mm大の粒子を少量、１mm大の粒子を多量、阿多火砕流直上漸移層の５mm大のブロックを微量、オレンジ色(阿多orAh)の３mm大の粒子を少量、焼土絡みと思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐３/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、粘質土の３mm大の粒子を少量、１mm大の粒子を多量含む。粘質土の中には、阿多火砕流直上漸移層も３割ほど含まれる。その他に、黒色土の、１cm大のブロックを微量、３mm大の粒子を少量、焼土に伴うと思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量含む。この層も粘土がブロックにならない。

Ⅳ層　10YR暗褐３/３
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、粘質土の、３mm大の粒子を少量、１mm大の粒子を多量、黒色土の２cm大のブロックを少量、２mm大の粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の、２cm大のブロックを少量、２mm大の粒子を少量、焼土に伴うと思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量含む。オレンジのブロックが特徴的である。

Ⅴ層　10YR黒褐２/３
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、粘質土の、３mm大の粒子を微量、更に細かい粒子を多量、骨粉を微量含む。層の大半は粘質土によって構成されており、他の層に比べ混入物が極端に少ない。

Ⅵ層　10YRにぶい黄褐５/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、骨粉を少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、1cm大の黒色土のブロックを少量含む。層は主に粘質土によって構成される。検出面は阿多火砕流直上の粘質土であるが、層の色調や土質は殆ど差はない。掘り過ぎの可能性も考慮したが、黒色土が認められたことから、遺構と認定した。

P-4

Ⅰ層　7,5YR褐４/３
層は大変硬く締まっており(硬さ:９)、粘性は殆どなし。層中には、粘質土層の、３mm大の粒子を中量、更に細かい粒子を中量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を中量、スコリアを少量、黒色土の、１cm大のブロックを微量、５mm大の小ブロックを少量、３mm以下の粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YRにぶい黄褐４/２
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性に富む。層中には、粘質土の、１cm大のブロックを多量、５mm大の小ブロックを微量、粒子を中量、黒色土の、５mm大の小ブロックを微量、３mm大の粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を中量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量含む。骨粉は細かいものが多い。

Ⅲ層　10YR暗褐３/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の３mm大の粒子を中量、粘質土の、１cm以下のブロックを微量、粒子を中量含む。粒子の混入は、部位によって開きがある。

Ⅳ層　10YR褐４/４
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性あり。層中には、黒色土の、1,5cm大のブロックを微量、５mm大の小ブロックを少量、オレンジ色(阿多orAh)の、５mm大の小ブロックを微量、粒子を少量、粘質土層の粒子を少量含む。

Ⅴ層　10YR暗褐３/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、粘質土の、2,5cm大のブロックを微量、粒子を中量、黒色土の２cm大のブロックを少量含む。他よりブロックが少ない。

表17　列状掘立柱建物覆土注記（2）

SB-03
P-4
Ⅵ層　10YR暗褐３/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、３mm大の黒色土の粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の５mm大のブロックを少量、粘質土の粒子を中量含む。
Ⅶ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっている(硬さ:８)。層中に、粘質土の１cm大のブロックを少量含むが、ブロックの輪郭は判然としない。白色粒子を少量含むが、焼土類でも御池火山灰でもない。この層に付いては、掘り過ぎの可能性も考えられる。
P-5
Ⅰ層　10YR黒褐４/２
層は硬く締まっており(硬さ:８)、粘性少しあり。層中に、粘質土の３mm大の粒子を多量、スコリアを少量、１cm大の早期ロームブロックを微量、炭の小片を微量、骨粉を中量含む。層の混入物は均等である。
Ⅱ層　10YR黒褐３/２
層は大変硬く締まっており(硬さ:９)、粘性に富む。層中に、粘質土の、１cm大のブロックを微量、粒子を中量、スコリアを微量、骨粉を微量、小焼礫を微量含む。
Ⅲ層　10YR暗褐３/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、粘質土の、５mm大の小ブロックを少量、３mm以下の粒子を多量、オレンジ色(阿多orAh)の３mm大の粒子を微量、スコリアを少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量含む。
Ⅳ層　10YR黒褐２/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、粘質土の1,5cm大のブロックを微量、粒子を中量、焼土と思われる赤色粒子を微量含む。混入物が比較的少ない。
Ⅴ層　10YR暗褐３/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、スコリアを少量、白色粒子を少量含む。その他、層全体に粘質土の粒子が多量に含まれる。
P-6
Ⅰ層　10YRにぶい黄褐４/３
層は硬く締まっており(硬さ:８)、粘性少しあり。層中に、粘質土の、５mm大のブロックを微量、２mm大の粒子を中量、黒色土の３mm大の粒子を少量、スコリアを少量、骨粉を中量含む。
Ⅱ層　10YR暗褐３/２
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性殆どなし。層中に、黒色土の１cm大のブロックを少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を中量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、スコリアを中量、粘質土の、５mm大のブロックを少量、粒子を中量含む。
Ⅲ層　10YR褐４/４
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を中量、オレンジ色(阿多orAh)の５mm大のブロックを少量、スコリアを中量、黒色土の、５mm大のブロックを少量、粒子を少量、粘質土の粒子を多量含む。粘質土の混入の著しい層である。
Ⅳ層　10YR暗褐３/４
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、1,5cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、粒子を少量、粘質土の、５mm大のブロックを少量、粒子を多量、黒色土の、１cm大のブロックを少量含む。
Ⅴ層　10YR黒褐２/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、オレンジ(阿多orAh)の、２cm大のブロックを多量、５mm大のブロックを少量、黒色土の、１cm大のブロックを少量、骨粉を少量含む。
P-7
Ⅰ層　10YR褐４/４
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を中量含む。これらはどちらも粒子が細かい。他に、オレンジ色(阿多orAh)の、５mm大の小ブロックを少量、２mm大の粒子を少量、炭の小片を微量、黒色土の、３mm大の粒子を少量含む。
Ⅱ層　10YR暗褐３/２
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、焼土と思われる赤色粒子を微量、大粒の骨粉を中量含む。
他に、オレンジ色(阿多orAh)の、１cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、３mm大の粒子を少量、黒色土の、３cm大のブロックを中量、１cm大のブロックを中量、粘質土の、1cm大のブロックを少量、３mm以下の粒子を多量含む。
P-8
Ⅰ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性は殆どなし。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量、黒色土の粒子を少量、粘質土の粒子を中量含む。混入物中にブロックは含まれない。
Ⅱ層　10YR暗褐３/３
層は硬く締まっており(硬さ:８)、粘性は殆どなし。層中に、粘質土の、５mm大のブロックを少量、粒子を中量、黒色土の1,5cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、骨粉を少量、焼土と思われる赤色粒子を微量含む。小ブロックと粘質土の密集により構成される。
Ⅲ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性に富む。層中に、粘質土の、５mm大のブロックを少量、粒子を多量、骨粉を少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量含む。
層の大半は、粘質土が占める。
Ⅳ層　10YRにぶい黄褐５/３
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、黒色土の、１cm大のブロックを微量、粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の５mm大のブロックを微量含む。
Ⅴ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性あり。層中に、黒色土と粘質土層の５mm大のブロックが、共に特に多量混入する。他に、白色粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量含む。
SB-04　P-1
Ⅰ層　10YR黒褐２/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性あり。層中に、粘質土の、５mm大のブロックを少量、粒子を中量、黒色土の、１cm大のブロックを少量、骨粉を少量、オレンジ色(阿多orAh)の２mm大の粒子を少量含む。
Ⅱ層　(平均的な色調は)10YR黒褐２/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、黒色土の１cm大のブロックを中量、スコリアを中量、早期ローム層の１cm大のブロックを少量、骨粉を少量含む。
Ⅲ層　10YR黒褐２/２
硬さ、粘性記述なし。層中に、炭の小片を微量、オレンジ色(阿多orAh)の、５mm大のブロックを微量、スコリアを少量、骨粉を少量、粘質土の５mm大のブロックを微量含む。混入物がⅡ層より少なくなる。
Ⅳ層　10YR褐４/６
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、２cm大のブロックを特に多量、黒色土の１cm大のブロックを少量、粘質土の粒子を多量含む。
Ⅴ層　10YR黒褐２/２(黒色土ブロック部)と、10YRにぶい黄褐４/３(粘質土部)に分けられる。
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中には、黒色土の、２cm大のブロックが多量に混入し、その隙間を粘質土の粒子が埋める。他に、炭の小片を微量含む。
P-2
Ⅰ層　(平均的な色調は)10YR黒褐３/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、粘質土の、１cm大のブロックを少量、５mm大の小ブロックを少量、粒子を中量、黒色土の１cm大のブロックを中量、オレンジ色(阿多orAh)の１cm大のブロックを少量、粒子を中量含む。他に、焼土でも御池火山灰でもない白色粒子を少量含む。
Ⅱ層　10YR黒褐３/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性殆どない。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、３mm大の粒子を微量、スコリアを少量、粘質土の粒子を少量、黒色土の５mm大のブロックを微量、骨粉を少量含む。

表18　列状掘立柱建物覆土注記（3）

P-2

Ⅲ層　10YR暗褐３/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性あり。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、３cm大のブロックを微量、粒子を中量、骨粉を中量、粘質土層を中量、黒色土の１cm大のブロックを微量含む。

Ⅳ層　10YR暗褐３/３
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性少しあり。層中に、骨粉を少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、粘質土の粒子を多量含む。Ⅲ層との違いは、オレンジ色の混入物が少ないことである。

Ⅴ層　10YR暗褐３/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、黒色土の３cm大のブロックを微量、５mm大のブロックを少量、オレンジ色(阿多orAh)の、１cm大のブロックを少量、粒子を少量、粘質土の５mm大のブロックを微量、粒子を多量、骨粉を少量含む。

Ⅵ層　色調一定していないために不明
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、1,5cm大のブロックを中量、５mm大の小ブロックを少量、粒子を中量、黒色土の、1,5cm大のブロックを少量、５mm大の小ブロックを少量、粘質土のブロックを中量、骨粉を少量含む。

Ⅶ層　10YR黒褐３/２
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性あり。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、５mm大のブロックを少量、粒子を微量、黒色土の５mm大のブロックを少量、粘質土の５mm大のブロックを少量、炭の小片を微量、骨粉を微量含む。

Ⅷ層　10YR黒褐２/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、黒色土の３cm大のブロックを多量、スコリアを少量含み、それ以外の部分は粘質土で構成される。

P-3

Ⅰ層　10YR黒褐２/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性あり。層中に、黒色土の２～３cm大のブロックを多量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を多量、粘質土の５mm大のブロックを少量含む。混入物は部分的に大きく異なるため、斑紋が形成される。

Ⅱ層　10YR暗褐２/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、黒色土の２cm大のブロックを少量、オレンジ色(阿多orAh)の３mm大の粒子を少量、粘質土の粒子を少量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐２/２
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、炭の小片を微量、オレンジ色(阿多orAh)の、５mm大のブロックを微量、粒子を少量、焼土とも御池とも異なる、細かな白色粒子を少量、粘質土の粒子を少量含む。

Ⅳ層　10YR黒褐３/２
層は大変軟質である(硬さ:３)。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を中量、粘質土の粒子を中量、焼土とも御池とも異なる白色粒子を少量含む。

Ⅴ層　10YR黒褐２/２
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性はあまりなし。層中にオレンジ色(阿多orAh)の、1,5cm大のブロックを微量、粒子を中量、粘質土の、３mm大の粒子を少量、粒子を中量、２cm大の牛のスネロームのブロックを少量含む。

Ⅵ層　2,5Y黒褐３/１
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性殆どなし。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を多量、早期ローム層の、１cm大のブロックを中量、粒子を多量、スコリアを中量、御池とも焼土とも異なる白色粒子を中量含む。

Ⅶ層　10YR暗褐３/３
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、５mm大の粘質土のブロックを微量、黒色土の３cm大のブロックを微量、スコリアを少量、白色粒子を少量含む。

Ⅷ層　10YR黒褐２/２
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、白色粒子を少量含む。この層はブロックの混入がなく、殆どが粘質土であった。しかし、遺構壁の土とは硬さが明らかに異なっていることから、掘り過ぎではないと判断した。

P-4

Ⅰ層　(平均的な色調は)10YR黒褐３/２
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性あり。層中に、白く変色した小砂利を少量、黒色土の５mm大のブロックを少量、粘質土の５mm大のブロックを少量、オレンジ色(阿多orAh)の３mm大の粒子を少量、それより細かな粒子を少量含む。混入物には濃淡があり、土色が一定しない。

Ⅱ層　10YRにぶい黄褐４/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、粘質土の1,5cm大のブロックを微量、５mm大のブロックを多量、黒色土の、1,5cm大のブロックを少量、５mm大を多量含む。オレンジ色の混入物が少ないのが特徴。他に、白く変色した小砂利を少量含む。

Ⅲ層　(平均的な色調は)10YRにぶい黄褐４/３
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、２cm大のブロックを少量、１cm大のブロックを少量、粒子を中量、黒色土の、３cm大のブロックを少量、１cm大のブロックを中量、被熱の認められる礫を微量、白く変色した小砂利を少量含む。

Ⅳ層　10YR暗褐３/４
層は著しく軟質であり(硬さ:２)、粘性に富む。層中には、黒色土の、５mm大のブロックを少量、スコリアを少量、白色粒子を微量、他に、粘質土の粒子を多量に含む。遺構の壁とは硬さも混入物も異なるため、掘り過ぎとは考えにくい。

P-5

Ⅰ層　10YRにぶい黄褐５/４
層はやや軟質であり(硬さ:５)、粘性に富む。層中に、粘質土の２cm大のブロックを微量、早期ローム層の２cm大のブロックを少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を中量含む。

Ⅱ層　7,5YR黒褐３/１
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、粘質土の３mm大の粒子を少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量、炭の小片を少量含む。

Ⅲ層　10YRにぶい黄褐４/３
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中に、黒色土の１cm大のブロックを少量、粘質土の、２cm大のブロックを少量、１cm大のブロックを少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量含む。

Ⅳ層　10YRにぶい黄褐４/２
硬さ記述なし。粘性に富む。層中には、黒色土の５mm大のブロックが少量、焼土と思われる赤色粒子が中量、骨粉が微量含まれる。

Ⅴ層　10YR黒褐２/２
層は軟質であり(硬さ:４)、粘性に富む。層中には、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、黒色土の５mm大のブロックを少量、粘質土の１cm大のブロックを中量含む。

Ⅵ層　10YR黒褐２/１
層は著しく軟質であり(硬さ:２)、粘性に富む。層中には、粘質土の粒子を中量含む。この遺構は、Ⅲ層を除くと、ブロックを主体とした堆積は認められない。

P-6

Ⅰ層　10YRにぶい黄褐５/３
層はやや硬く締まっており(硬さ:６)、粘性に富む。層中に、早期ロームの２cm大のブロックを微量、１cm大のブロックを少量、３mm大の粒子を微量、粘質土の１cm大のブロックを少量、３mm大の粒子を中量、粘質土の２cm大のブロックを微量、５mm大のブロックを微量、オレンジ色(阿多orAh)の2cm大のブロックを微量、３mm大の粒子を少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐３/２
層は硬く締まっており(硬さ:７)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の３mm大の粒子を少量、粘質土層の１cm大のブロックを微量、骨粉を中量含む。

Ⅱ層　7,5YR暗褐３/３
層は大変軟質であり(硬さ:３)、粘性に富む。層中に、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量、黒色土の1,5cm大のブロックを少量含む。

表19　列状掘立柱建物覆土注記（4）

SB-04

Ⅳ層　10YR暗褐３／３
層は軟質であり（硬さ：４）、粘性に富む。層中に、黒色土の２cm大のブロックを少量、１cm大のブロックを少量、粘質土の５mm大のブロックを中量、阿多火砕流直上漸移層の１cm大のブロックを少量、オレンジ色（阿多orAh）の１cm大のブロックを少量、骨粉を中量含む。粘質土のブロックが細かいものが多いのが特徴である。

Ⅴ層　10YR黄褐５／６
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性に富む。層中に、骨粉を少量、オレンジ色（阿多orAh）の、１cm大のブロックを少量、被熱のない少礫を微量、大小の粘質土ブロックを特に多量含む。この層だけ色調が際立って明るい。

Ⅵ層　10YR黒褐２／３
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性に富む。層中に、骨粉を少量、粘質土の粒子を中量、阿多火砕流直上漸移層の、５mm大のブロックを微量、1,5cm大のブロックを微量、早期ローム層の５mm大のブロックを微量、オレンジ色（阿多orAh）の１cm大のブロックを少量含む。

Ⅶ層　10YR黒２／１
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性に富む。層中に、黒色土の３cm大のブロックを特に多量、粘質土の２cm大のブロックを微量含む。黒色土のため、色調の黒さが目立つ。

Ⅷ層　10YR黒褐２／２
層は大変軟質であり（硬さ：３）、粘性に富む。層中に、粘質土の２cm大のブロックを中量、５mm大のブロックを少量、オレンジ色（阿多orAh）の１cm大のブロックを少量、早期ロームの２cm大のブロックを中量含む。ブロックによる構成がⅣ層よりも強いが、そのブロックは黒色土と粘質土が多い。

P-7

Ⅰ層　10YR黒褐２／３
層は大変軟質であり（硬さ：３）、粘性に富む。層中に、炭の小片を少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量、粘質土の３mm大の粒子を少量、更に細かい粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YRにぶい黄褐５／３
層は軟質であり（硬さ：４）、粘性僅かにあり。層中に、焼土と思われる赤色粒子を少量、焼土塊を少量、骨粉を少量、ⅠⅡ層の、３cm大のブロックを少量、粘質土層の1,5cm大のブロックを微量、オレンジ色（阿多orAh）の、1,5cm大のブロックを中量、粘質土の、５mm大のブロックを少量、被熱のない小円礫を微量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐３／２
層は軟質であり（硬さ：４）、粘性に富む。層中に、早期ローム層の、３cm大のブロックを微量、１cm大のブロックを少量、粘質土の、1,5cm大のブロックを少量、３mm大の粒子を中量、オレンジ色（阿多orAh）の1,5cm大のブロックを少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、骨粉を少量含む。

Ⅳ層　10YR暗褐３／４
層は軟質であり（硬さ：４）、粘性に富む。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の1,5cm大のブロックを微量、早期ローム層の１cm大のブロックを少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量含む。粘質土の混入は認められない。

Ⅴ層　10YR暗褐３／３
層は大変軟質であり（硬さ：３）、粘性に富む。層中に、黒色土の、３cm大のブロックを中量、オレンジ色（阿多orAh）の１cm大のブロックを微量、焼土と思われる赤色粒子を中量、骨粉を微量含む。

P-8

Ⅰ層　10YR黒褐３／２
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性に富む。層中に、骨粉を少量、粘質土の粒子を少量、オレンジ色（阿多orAh）の粒子を少量、被熱した焼角礫を微量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐３／２
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性に富む。層中に、早期ローム層の、1,5cm大のブロックを微量、５mm大のブロックを少量、阿多火砕流直上粘質土の２cm大のブロックを微量、５mm大のブロックを少量、粒子を少量、オレンジ色（阿多orAh）の５mm大のブロックを微量、粒子を少量、骨粉を少量含む。

Ⅲ層　7,5YR褐４／３
層は軟質であり（硬さ：４）、粘性記述なし。層中に、早期ロームの３cm大のブロックを中量、オレンジ色（阿多orAh）の３cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、阿多火砕流直上漸移層の、１cm大のブロックを少量、粘質土の粒子を少量、骨粉を少量含む。

P-9

Ⅰ層　10YR黒褐２／３
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性あり。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の、２cm大のブロックを微量、１cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、阿多火砕流直上漸移層の１cm大のブロックを少量、早期ローム層の１cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、粘質土の１cm大のブロックを微量、３mm大の粒子を中量含む。

Ⅱ層　7,5YR黒褐３／２
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性に富む。層中に、粘質土の１cm大のブロックを少量、粒子を中量、オレンジ色（阿多orAh）の１cm大のブロックを少量、粒子を少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を少量含む。

SB-05

P-1

Ⅰ層　10YRにぶい黄褐４／３
層は硬く締まっており（硬さ：８）、粘性はなし。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の、１cm大のブロックを少量、３mm大の粒子を中量、更に細かい粒子を多量、骨粉を少量、黒色土の１cm大のブロックを少量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐３／３
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性に富む。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の、２cm大のブロックを中量、５mm大のブロックを中量、黒色土の１cm大のブロックを少量含む。このピットは、とにかくオレンジ色の割合が高かった。

P-2

Ⅰ層　10YR黒褐２／２
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性あり。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の、２cm大のブロックを少量、５mm大のブロックを少量、粒子を中量、粘質土の粒子を少量含む。

ⅠⅡ層　10YR黒褐２／３
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性あり。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の、３cm大のブロックを中量、粘質土の粒子を少量、黒色土の３mm大の粒子を少量含む。Ⅰ層よりも、オレンジ色の割合が少なくなる。

Ⅲ層　10YR黒褐２／２
層はやや硬く締まっており（硬さ：６）、粘性に富む。層中にオレンジ色の、1,5mm大の粒子を中量、粘質土の、２cm大のブロックを中量、１cm大の炭の集中区を少量含む。ブロックは、床面近くになると輪郭が弱くなり、融合しているように見える。

P-3

Ⅰ層　層はやや硬く締まっており（硬さ：６）、粘性はなし。層中に、骨粉を中量、オレンジ色（阿多orAh）の、３cm大のブロックを少量、粒子を中量、粘質土の粒子を中量、炭の小片を少量含む。

Ⅱ層　層は軟質であり（硬さ：４）、粘性にとむ。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の、１cm大のブロックを微量、粒子を少量、粘質土の粒子を少量、骨粉を少量含む。

P-4

Ⅰ層　10YR黒褐２／３
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性なし。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の1,5cmのブロックを少量、スコリアを少量、骨粉を中量、炭の小片を少量、粘質土の粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐３／４
層は硬く締まっており（硬さ：７）、粘性に富む。層中に、スコリアを少量、骨粉を少量、黒色土の５cm大のブロックを微量、粘質土の粒子を少量含む。

Ⅲ層　10YR暗褐３／３
層はやや軟質であり（硬さ：５）、粘性に富む。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の１cm大のブロックを微量、スコリアを少量、黒色土の３cm大のブロックを少量、粘質土の粒子を多量含む。混入物は濃淡があり、斑紋を形成する。

表20　列状掘立柱建物覆土注記（5）

SB-05

P-5

Ⅰ層　10YR暗褐３／３
層はやや硬く締まっており(硬さ：６)、粘性はなし。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の３㎜大の粒子を多量、黒色土の３㎜大の粒子を多量、粘質土の３㎜大の粒子を多量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を中量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐３／３(しかし、Ⅰ層よりやや暗い)
層はやや軟質であり(硬さ：５)、粘性なし。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、３cm大のブロックを微量、５㎜大のブロックを微量、２㎜大の粒子を少量、焼土と思われる赤色粒子を少量、骨粉を多量、黒色土の、５㎜大のブロックを微量、粒子を少量含む。

Ⅲ層　10YR褐４／４
層は軟質であり(硬さ：４)、粘性あり。層中に、黒色土の、４cm大のブロックを微量、１cm大のブロックを多量、粘質土の５㎜大のブロックを中量、焼土と思われる赤色粒子を多量、３㎜大の骨粉を中量含む。小粒のブロックが多い点は、Ⅱ層に共通する。

Ⅳ層　10YR黒褐２／２
層はやや軟質であり(硬さ：５)、粘性にとむ。層中に、黒色土の１cm大のブロックを中量、粘質土の、１cm大のブロックを中量、５㎜大のブロックを中量、オレンジ色(阿多orAh)の３㎜大の粒子を少量、骨粉を少量含む。

P-8

Ⅰ層　10YR褐４／４
層はやや軟質であり(硬さ：５)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の、３cm大のブロックを少量、１cm大のブロックを中量、３㎜大の粒子を多量、更に細かい粒子を少量、粘質土の、1,5cmのブロックを少量、５㎜大のブロックを少量、粒子を少量、黒色土の１cm大のブロックを中量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐３／３
層は硬く締まっており(硬さ：７)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を中量、骨粉を中量、粘質土の３㎜大の粒子を少量、粘質土の粒子を中量、炭の小片を微量含む。

Ⅲ層　10YR黒褐２／３
層は大変軟質であり(硬さ：３)、粘性に富む。層中に、粘質土の粒子を特に多量含む。遺構壁面と土質が全く同じであるが、硬さが全く異なることから、覆土と判断した。

P-9

Ⅰ層　10YR暗褐３／４
層はやや硬く締まっており(硬さ：６)、粘性は殆どなし。層中に、骨粉を中量、焼土と思われる赤色粒子を少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、炭の小片を微量、粘質土の粒子を少量含む。

Ⅱ層　10YR黒褐２／３
層はやや硬く締まっており(硬さ：６)、粘性はなし。層中に、骨粉を少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、炭の小片を少量、スコリアを少量、粘質土の粒子を中量含む。

Ⅲ層　10YR暗褐３／３
層はやや軟質であり(硬さ：５)、粘性に富む。層中に、骨粉を少量、３～４㎜の大きさに集中しながら含む。
他に、炭の小片を少量含む。

P-10

Ⅰ層　10YR暗褐３／２
層はやや硬く締まっており(硬さ：６)、粘性あり。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の1,5cm大のブロックを微量、５㎜大のブロックを少量、３㎜大の粒子を少量、更に細かい粒子を中量、早期ローム層の２cm大のブロックを少量、粘質土の、５㎜大のブロックを少量、骨粉を中量含む。
オレンジ色の混入は、層の上下において顕著であり、層の中位はやや疎らである。

Ⅱ層　10YR黒褐２／２
層はやや軟質であり(硬さ：５)、粘性に富む。層中に、黒色土の１cm大のブロックを多量、スコリアを中量、炭の小片を微量、骨粉を少量、粘質土の粒子を少量含む。

P-10

Ⅲ層　10YR黒褐３／２
層は軟質であり(硬さ：４)、粘性に富む。層中に、黒色土の２cm大のブロックを中量、スコリアを少量、骨粉を少量含む。層の主体を占めるのは粘質土の粒子であり、層中に特に多量含まれる。

Ⅳ層　10YR黒褐３／２
層は軟質であり(硬さ：４)、粘性に富む。層中に、黒色土の1,5cm大のブロックを多量、オレンジ色(阿多orAh)の、1,5cm大のブロックを微量、５㎜大のブロックを少量、骨粉を微量含む。

Ⅴ層　10YR黒褐３／２
層は大変軟質であり(硬さ：３)、粘性に富む。層中に混入物はなく、粘質土のみで構成される。しかし、硬さは遺構壁と明らかに異なっていることから、掘り過ぎではないと判断した。

P-11

Ⅰ層　10YR暗褐３／４
層は軟質であり(硬さ：４)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の５㎜大のブロックを微量、粘質土の３㎜大の粒子を少量、粒子を中量、阿多火砕流直上漸移層の１cm大のブロックを少量、炭の小片を少量、焼土と思われる赤色粒子を微量、被熱した角礫、円礫をそれぞれ微量、土器片を微量含む。

Ⅱ層　10YR暗褐３／４
層は大変軟質であり(硬さ：３)、粘性に富む。層中に、粘質土の３cm大のブロックを中量、焼けた小角礫を微量、炭の小片を少量、骨粉を微量含む。層中の混入物は減少する。

Ⅲ層　(平均的な色調は)10YR黒褐３／２
層は軟質であり(硬さ：４)、粘性は部分的に差異が大きいが、全体的に粘性に富む。層中に、骨粉を少量、黒色土の２cm大のブロックを少量、１cm大のブロックを中量、粘質土の１cm大のブロックを中量、オレンジ色の１cm大のブロックを少量含む。混入するブロックの大きさが似通っている点が特徴である。

Ⅳ層　10YR黒褐２／２
層は大変軟質であり(硬さ：３)、粘性に富む。層中に、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を少量、骨粉を少量、炭の小片を少量含む。

Ⅴ層　7,5YR黒２／１
層はやや軟質であり(硬さ：５)、粘性に富む。層中に、骨粉を特に多量、焼土と思われる赤色粒子を少量、炭の小片を中量含む。層は、輪郭が定かでないものの、各種ブロックが混在して形成されており、斑紋が見られる。

P-12

Ⅰ層　(平均的な色調は)10YRにぶい黄褐４／３
層は大変軟質であり(硬さ：３)、粘性は部分的に開きがあるが、平均すると「あり」。層中に、オレンジ色（阿多orAh）の３cm大のブロックを微量、１cm大のブロックを少量、粒子を多量、粘質土の、１cm大のブロックを多量、粒子を多量、黒色土の１cm大のブロックを中量、骨粉を少量含む。
それぞれのブロックに部分的な濃淡はない。

Ⅱ層　10YR黒褐３／２
層は大変軟質であり(硬さ：３)、粘性あり。層中に、白色粒子を中量、炭の小片を微量、スコリアを少量、オレンジ色(阿多orAh)の粒子を中量、黒色土の５㎜大のブロックを微量、焼礫の欠片を微量含む。

Ⅲ層　10YR褐４／４
層は著しく軟質であり(硬さ：２)、粘性に富む。層中に、粘質土の大小のブロックを特に多量、黒色土の１cm大のブロックを中量含む。他に、白色粒子を少量、スコリアを微量含む。粘質土が主体であるが、黒色土のブロックや硬さの違いから、掘り過ぎではないと判断した。但し、下の土と似ているため、一度掘り返された土が、そのままここに埋められたと考えられる。

（ＳＸ－02）

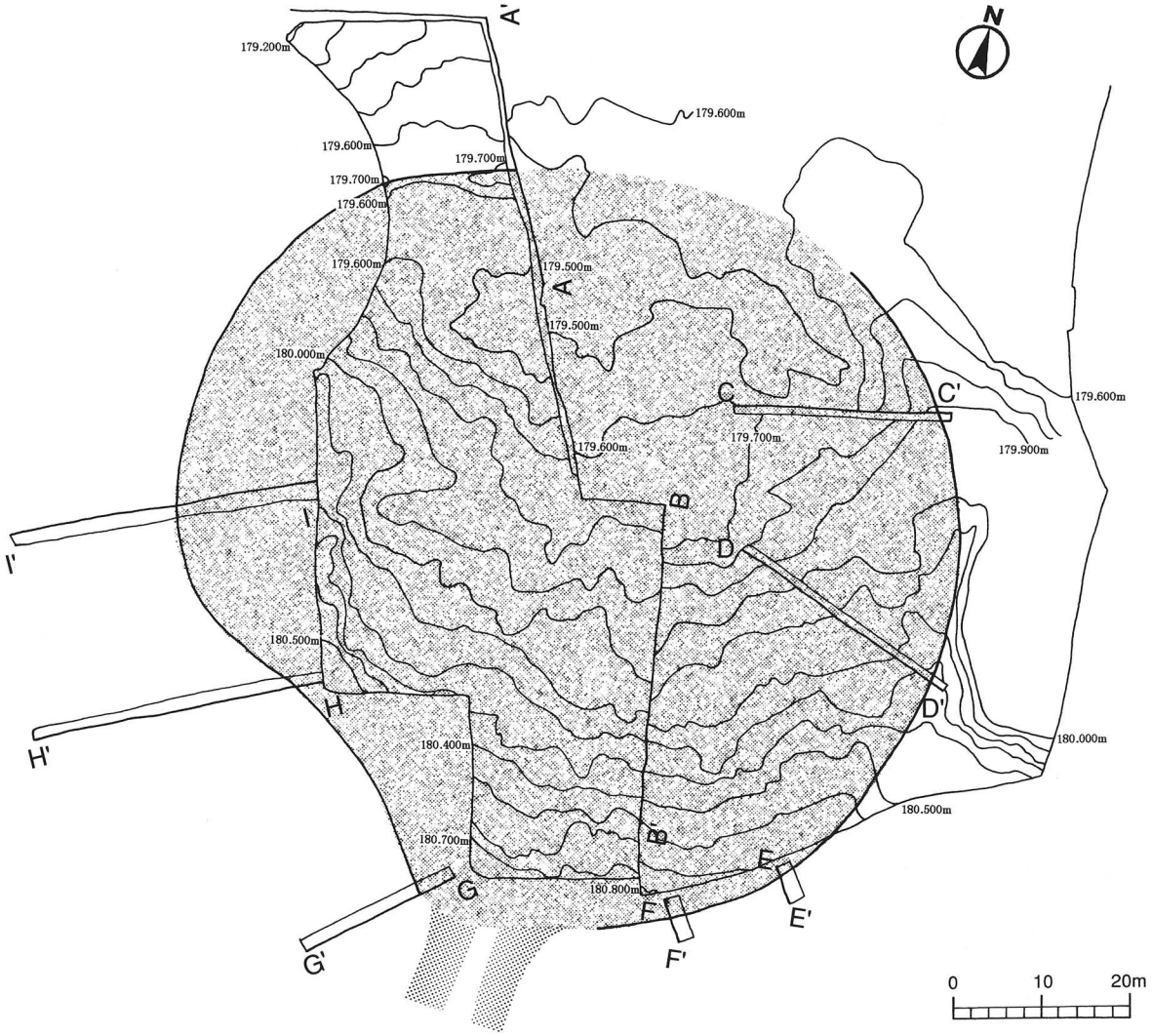
Ｃ区南西部、中央配石の北東で検出した。径450cmのやや歪な楕円形を呈する。遺構は風倒木痕と一部重複する。遺構内にはピット等は検出されなかった。覆土中より、熱による赤変の認められる大型の切目石錘が出土した。深さは20cmであるが、遺構底面は阿多火砕流に達している。

（ＳＸ－03）

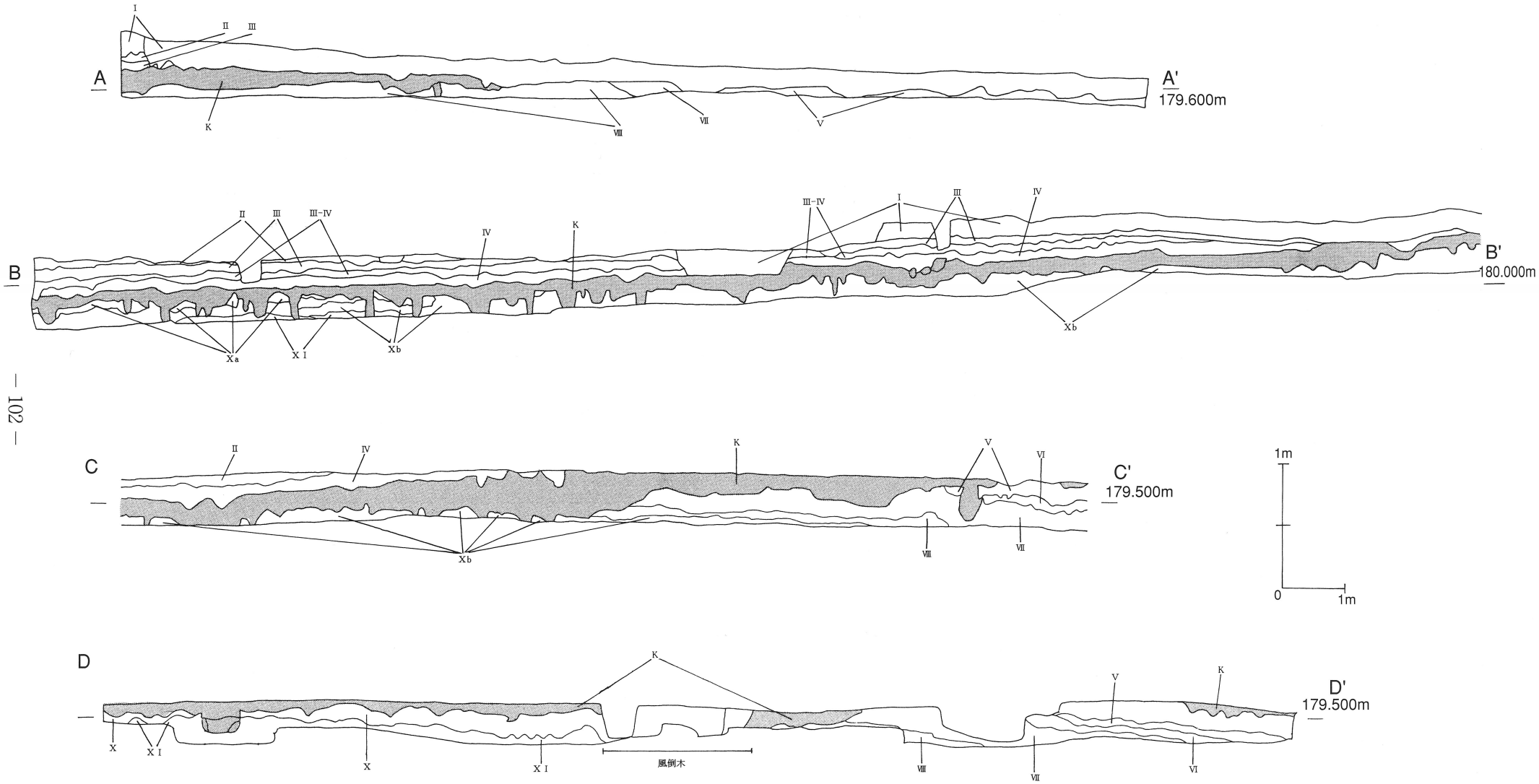
Ｃ区南西部、中央配石の北西で検出した。長軸850cm、短軸750cmの歪な楕円形を呈する。遺構中央部付近にはピットが集中していた。覆土中より３個体の台付皿形土器が出土した。遺構の深さは中央部で20cmであり、底面は阿多火砕流に達する。

（ＳＸ－04）

Ｃ区西部、中央配石の北西で検出した。長軸500cm、短軸400cmの楕円形を呈する。遺構中央にはピットを検出した。覆土中より台付皿形土器を２個体出土した。遺構の深さは



第６１図　窪地遺構土層断面照合図及び整地範囲（予想含む）



第62図　窪地遺構土層断面図（1）　※縮尺の縦横比を加工した。